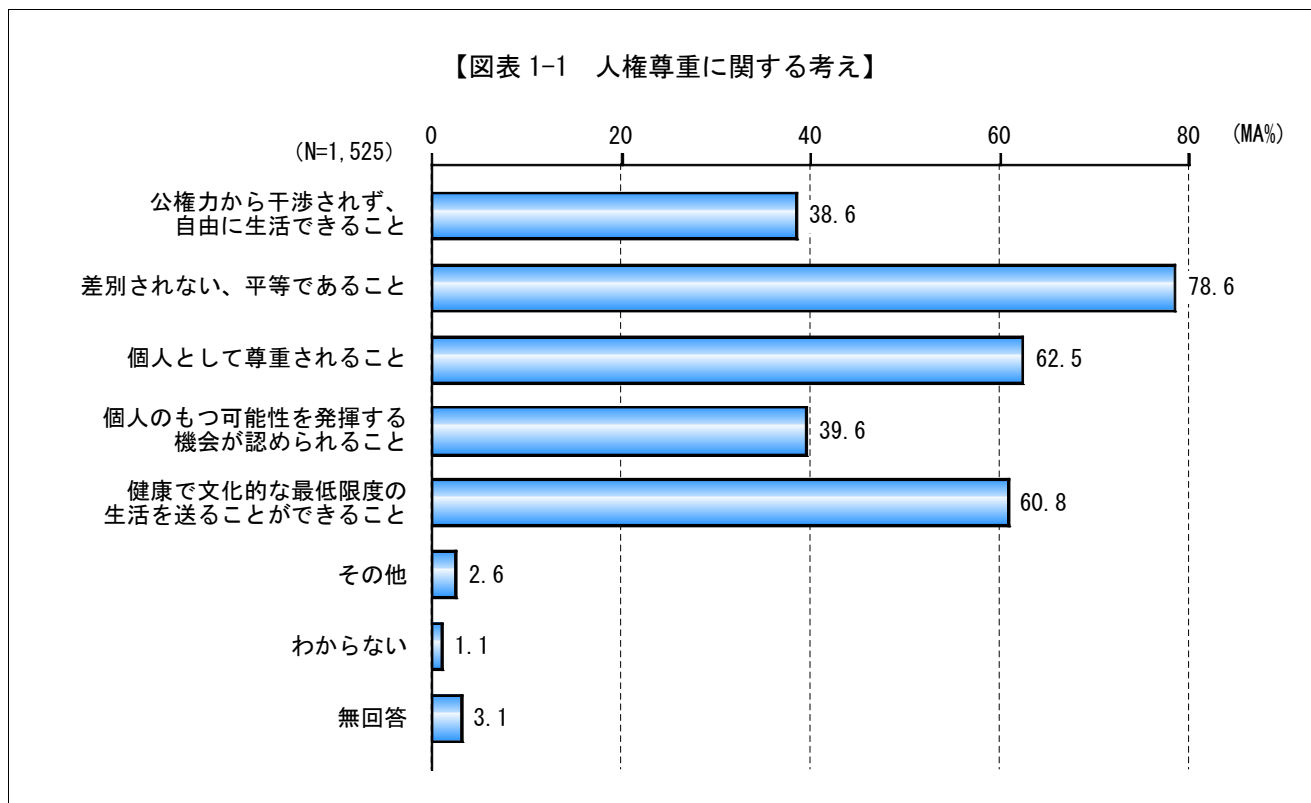


第 1 部 質問項目別調査結果

第1章 人権に関する一般的な考え方や認識について

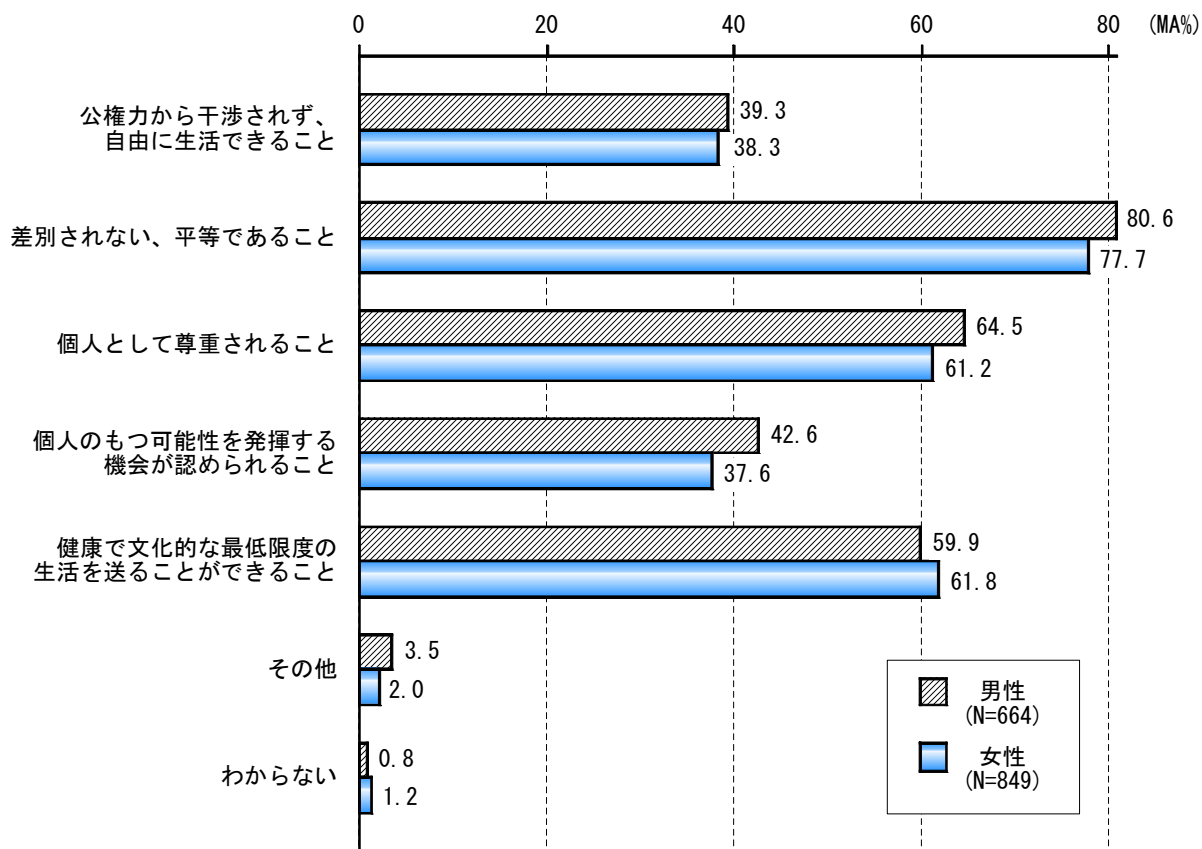
1. 人権尊重に関する考え

問1 あなたは、「人権が尊重される」とはどういうことだと思いますか。いくつでも選んで○をつけてください。



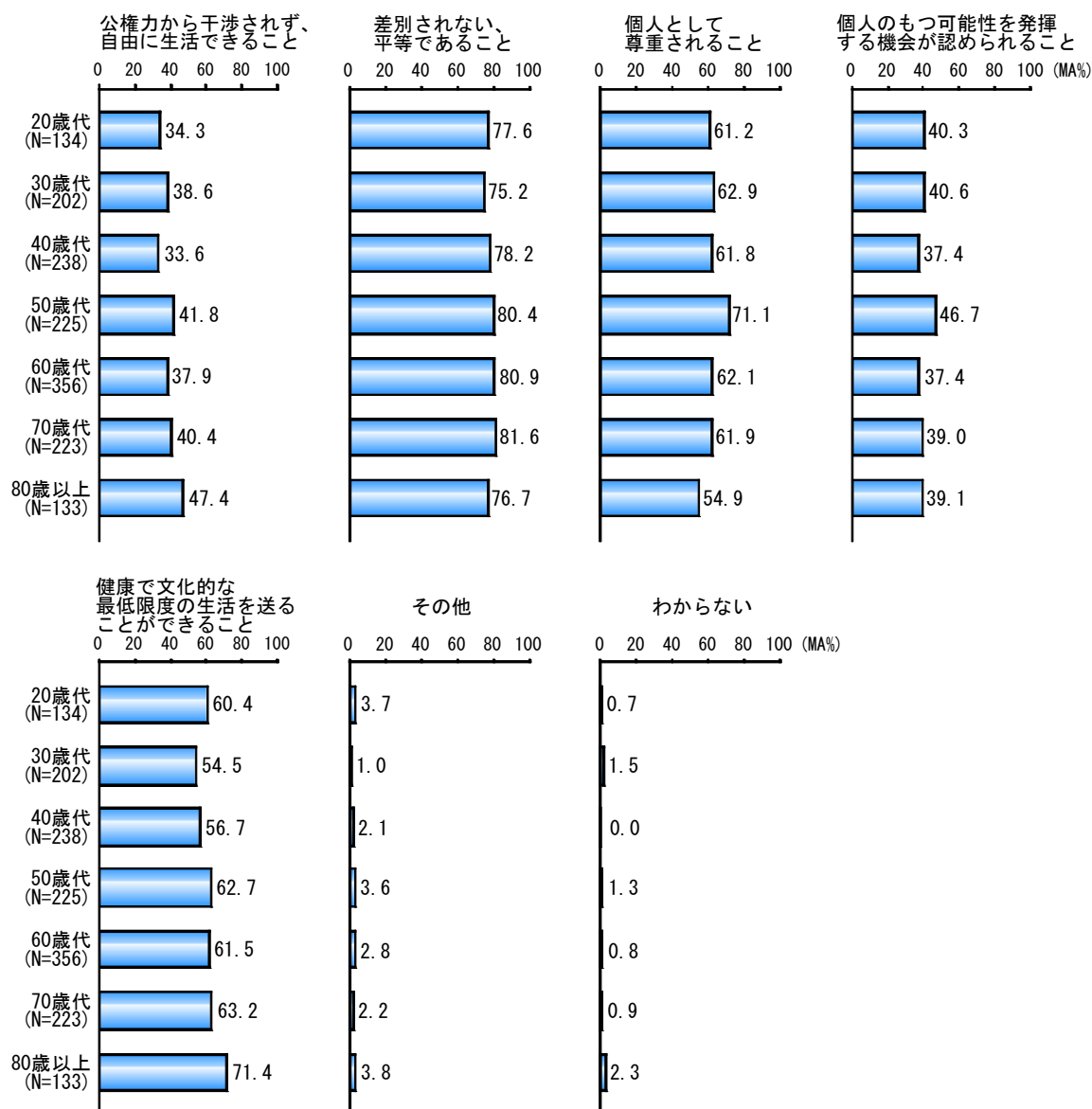
「人権が尊重される」とはどういうことだと思うかたずねたところ、「差別されない、平等であること」が 78.6%と最も高く、次いで「個人として尊重されること」62.5%、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができること」60.8%などとなっている。(図表 1-1)

【図表 1-1-1 性別 人権尊重に関する考え】



性別に人権尊重に関する考えをみたところ、「差別されない、平等であること」が男性（80.6%）、女性（77.7%）ともに各々8割前後と最も高くなっている。これに続くのが、男性では「個人として尊重されること」で64.5%、女性では「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができること」で61.8%などとなっている。（図表 1-1-1）

【図表 1-1-2 年齢別 人権尊重に関する考え】



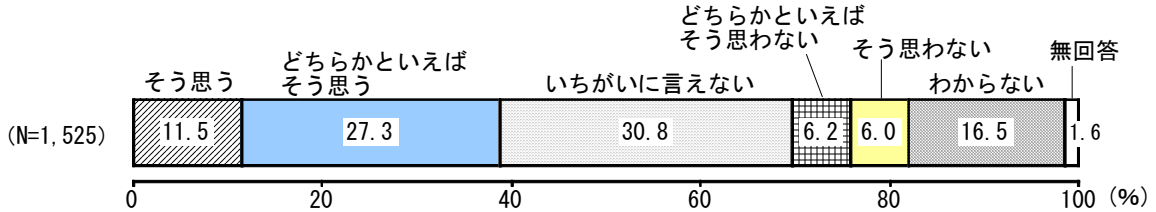
年齢別に人権尊重に関する考えをみたところ、いずれの年代においても「差別されない、平等であること」が最も高く7～8割台となっている。また、50歳代において「個人として尊重されること」が71.1%、「個人のもつ可能性を発揮する機会が認められること」が46.7%、80歳以上において「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができること」が71.4%、「公権力から干渉されず、自由に生活できること」が47.4%と、それぞれ他の年齢層に比べて特に高くなっている。(図表 1-1-2)

2. 人権尊重の感じ方

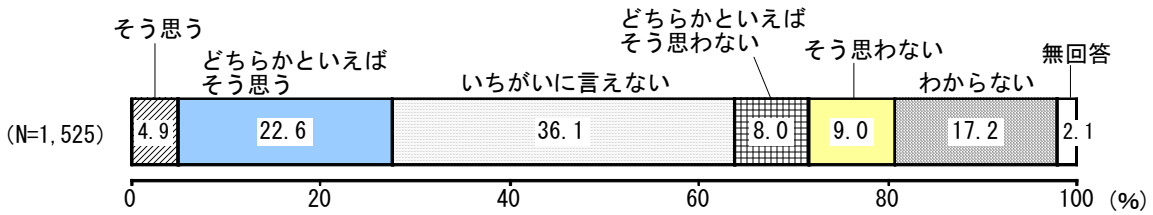
問2-1 人権を取り巻く社会の状況について、あなたはどのように思いますか。次の各事項ごとにあてはまる番号1つに○をつけてください。

【図表 1-2 人権尊重の感じ方】

<ア. 府民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている>



<イ. 京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっている>

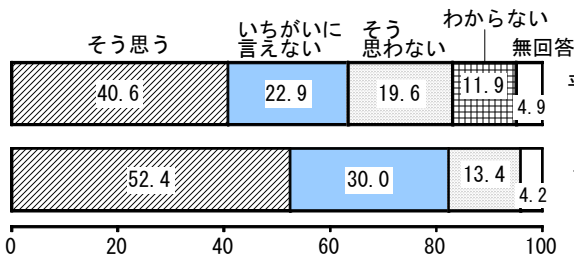


人権尊重の感じ方として2項目についてたずねたところ、『ア. 府民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている』において、“そう思う”という割合（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計）は38.8%となっている。

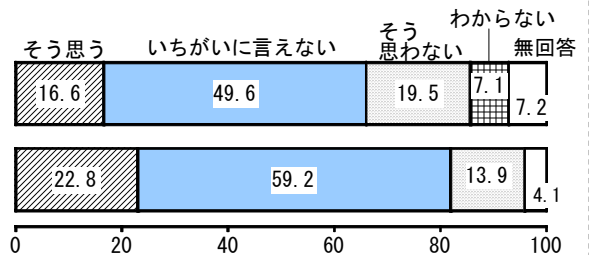
『イ. 京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっている』では、“そう思う”という割合は27.5%となっている。（図表 1-2）

〔（参考）平成13年度・平成5年度調査結果〕 ※前回調査までは設問の対象が“国民”や“日本”となっている。

<ア. 国民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている>

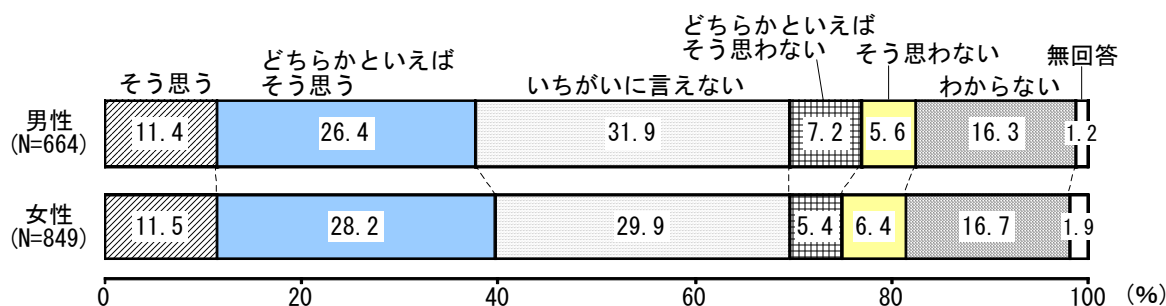


<イ. 今の日本は、基本的人権が尊重されている社会である>



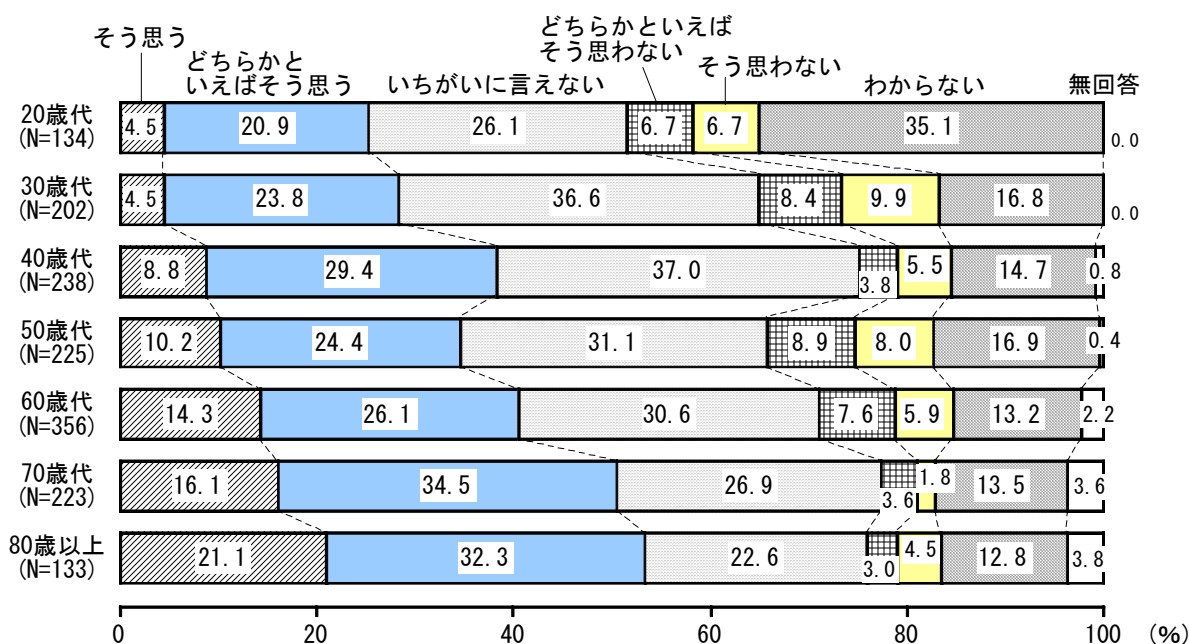
※「わからない」は平成13年度より新たに選択肢として設けられた。

【図表 1-2-1 性別 人権尊重の感じ方『ア. 府民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている』】



性別に人権尊重の感じ方として『ア. 府民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている』についてみたところ、“そう思う”という割合（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計）は、男性37.8%に対し、女性39.7%と、女性のほうが1.9ポイント高くなっている。（図表 1-2-1）

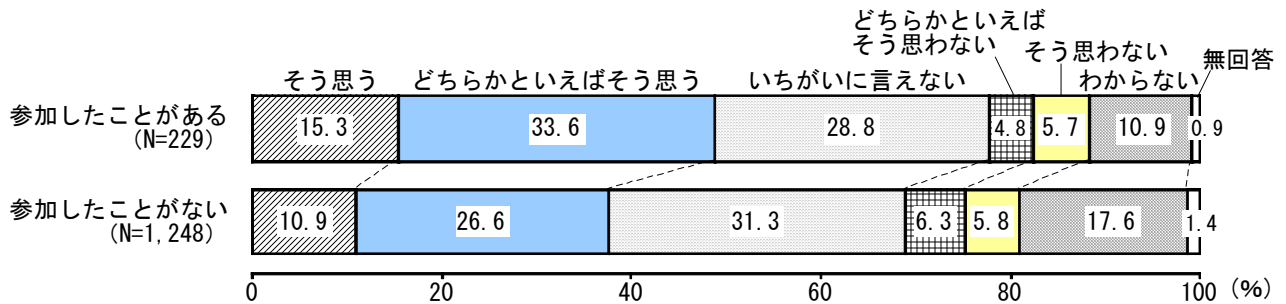
【図表 1-2-2 年齢別 人権尊重の感じ方『ア. 府民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている』】



年齢別に人権尊重の感じ方として『ア. 府民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている』についてみたところ、“そう思う”という割合（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計）は、80歳以上において53.4%と最も高く、20歳代で25.4%と最も低くなっている。また、年齢が上がるにしたがって、概ね割合は高くなる傾向にある。（図表 1-2-2）

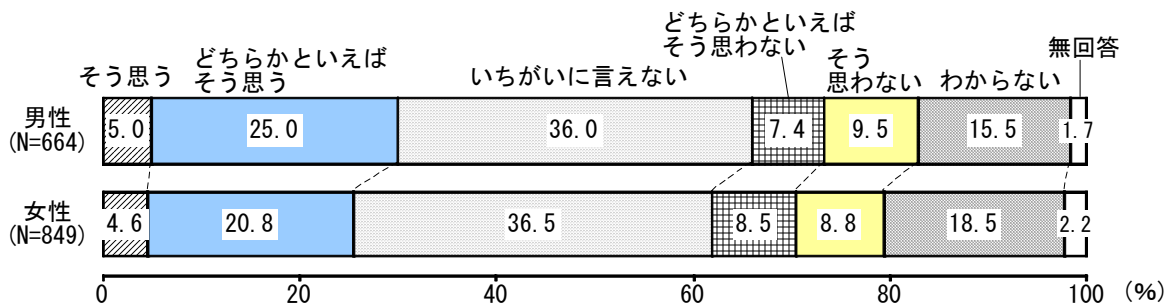
【図表 1-2-3 人権研修等への参加経験(問11)別

人権尊重の感じ方『ア. 府民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている』



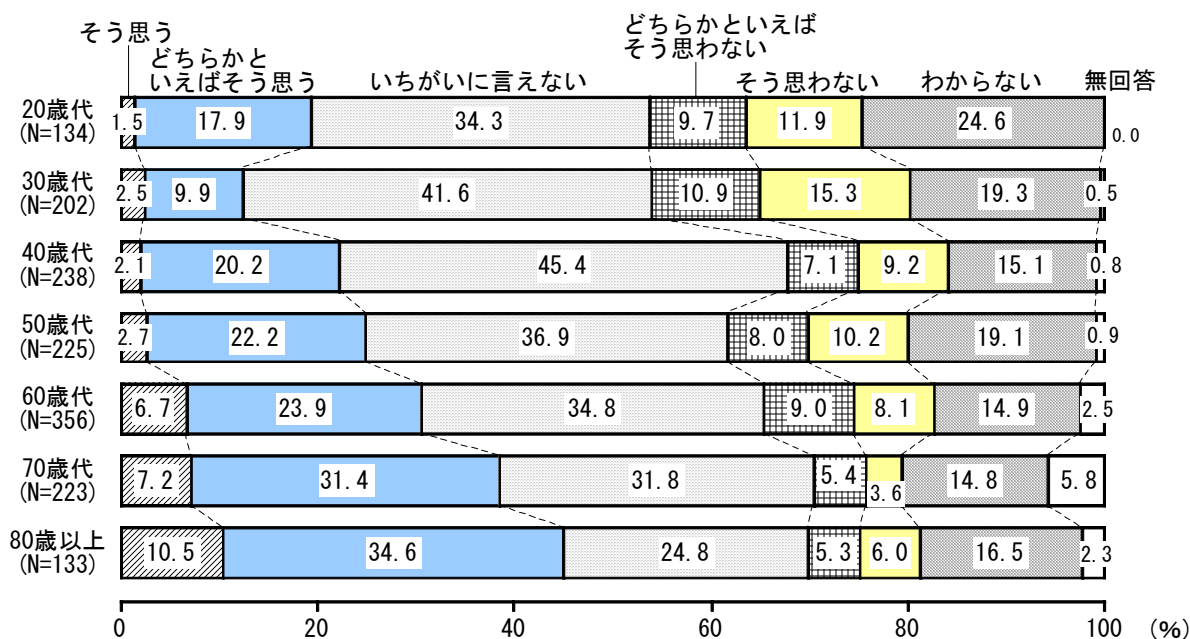
人権研修等への参加経験（問11）別に人権尊重の感じ方として『ア. 府民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている』についてみたところ、“そう思う”という割合（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計）は、参加したことがある人で48.9%に対し、参加したことがない人では37.5%と、参加したことがある人のほうが11.4ポイント高くなっている。（図表1-2-3）

【図表 1-2-4 性別 人権尊重の感じ方『イ. 京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっている』



性別に人権尊重の感じ方として『イ. 京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっている』についてみたところ、“そう思う”という割合（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計）は、男性30.0%に対し、女性25.4%と、男性のほうが4.6ポイント高くなっている。（図表1-2-4）

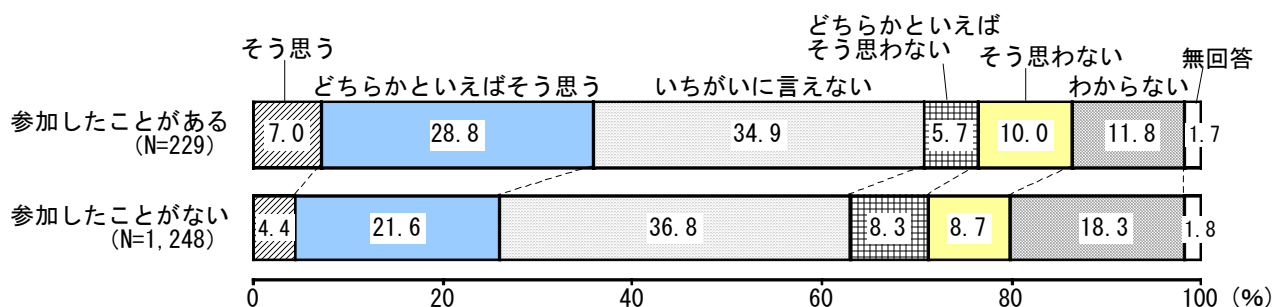
【図表 1-2-5 年齢別 人権尊重の感じ方『イ. 京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっている』】



年齢別に人権尊重の感じ方として『イ. 京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっている』についてみたところ、“そう思う”という割合（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計）は、80歳以上においては45.1%と最も高く、30歳代では12.4%と最も低くなっている。また、年齢が上がるにしたがって、概ね割合は高くなる傾向にある。（図表 1-2-5）

【図表 1-2-6 人権研修等への参加経験（問 11）別

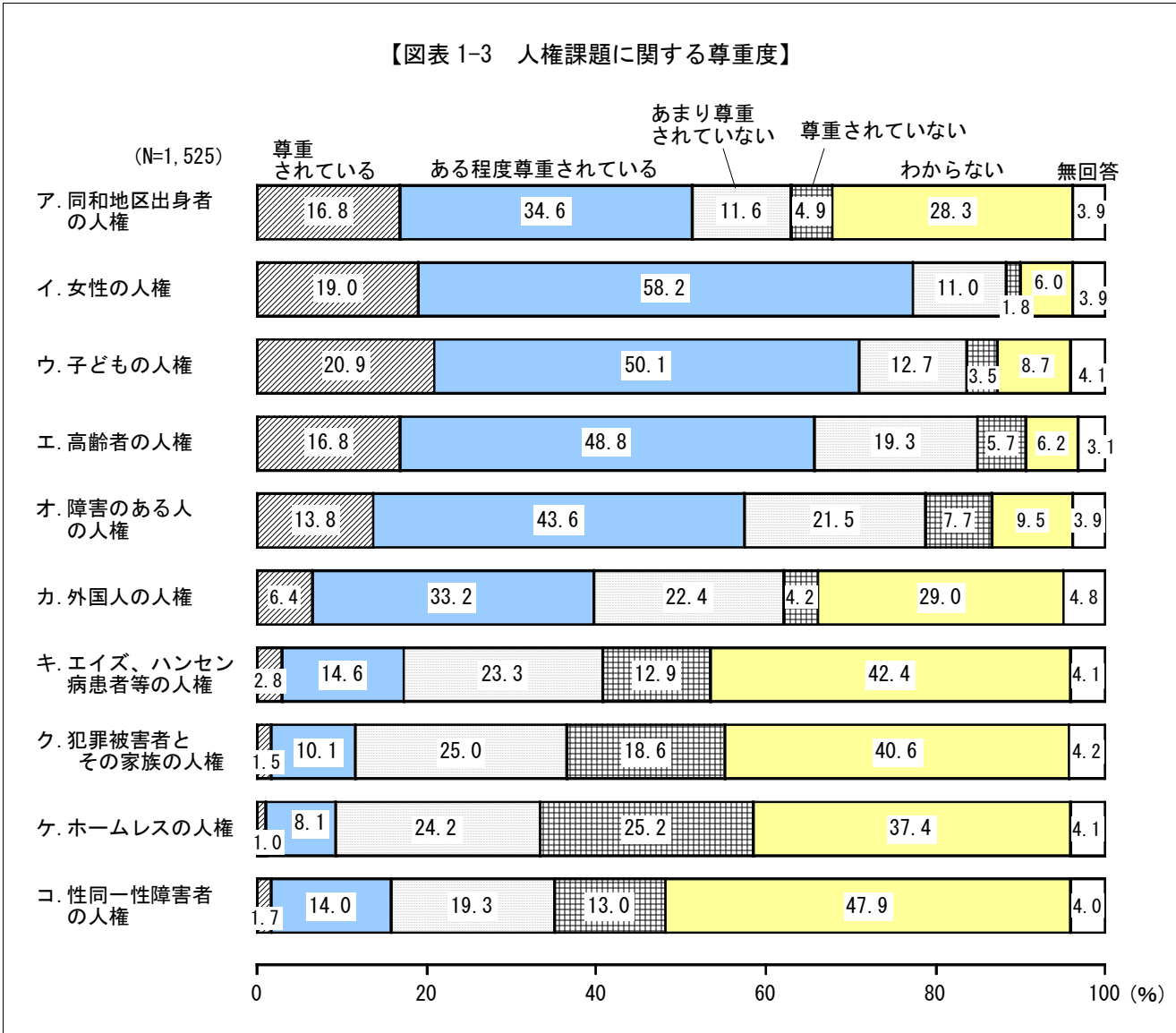
人権尊重の感じ方『イ. 京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっている』】



人権研修等への参加経験（問 11）別に人権尊重の感じ方として『イ. 京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっている』についてみたところ、“そう思う”という割合（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計）は、参加したことがある人で35.8%に対し、参加したことがない人では26.0%と、参加したことがある人のほうが9.8ポイント高くなっている。（図表 1-2-6）

3. 人権課題に関する尊重度

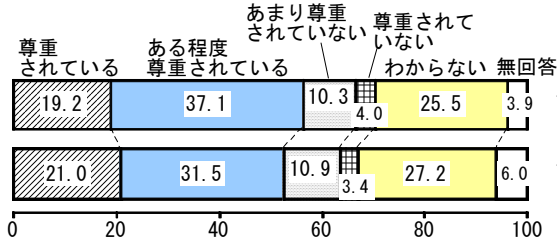
問2-2 あなたは、次にあげた人権が尊重されていると思いますか。ア～コの各事項ごとにあてはまる番号1つに○をつけてください。



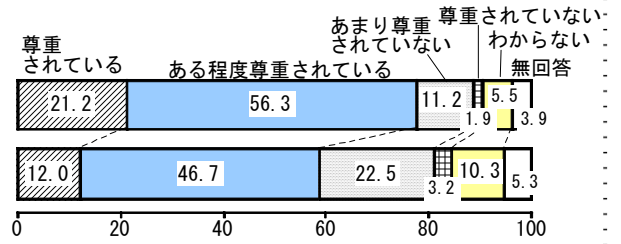
人権課題に関する尊重度として10項目についてたずねたところ、「尊重されている」という割合（「尊重されている」「ある程度尊重されている」の計）は『イ. 女性の人権』で77.2%と最も高く、次いで『ウ. 子どもの人権』71.0%、『エ. 高齢者の人権』65.6%などとなっている。一方、「尊重されていない」という割合（「あまり尊重されていない」「尊重されていない」の計）では『ケ. ホームレスの人権』で49.4%と最も高く、次いで『ク. 犯罪被害者とその家族の人権』43.6%、『キ. エイズ、ハンセン病患者等の人権』36.2%などとなっている。（図表 1-3）

〔参考〕経年比較 ※平成23年度については「京都市」を除いた値で集計している。

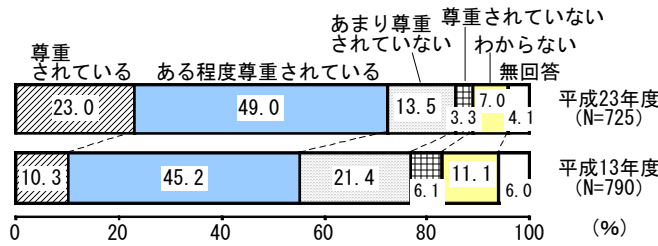
<ア. 同和地区出身者の人権>



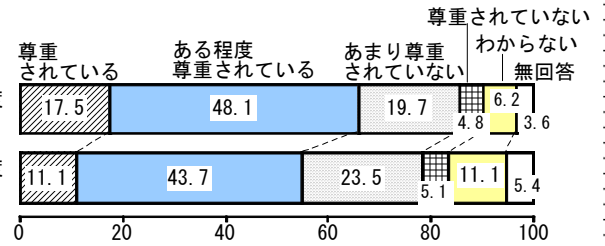
<イ. 女性の人権>



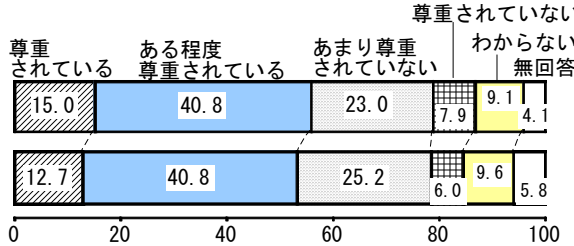
<ウ. 子どもの人権>



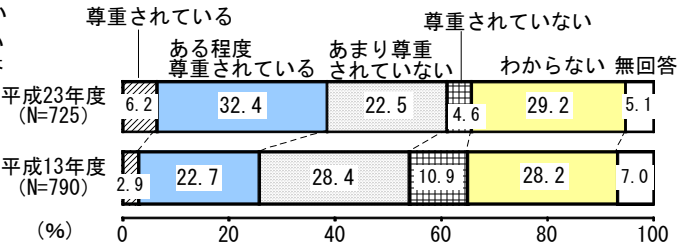
<エ. 高齢者の人権>



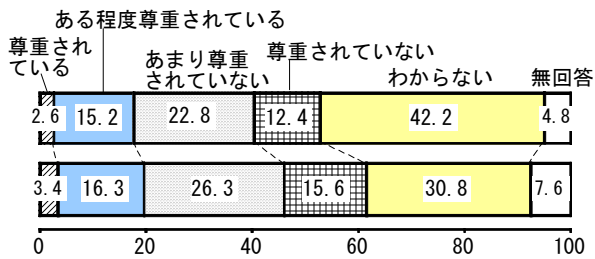
<オ. 障害のある人の人権>



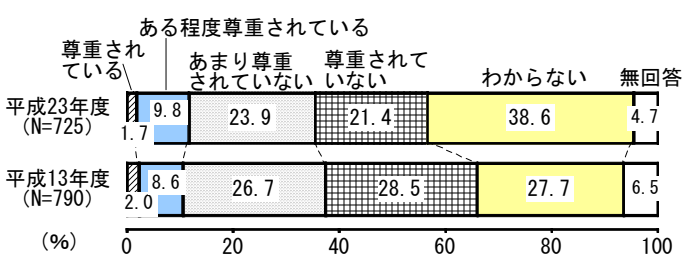
<カ. 外国人の人権>



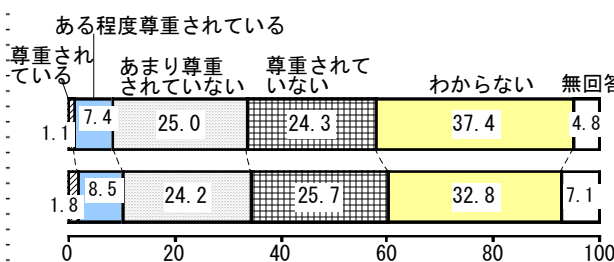
<キ. エイズ、ハンセン病患者等の人権>



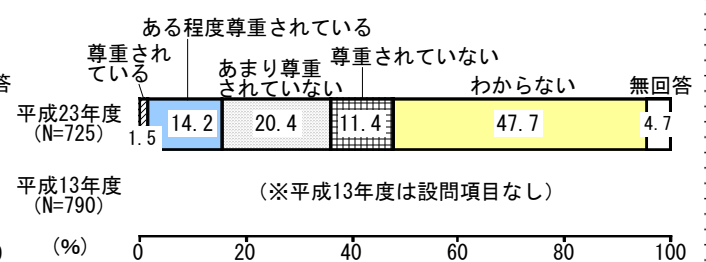
<ク. 犯罪被害者とその家族の人権>



<ケ. ホームレスの人権>

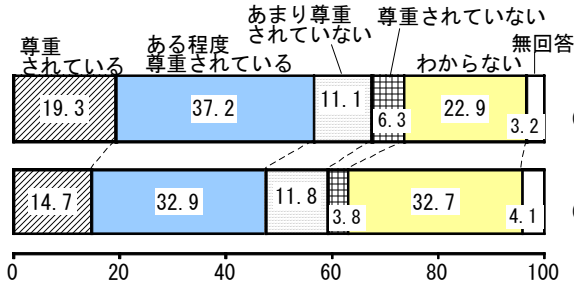


<コ. 性同一性障害者の人権>

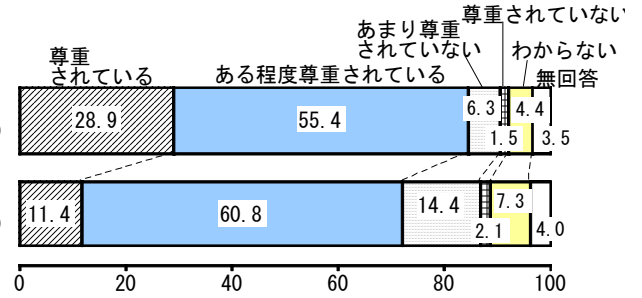


【図表 1-3-1 性別 人権課題に関する尊重度】

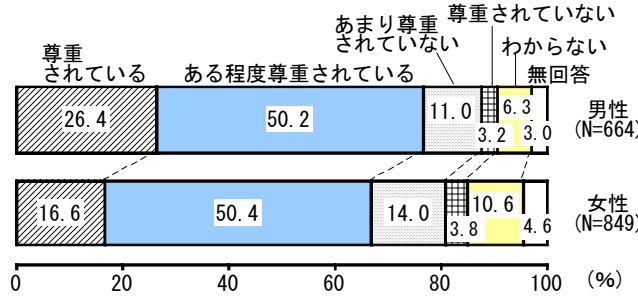
<ア. 同和地区出身者の人権>



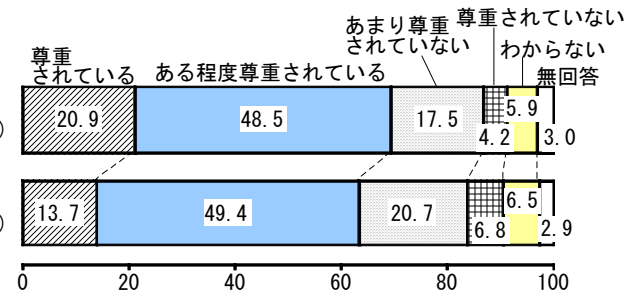
<イ. 女性の人権>



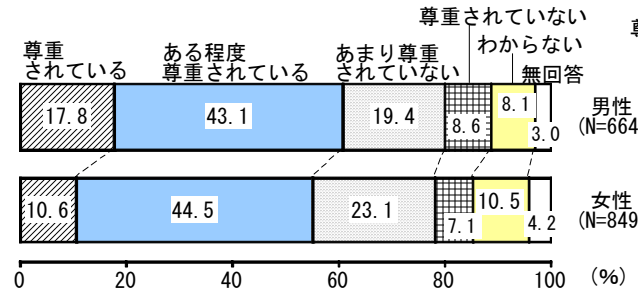
<ウ. 子どもの人権>



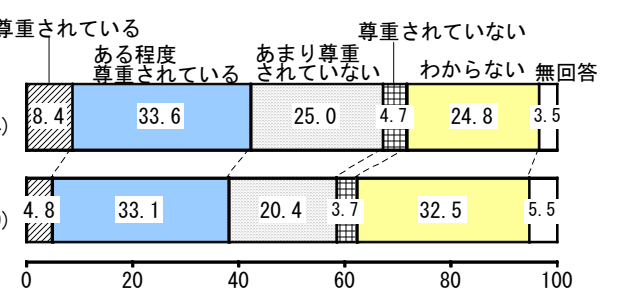
<エ. 高齢者の人権>



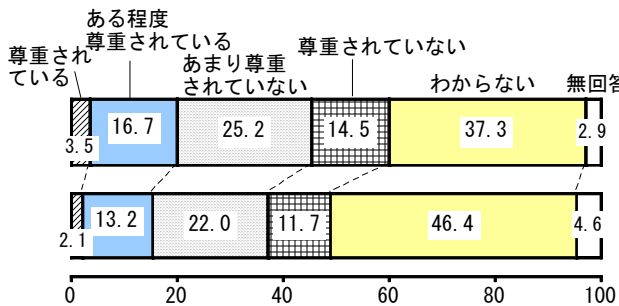
<オ. 障害のある人の人権>



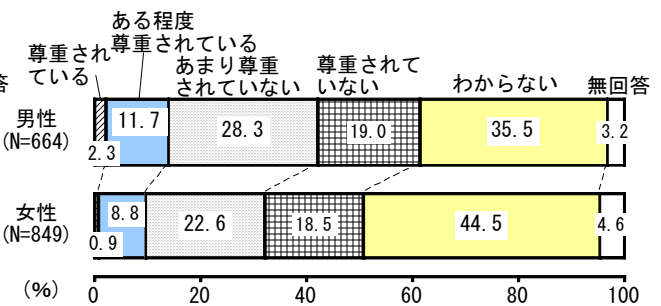
<カ. 外国人の人権>



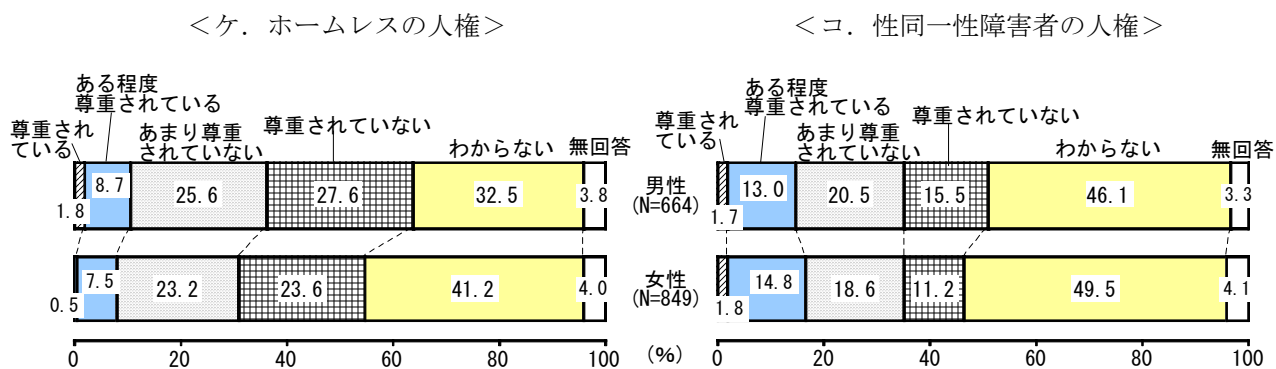
<キ. エイズ、ハンセン病患者等の人権>



<ク. 犯罪被害者とその家族の人権>



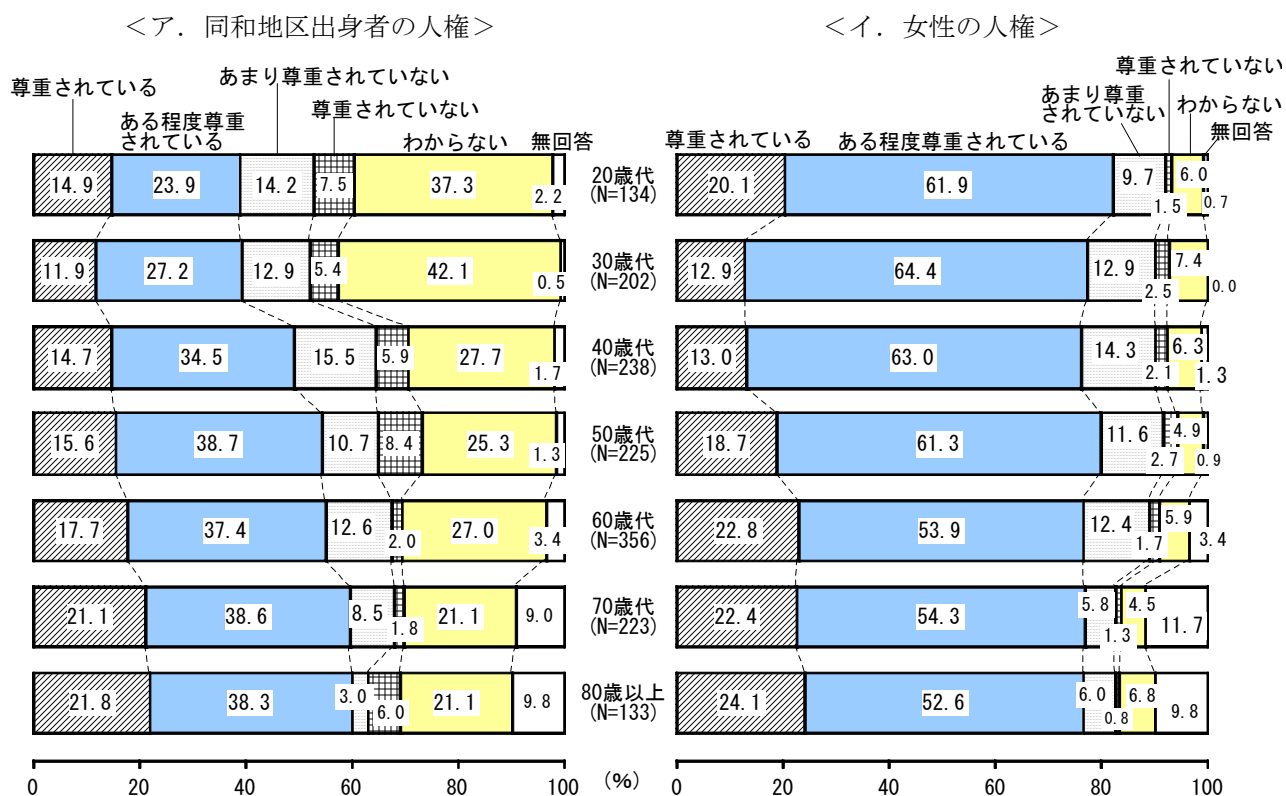
【図表 1-3-1 性別 人権課題に関する尊重度】



性別に人権課題に関する尊重度をみたとところ、「尊重されている」という割合（「尊重されている」「ある程度尊重されている」の計）は、『イ. 女性の人権』が男性で84.3%、女性で72.2%と、ともに最も高くなっている。また、概ねいずれの項目においても女性に比べて男性のほうが高い割合となっている。

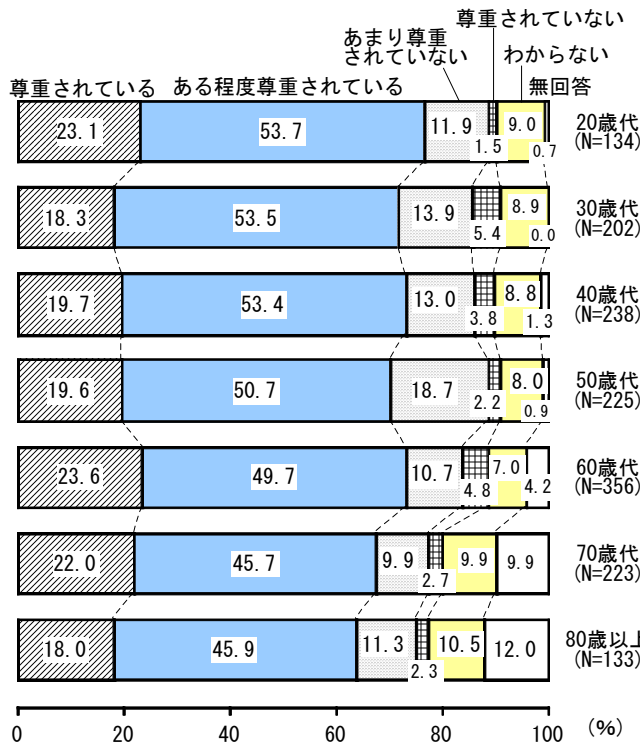
一方、「わからない」はいずれの項目においても、男性に比べて女性のほうが高くなっている。（図表 1-3-1）

【図表 1-3-2 年齢別 人権課題に関する尊重度】

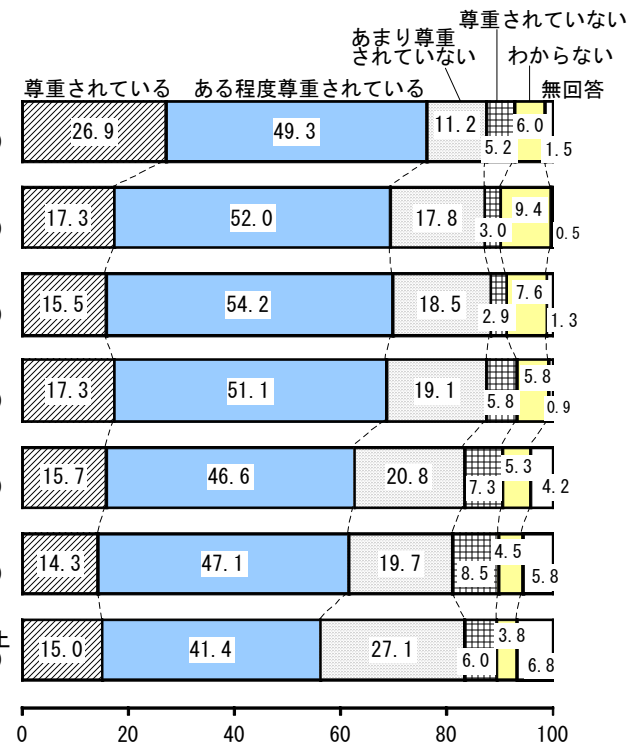


【図表 1-3-2 年齢別 人権課題に関する尊重度】

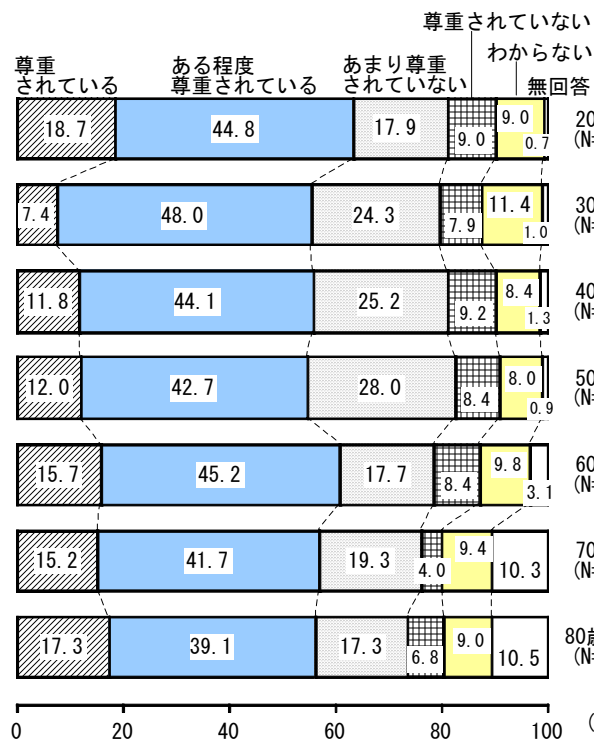
<ウ. 子どもの人権>



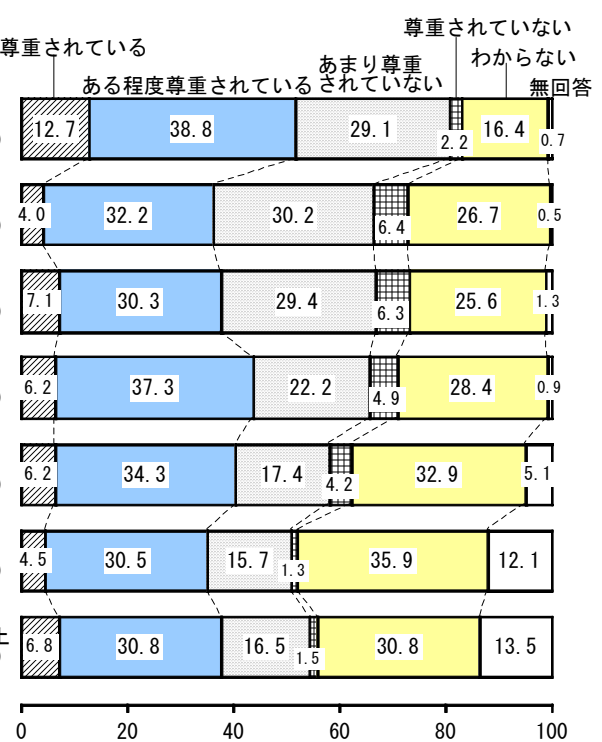
<エ. 高齢者の人権>



<オ. 障害のある人の人権>



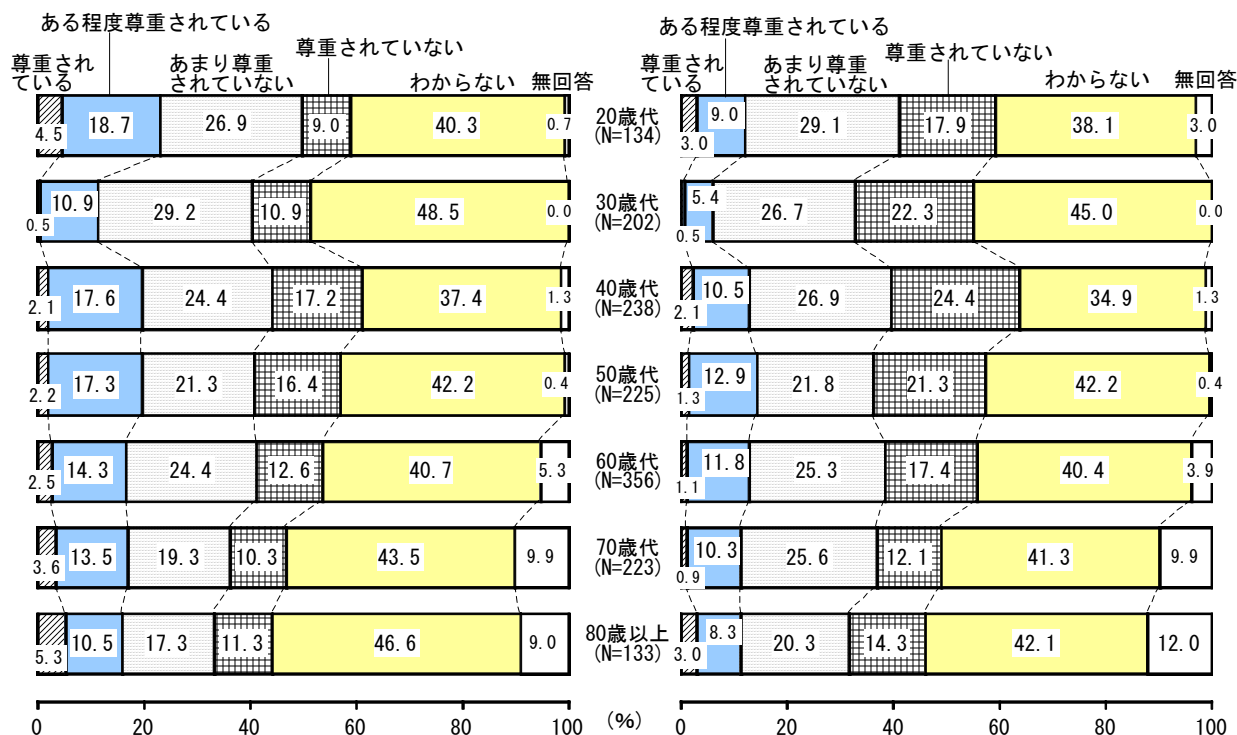
<カ. 外国人の人権>



【図表 1-3-2 年齢別 人権課題に関する尊重度】

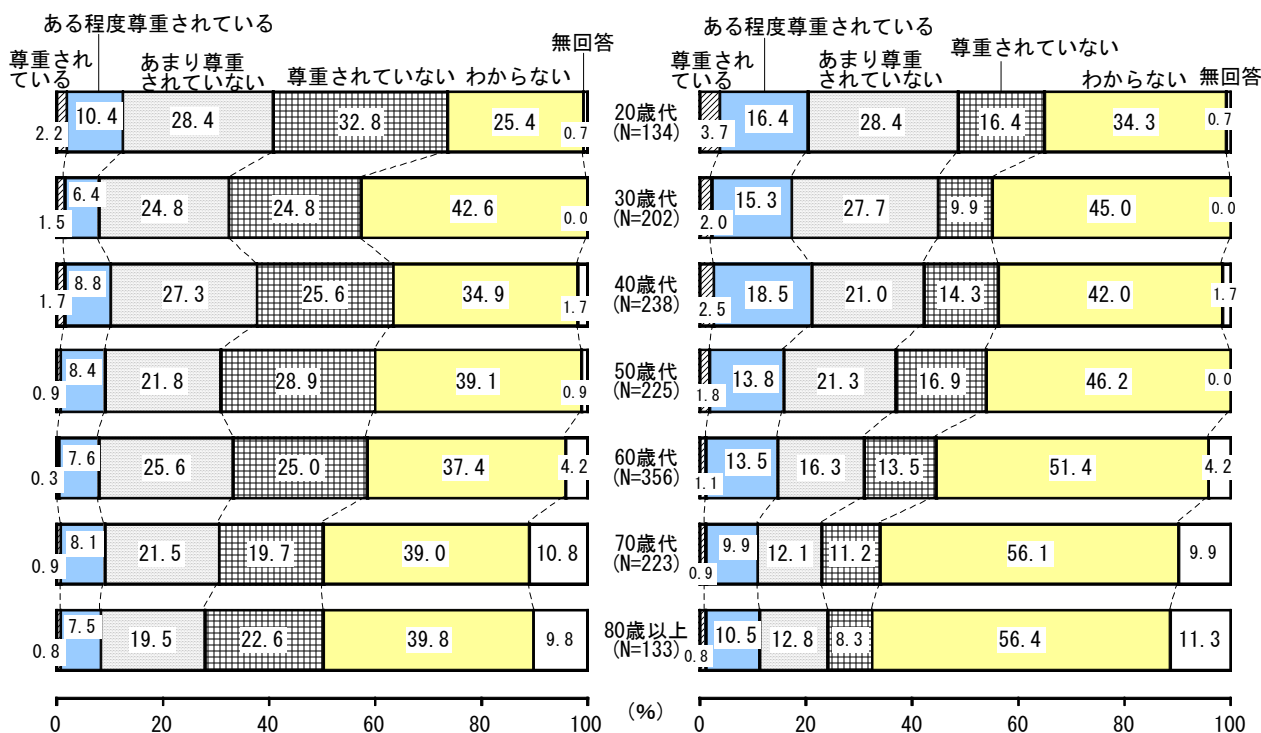
<キ. エイズ、ハンセン病患者等の人権>

<ク. 犯罪被害者とその家族の人権>



<ケ. ホームレスの人権>

<コ. 性同一性障害者の人権>

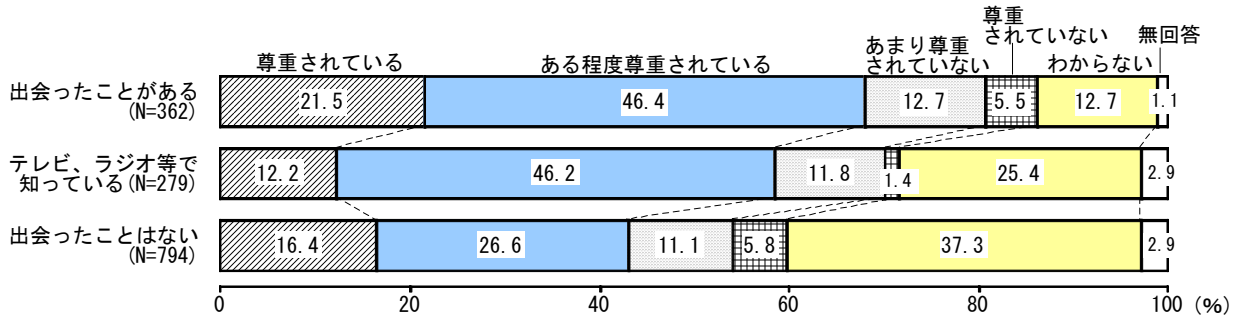


年齢別に人権課題に関する尊重度をみたところ、「尊重されている」という割合（「尊重されている」「ある程度尊重されている」の計）は、概ねいずれの項目においても20歳代で最も高くなっている。また、「尊重されている」が『エ. 高齢者の人権』で26.9%と特に高い。

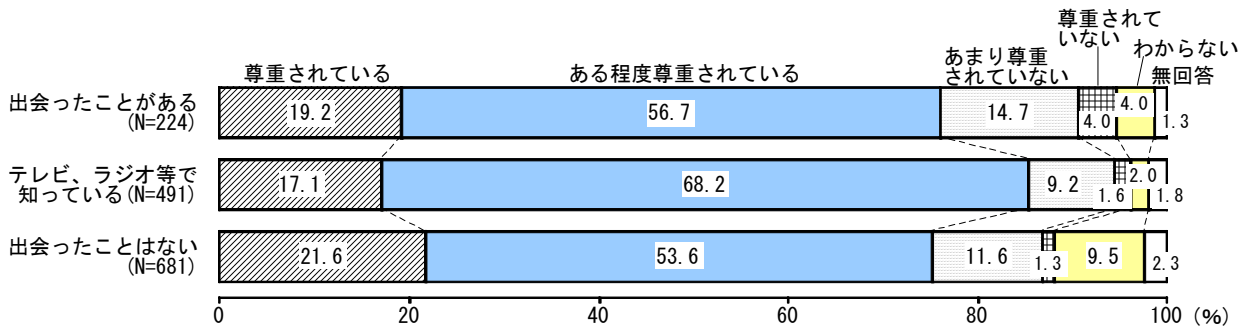
一方、『ア. 同和地区出身者の人権』については、「尊重されている」という割合は80歳以上（60.1%）、70歳代（59.7%）で約6割を占め、20～30歳代では「わからない」が各々4割前後みられる。（図表1-3-2）

【図表1-3-3 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況（問14）別 人権課題に関する尊重度】

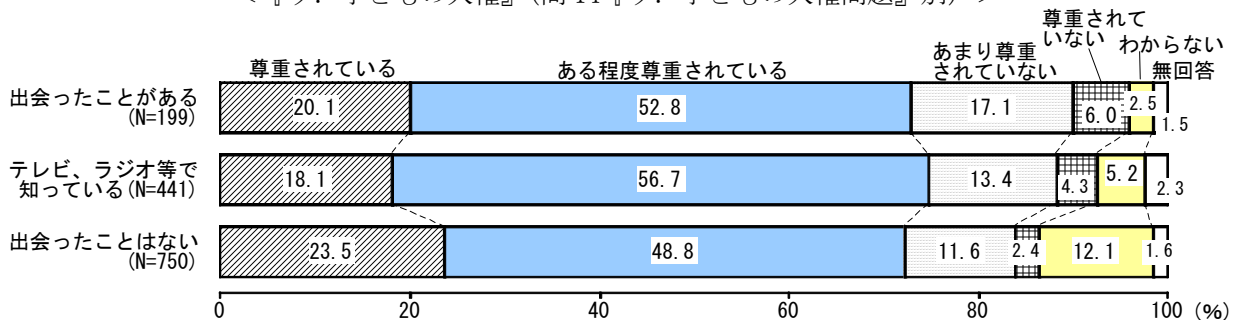
< 『ア. 同和地区出身者の人権』（問14『ア. 同和问题』別） >



< 『イ. 女性の人権』（問14『イ. 女性の人権問題』別） >

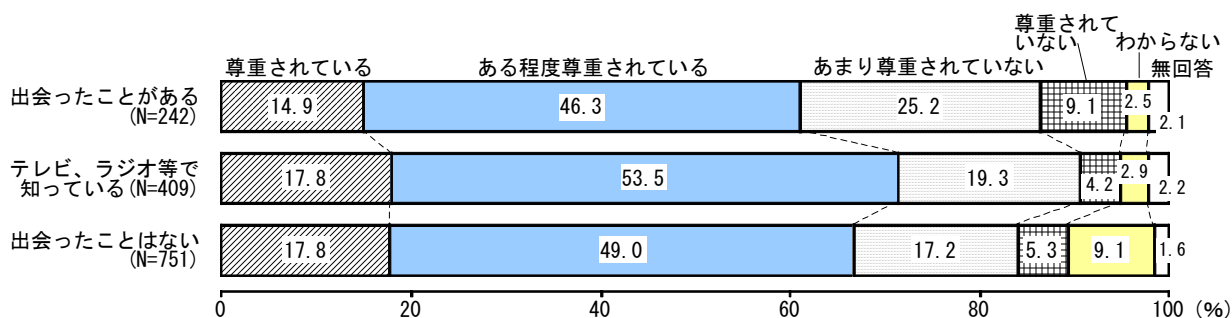


< 『ウ. 子どもの人権』（問14『ウ. 子どもの人権問題』別） >

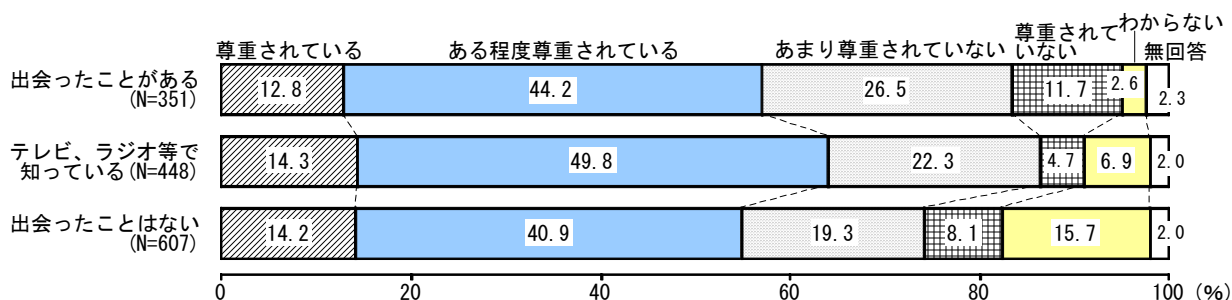


【図表 1-3-3 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況(問14)別 人権課題に関する尊重度】

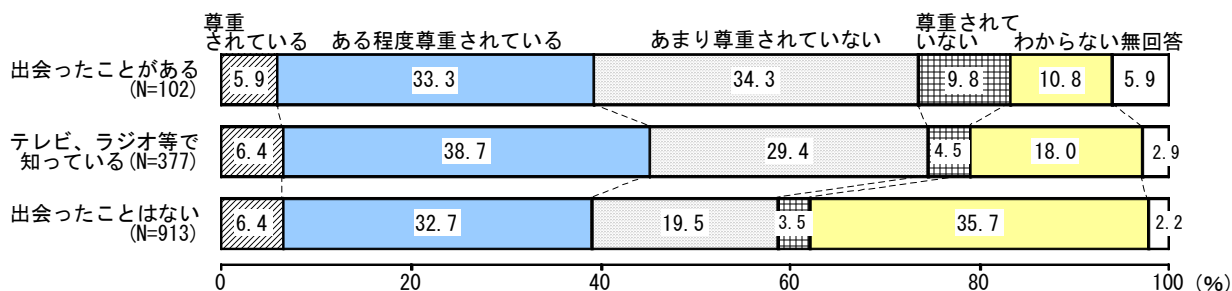
<『エ. 高齢者の人権』(問14『エ. 高齢者の人権問題』別)>



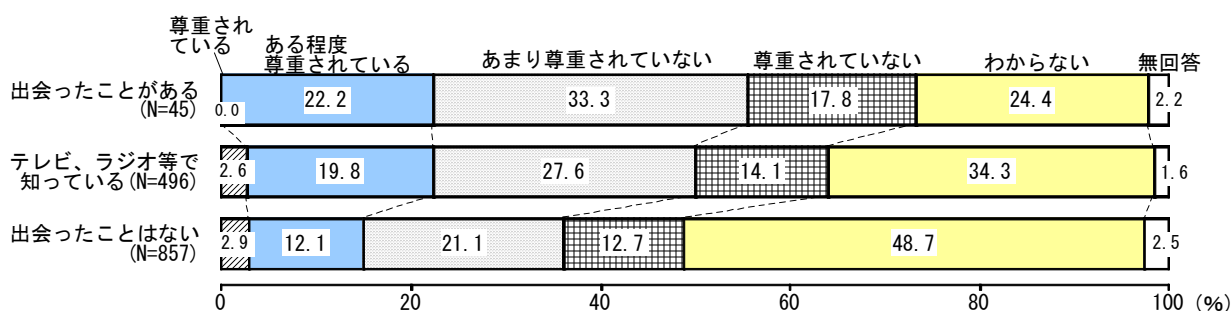
<『オ. 障害のある人の人権』(問14『オ. 障害のある人の人権問題』別)>



<『カ. 外国人の人権』(問14『カ. 外国人の人権問題』別)>

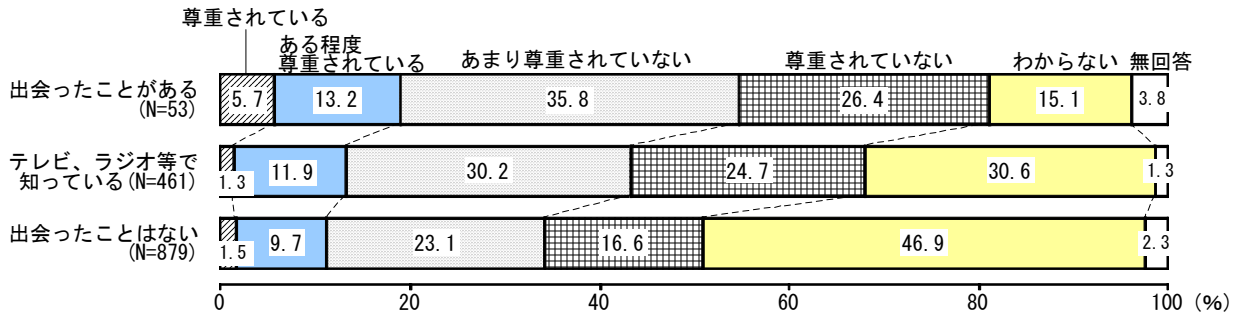


<『キ. エイズ、ハンセン病患者等の人権』(問14『キ. エイズ、ハンセン病患者等の人権問題』別)>

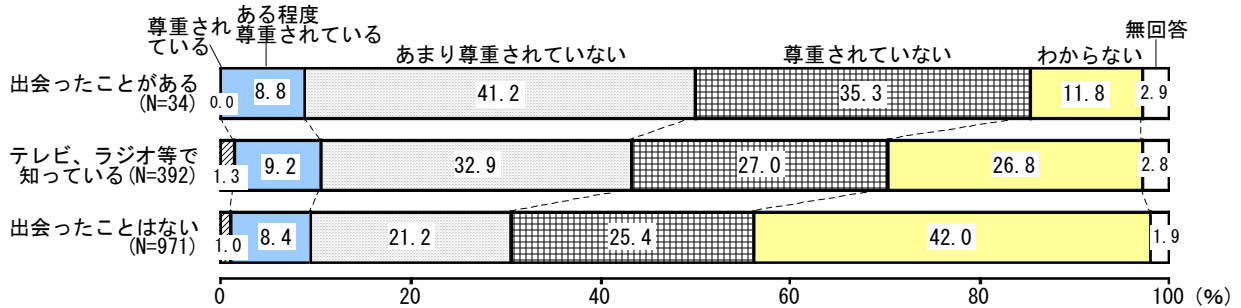


【図表 1-3-3 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況(問14)別 人権課題に関する尊重度】

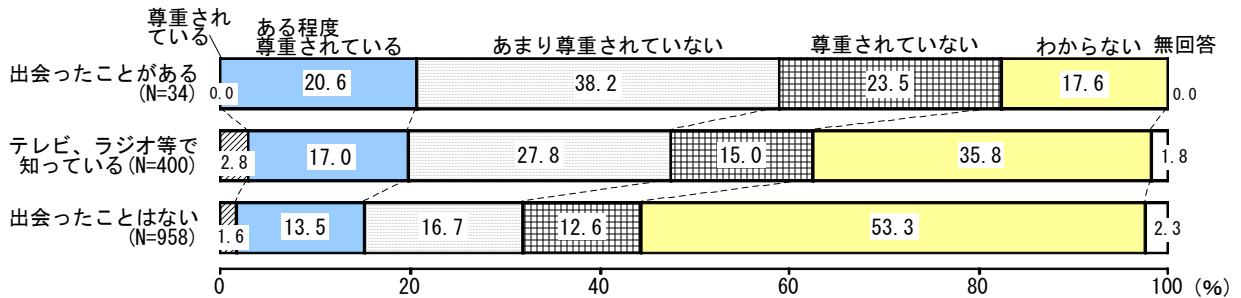
<『ク. 犯罪被害者とその家族の人権』(問14『ク. 犯罪被害者とその家族の人権問題』別)>



<『ケ. ホームレスの人権』(問14『ケ. ホームレスの人権問題』別)>



<『コ. 性同一性障害者の人権』(問14『コ. 性同一性障害者の人権問題』別)>



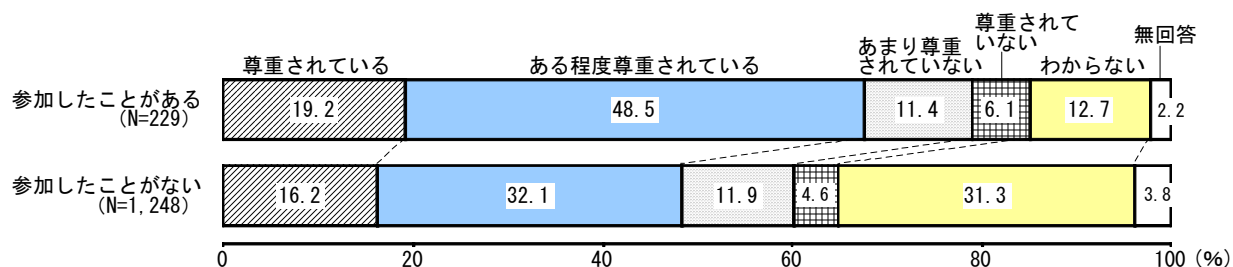
* 「出会ったことがある」: 「親族・近所等にいる」「親しく付き合っている人にいる」「親しい付き合いではないが、いる」の計

人権問題の解決に取り組んでいる人との出会いの状況(問14)のうち、対応する項目別に人権課題に関する尊重度をみると、『ア. 同和地区出身者の人権』については、『出会ったことがある』で“尊重されている”という割合(「尊重されている」「ある程度尊重されている」の計)が67.9%に対し、“尊重されていない”という割合(「あまり尊重されていない」「尊重されていない」)は18.2%となっている。

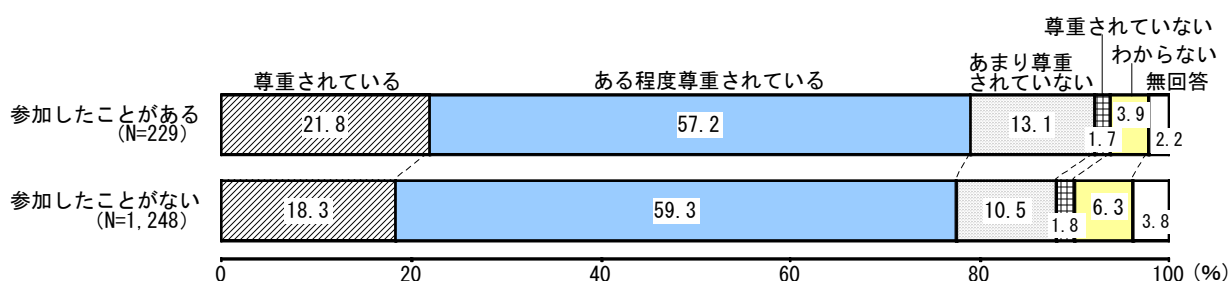
また、いずれの項目においても、“尊重されていない”という割合が『出会ったことがある』で最も高くなっている。(図表 1-3-3)

【図表 1-3-4 人権研修等への参加経験(問11)別 人権課題に関する尊重度】

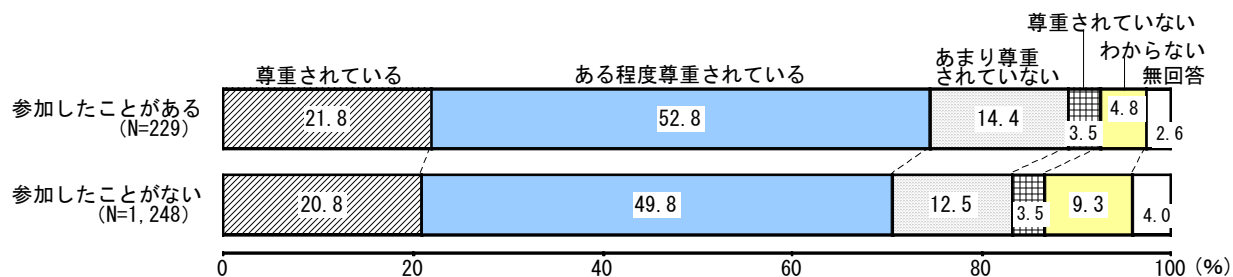
< 『ア. 同和地区出身者の人権』 >



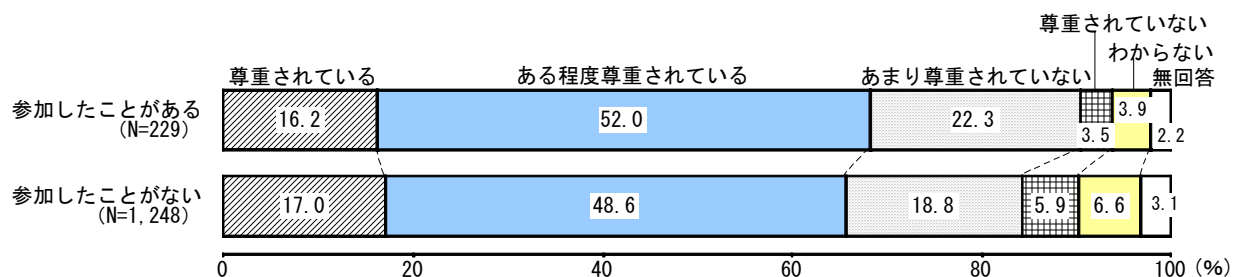
< 『イ. 女性の人権』 >



< 『ウ. 子どもの人権』 >

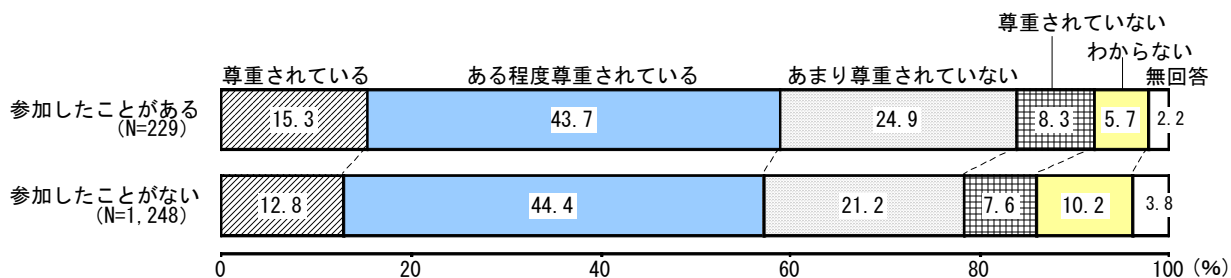


< 『エ. 高齢者の人権』 >

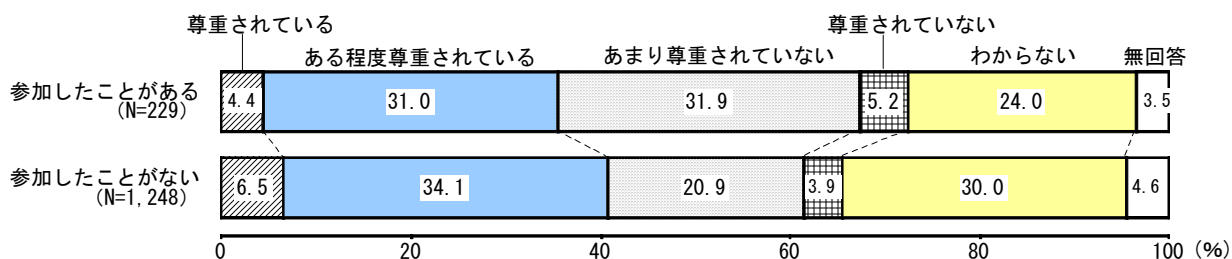


【図表 1-3-4 人権研修等への参加経験(問11)別 人権課題に関する尊重度】

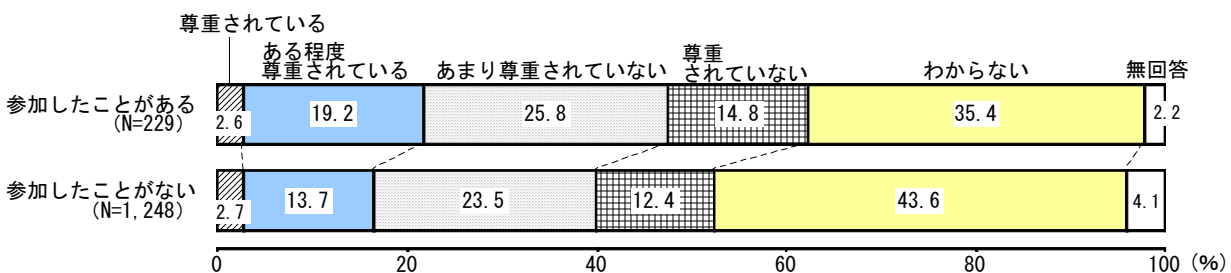
< 『オ. 障害のある人の人権』 >



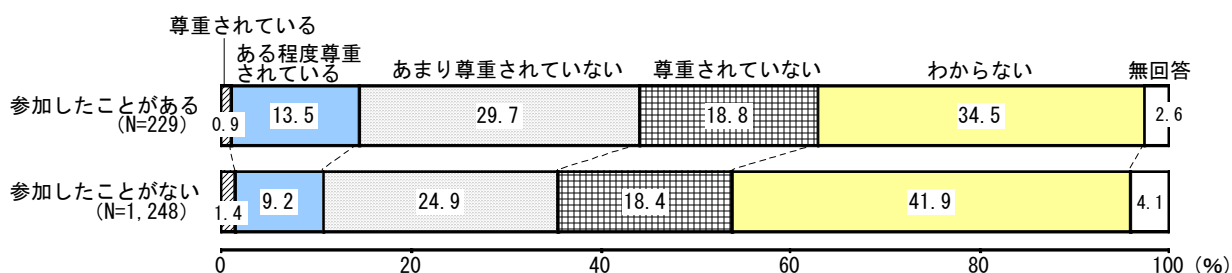
< 『カ. 外国人の人権』 >



< 『キ. エイズ、ハンセン病患者等の人権』 >

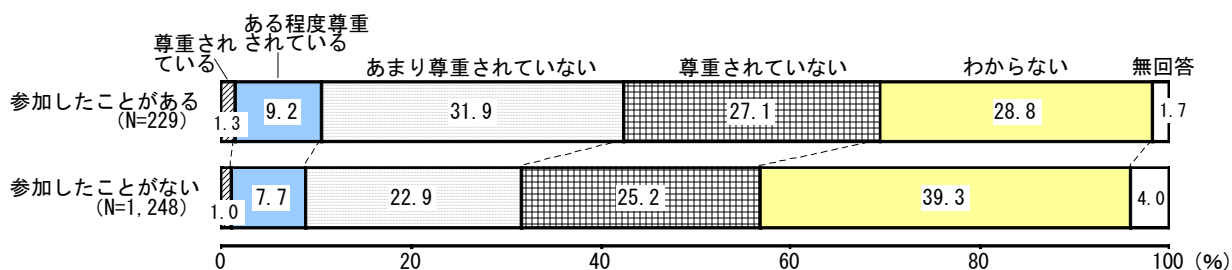


< 『ク. 犯罪被害者とその家族の人権』 >

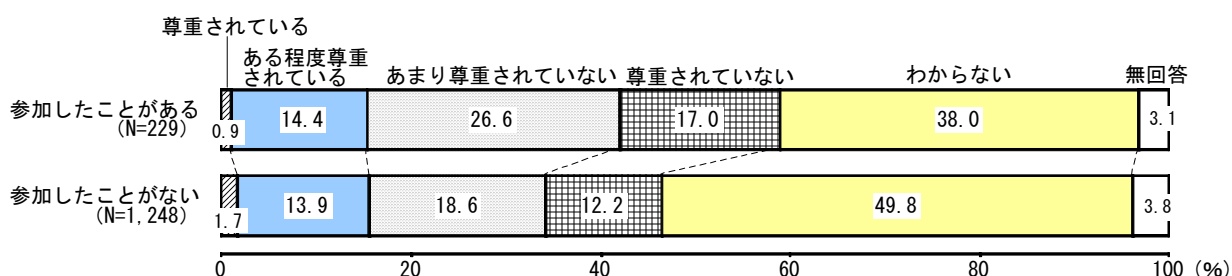


【図表 1-3-4 人権研修等への参加経験(問11)別 人権課題に関する尊重度】

< 『ケ. ホームレスの人権』 >



< 『コ. 性同一性障害者の人権』 >



人権研修等への参加経験（問11）別に人権課題に関する尊重度をみたとところ、いずれの項目においても、“尊重されていない”という割合（「あまり尊重されていない」「尊重されていない」の計）は、参加したことがない人に比べて、参加したことがある人のほうが高くなっている。

一方、“尊重されている”という割合（「尊重されている」「ある程度尊重されている」の計）は、『ア. 同和地区出身者の人権』において、参加したことがある人で67.7%を占めるのに対し、参加したことがない人では48.3%にとどまっており、参加したことがある人のほうが19.4ポイント高い。（図表 1-3-4）

【参考データ】人権スコアについて

人権課題に関する尊重度を要約的に分析するための参考データとして、ア～コの各質問項目の回答に応じ点数化（下記「点数一覧」参照）し、その累計を回答者数（当該質問の無回答者を除く）で除して全体の平均スコアを算出した。

全体のスコア値は府民の人権尊重意識の強さの程度を表す指標（人権スコア）で、その値は最小10点、最大50点となる。

スコア値が50点に近いほど、府民の人権尊重意識は高く、10点に近いほど人権尊重意識は低いことを表している。

～点数一覧～

- 「1. 尊重されている」…5点 / 「2. ある程度尊重されている」…4点 / 「5. わからない」…3点
 「3. あまり尊重されていない」…2点 / 「4. 尊重されていない」…1点

【図表 1-3-5 人権スコア】

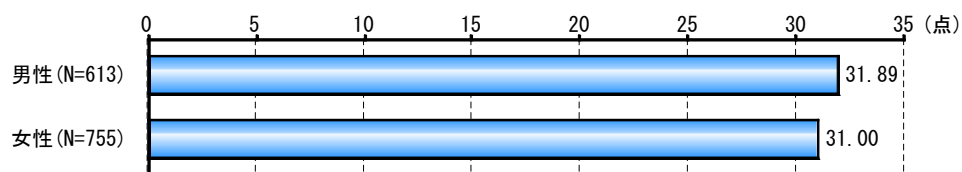
項目		スコア
各質問項目ごとのスコア	ア. 同和地区出身者の人権	3.49
	イ. 女性の人権	3.85
	ウ. 子どもの人権	3.75
	エ. 高齢者の人権	3.53
	オ. 障害のある人の人権	3.36
	カ. 外国人の人権	3.16
	キ. エイズ、ハンセン病患者等の人権	2.70
	ク. 犯罪被害者とその家族の人権	2.49
	ケ. ホームレスの人権	2.33
	コ. 性同一性障害者の人権	2.71
全体の平均スコア (府民の人権尊重意識の強さを表す指標)		31.39

上記の表では、府民の人権尊重意識の強さを示すスコア値は31.39となっている。

なお、質問項目ごとの個別のスコアは、『イ. 女性の人権』が3.85と最も高く、次いで『ウ. 子どもの人権』3.75、『エ. 高齢者の人権』3.53、『ア. 同和地区出身者の人権』3.49などとなっている。スコア得点は3点を平均に、5点に近いほど該当質問に対する人権尊重意識が高く、1点に近いほど人権尊重意識が低い傾向を示している。(図表 1-3-5)

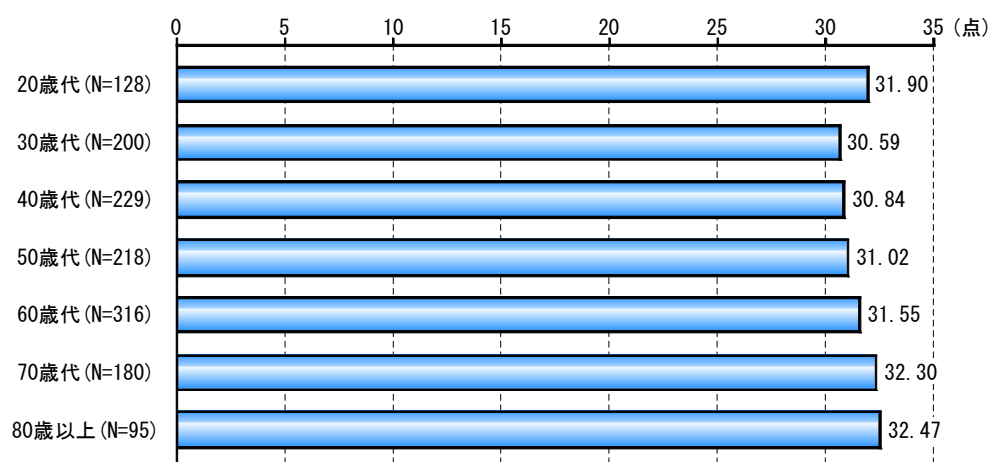
【参考データ】人権スコアについて

【図表 1-3-6 性別 人権スコア（全体）】



性別に人権スコア（全体）をみたところ、男性 31.89 に対し、女性 31.00 と、男性のほうが 0.89 ポイント高くなっている。（図表 1-3-6）

【図表 1-3-7 年齢別 人権スコア（全体）】



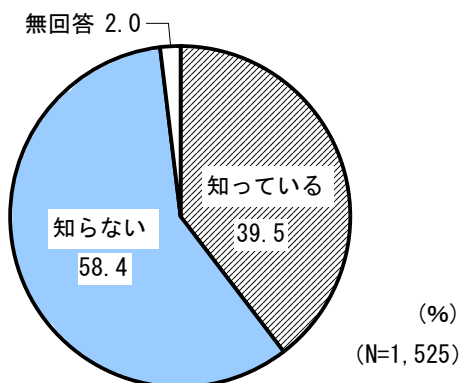
年齢別に人権スコア（全体）をみたところ、概ね年齢が上がるにしたがって値は高くなる傾向にあり、80歳以上で 32.47、70歳代で 32.30 と、他の年齢層に比べて高くなっている。（図表 1-3-7）

第2章 人権侵害に関する実態や相談状況について

1. 人権相談窓口の認知度

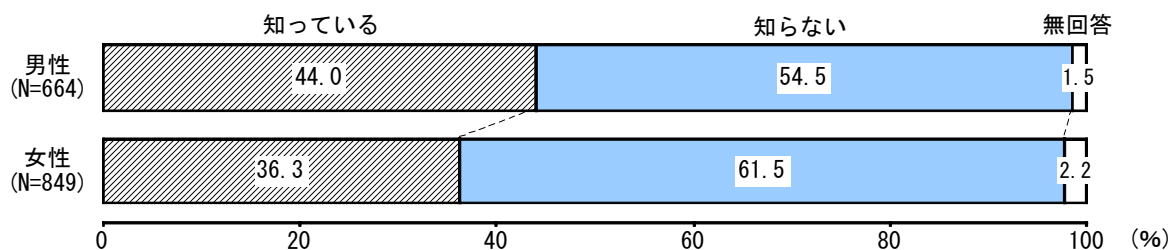
問3 あなたは、人権に関する事柄で悩んだときなどの対応のため、国（法務局や人権擁護委員）をはじめ地方自治体（京都府や市町村）やNPO法人等の民間団体において人権相談の窓口が開かれているのはご存じですか。次のうちあてはまる番号1つに○をつけてください。

【図表 1-4 人権相談窓口の認知度】



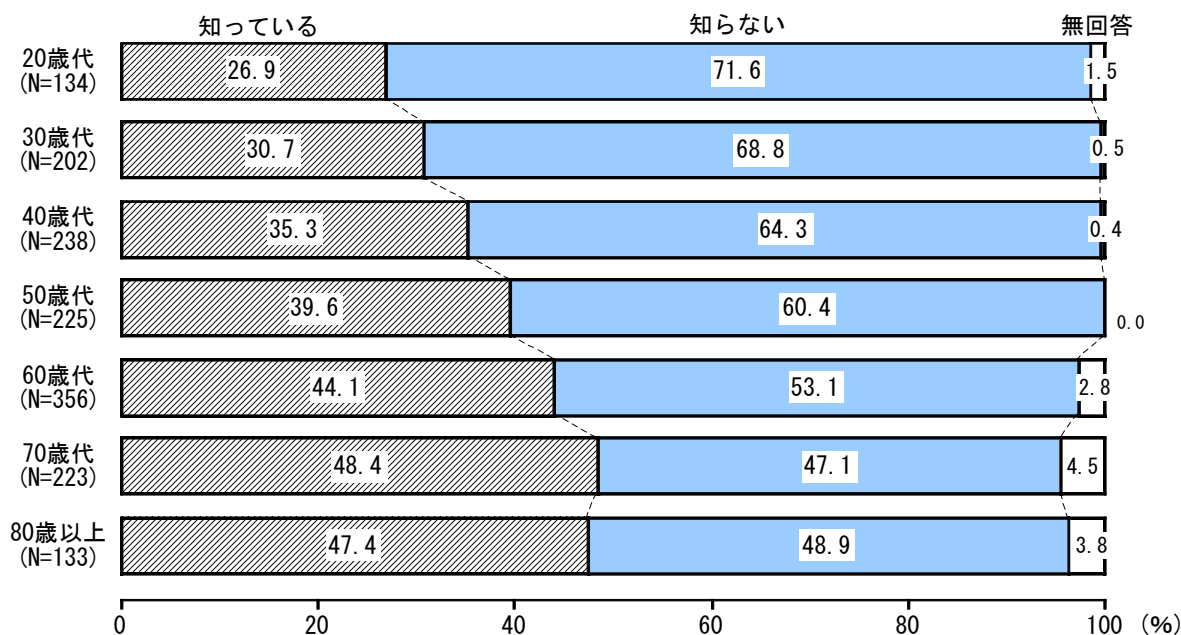
人権に関する事柄で悩んだときなどの対応のため、国や地方自治体、民間団体において人権相談の窓口が開かれていることを「知っている」は全体の39.5%となっている。(図表 1-4)

【図表 1-4-1 性別 人権相談窓口の認知度】



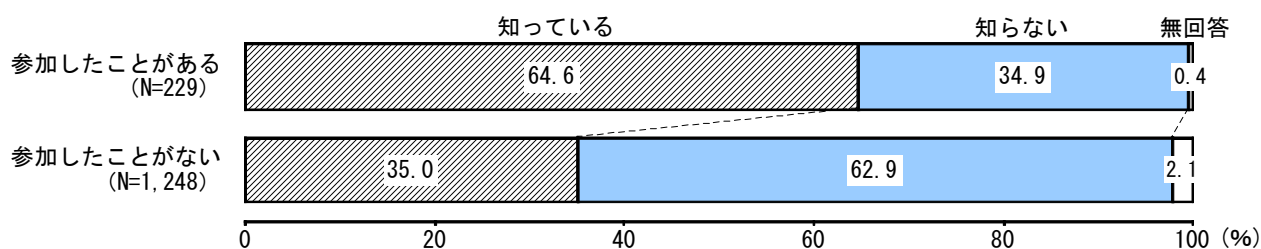
性別に人権相談窓口の認知度をみたとところ、「知っている」は男性44.0%に対し、女性36.3%と、男性のほうが7.7ポイント高くなっている。(図表 1-4-1)

【図表 1-4-2 年齢別 人権相談窓口の認知度】



年齢別に人権相談窓口の認知度をみたところ、「知っている」は20歳代が最も低く(26.9%)、概ね年齢が上がるにしたがって高くなる傾向にあり、特に70歳代で48.4%と最も高くなっている。(図表 1-4-2)

【図表 1-4-3 人権研修等への参加経験(問11)別 人権相談窓口の認知度】



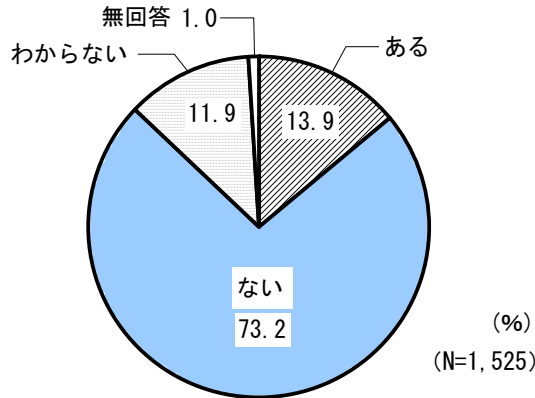
人権研修等への参加経験(問11)別に人権相談窓口の認知度をみたところ、「知っている」が参加したことがある人で64.6%であるのに対し、参加したことがない人では35.0%にとどまっており、参加したことがある人のほうが29.6ポイント高くなっている。(図表 1-4-3)

2. 人権侵害の経験状況

〔1〕人権侵害の経験の有無

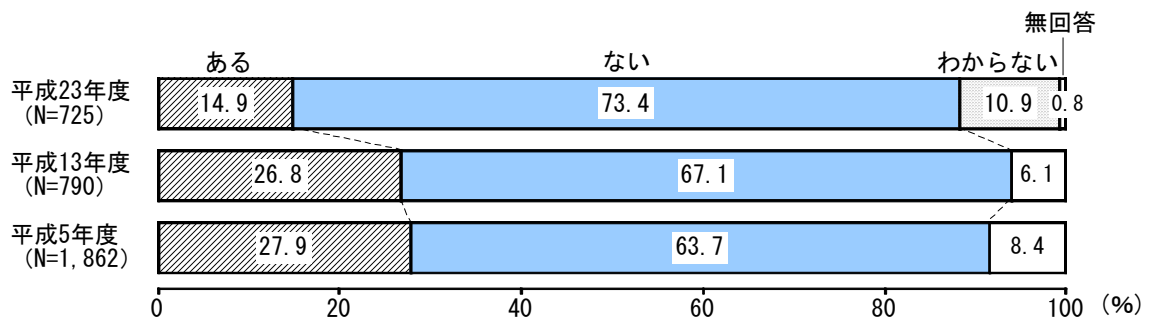
問4-1 あなたは、過去5年間に自分の人権を侵害されたと感じたことがありますか。次のうちあてはまる番号1つに○をつけてください。

【図表 1-5 人権侵害の経験の有無】



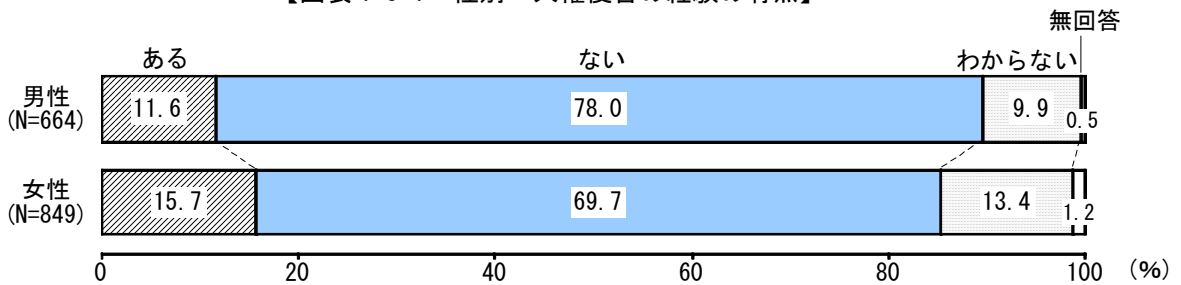
過去5年間に自分の人権を侵害されたと感じたことが「ある」と回答した人は全体の13.9%となっている。(図表 1-5)

〔(参考) 経年比較〕 ※平成23年度については「京都市」を除いた値で集計している。



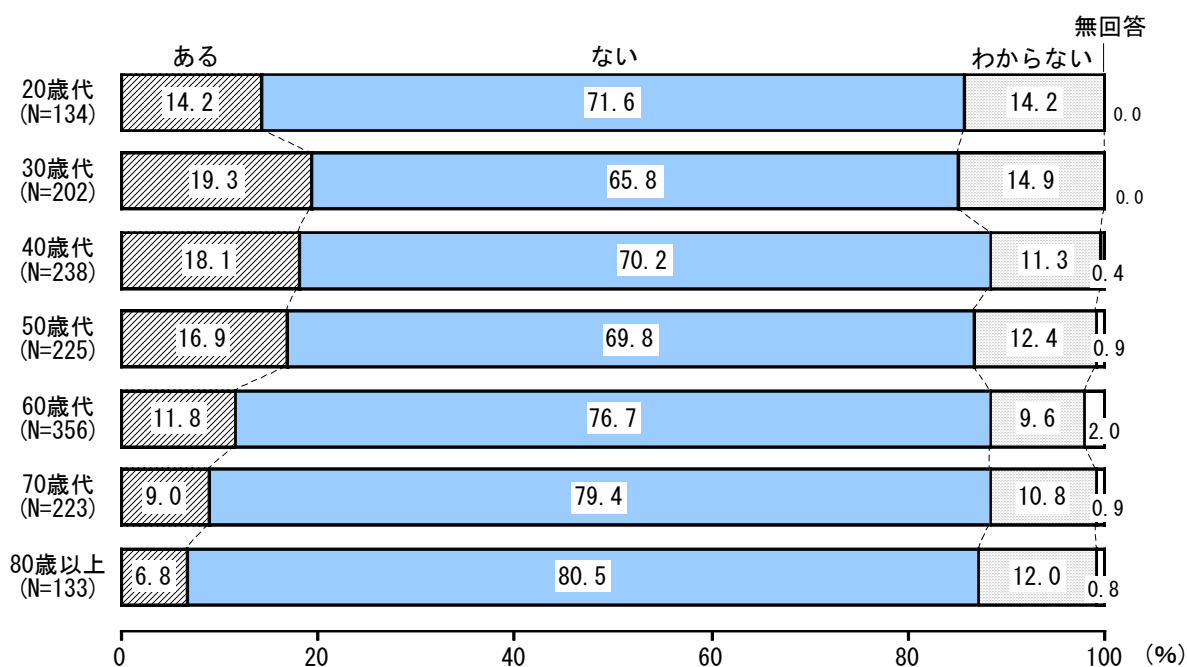
※)「わからない」は平成23年度より新たに選択肢として設けた。

【図表 1-5-1 性別 人権侵害の経験の有無】



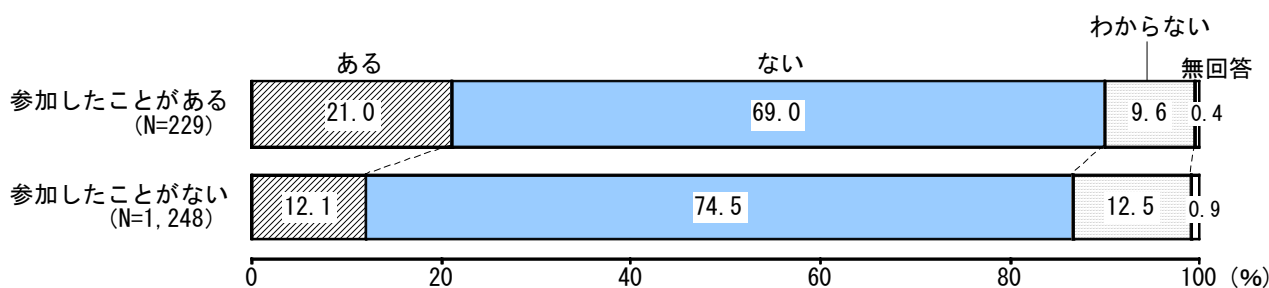
性別に人権侵害の経験の有無をみたところ、「ある」が男性11.6%に対し、女性15.7%と、女性のほうが4.1ポイント高くなっている。(図表 1-5-1)

【図表 1-5-2 年齢別 人権侵害の経験の有無】



年齢別に人権侵害の経験の有無をみたところ、「ある」が30歳代で19.3%と最も高く、次いで40歳代で18.1%、50歳代で16.9%の順となっている。(図表 1-5-2)

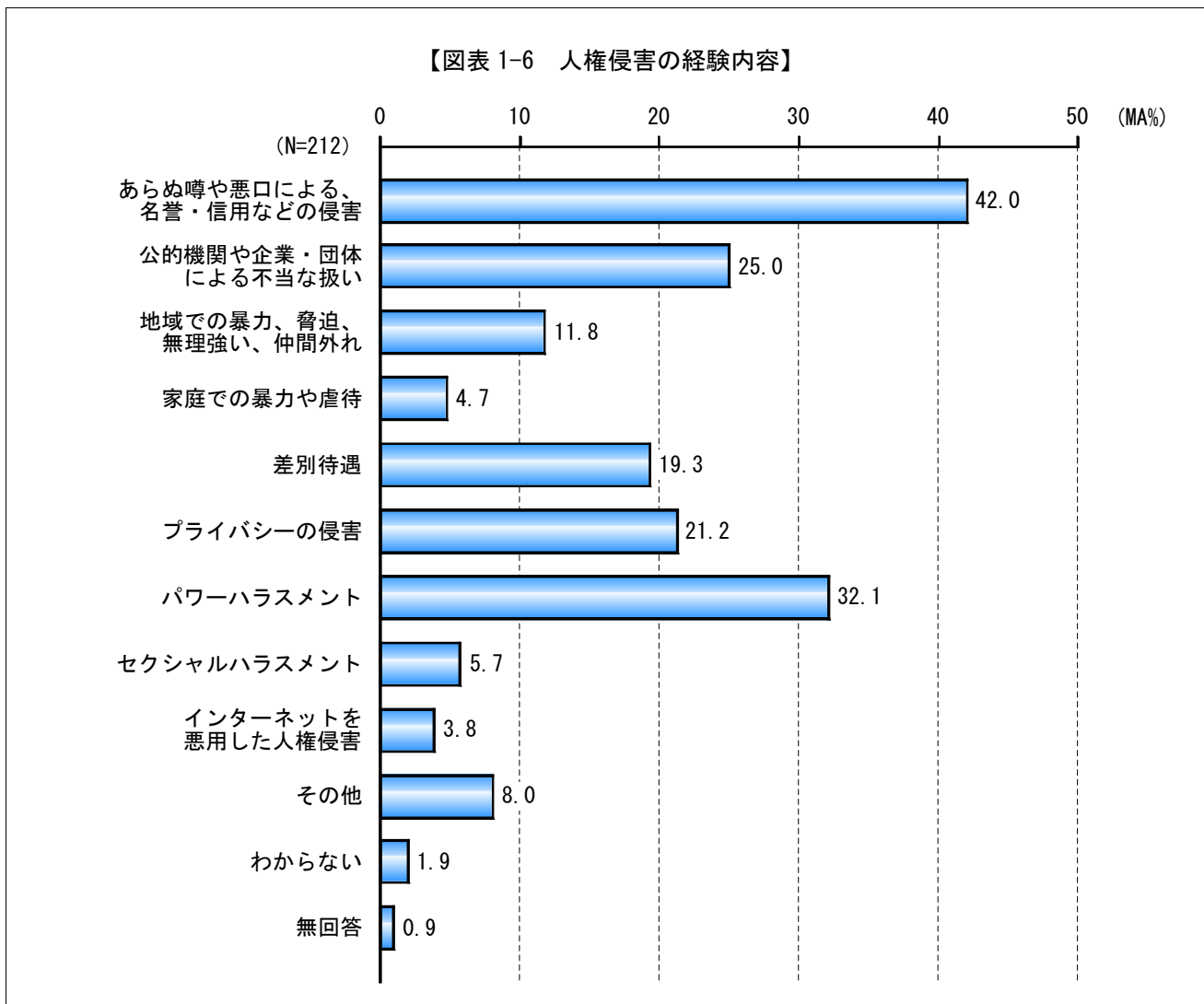
【図表 1-5-3 人権研修等への参加経験(問11)別 人権侵害の経験の有無】



人権研修等への参加経験(問11)別に人権侵害の経験の有無をみたところ、「ある」が参加したことがある人で21.0%に対し、参加したことがない人で12.1%と、参加したことがある人のほうが8.9ポイント高くなっている。(図表 1-5-3)

〔2〕人権侵害の経験内容

問4-2 それは、どのような人権侵害でしたか。いくつでも選んで○をつけてください。

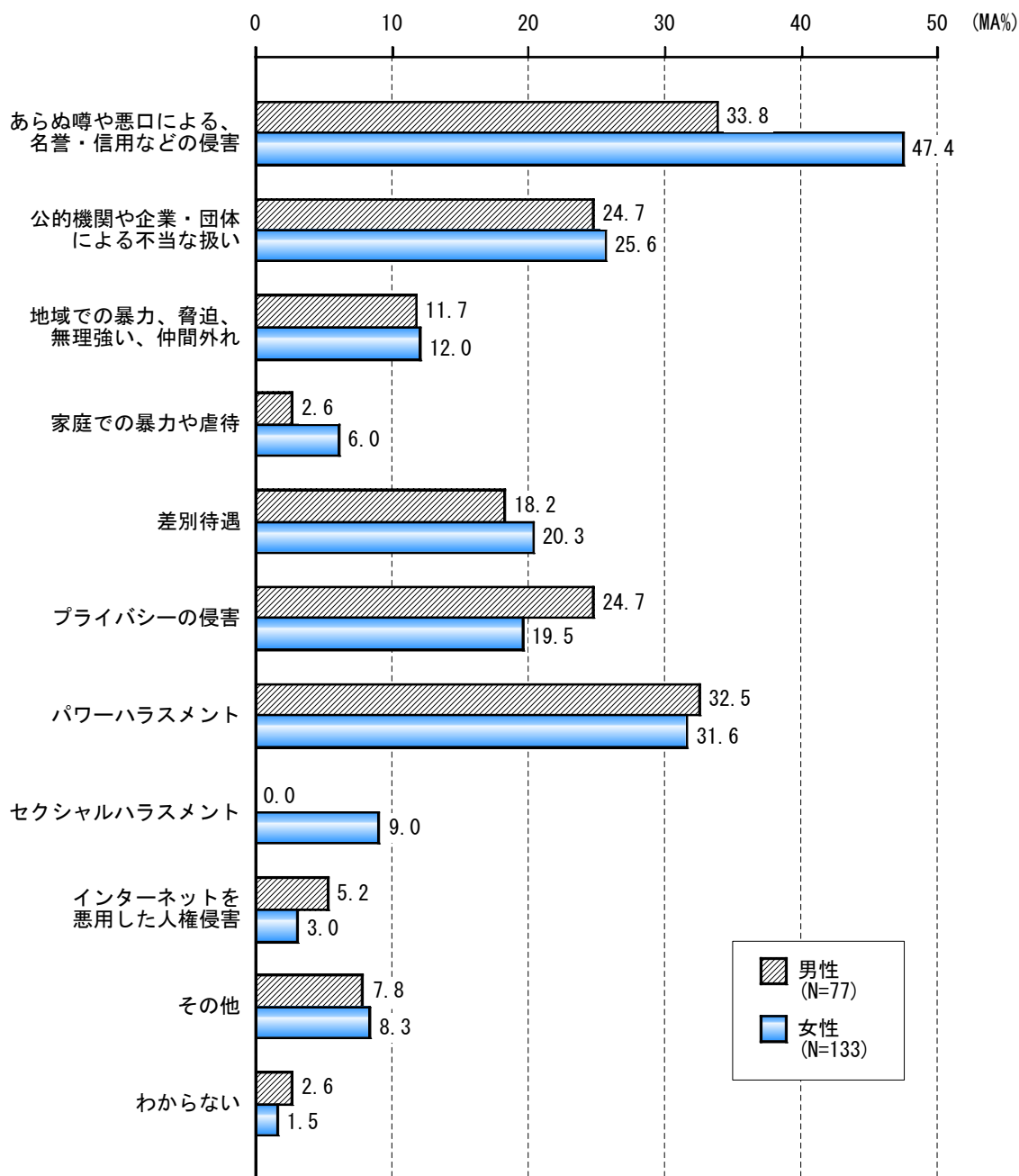


人権侵害を受けたと感じたことがあるという人にその内容をたずねたところ、「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が42.0%と最も高く、次いで「パワーハラスメント」32.1%、「公的機関や企業・団体による不当な扱い」25.0%などとなっている。(図表 1-6)

〔参考〕平成13年度調査『侵害の内容』 ※記述式回答であったため表形式にて掲載

内 容	件 数	内 容	件 数
職場での差別、いじめ、いやがらせ	34	住んでいる地域での差別やいじめ	8
学校でのいじめ（生徒間、教師から）	30	母子家庭、一人親等を理由とする差別やいじめ	8
夫や家族によるいじめや暴力	18	就職採用時の差別やいじめ	6
職場でのセクハラ	17	職場での差別、いじめ、いやがらせ	41

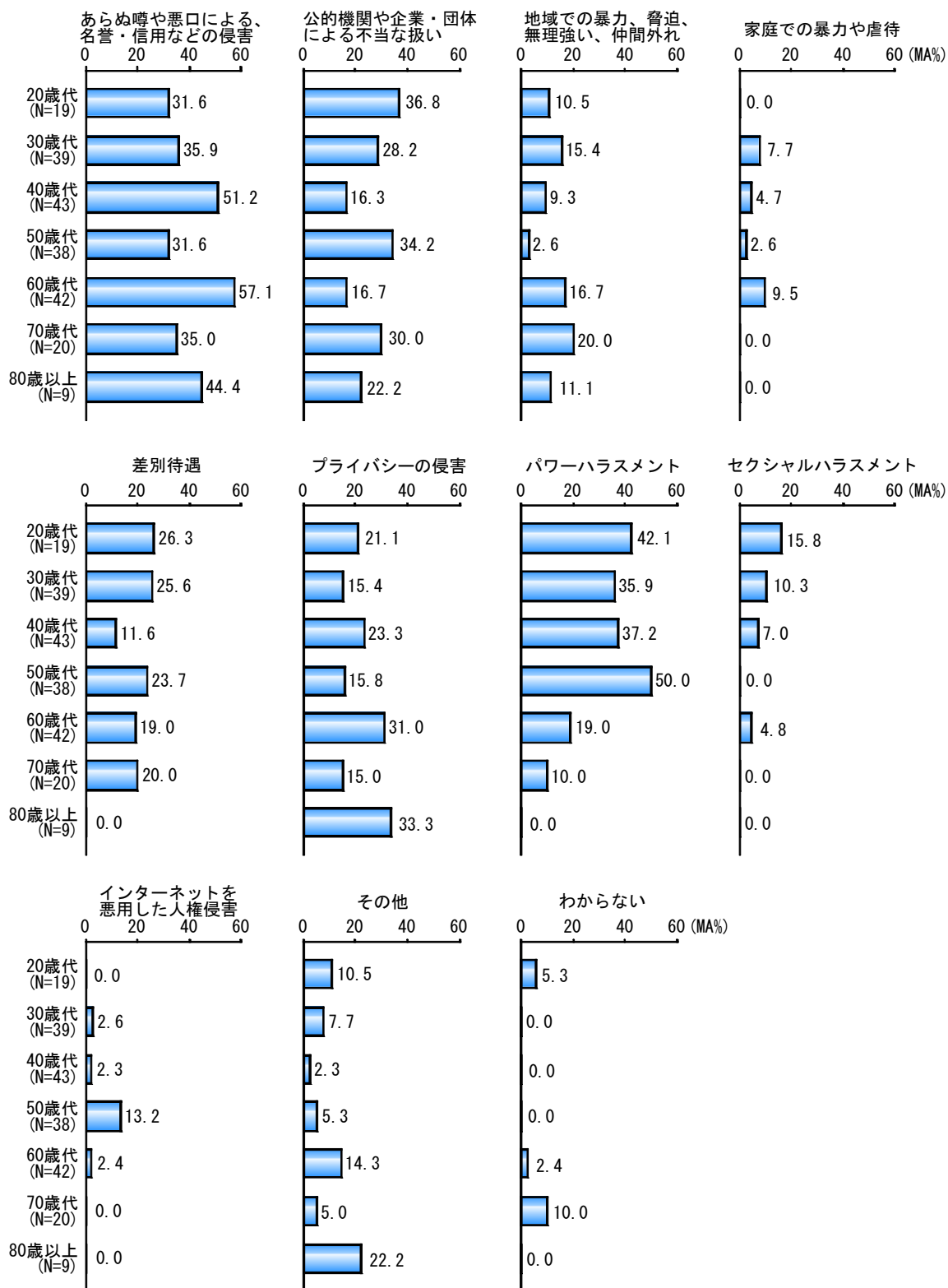
【図表 1-6-1 性別 人権侵害の経験内容】



性別に人権侵害の経験内容をみたとところ、男性・女性ともに「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が最も高くなっているものの、男性 33.8%に対し、女性 47.4%と、女性のほうが 13.6 ポイント高い。

一方、男性では「プライバシーの侵害」が 24.7%と、女性（19.5%）に比べて 5.2 ポイント高くなっている。（図表 1-6-1）

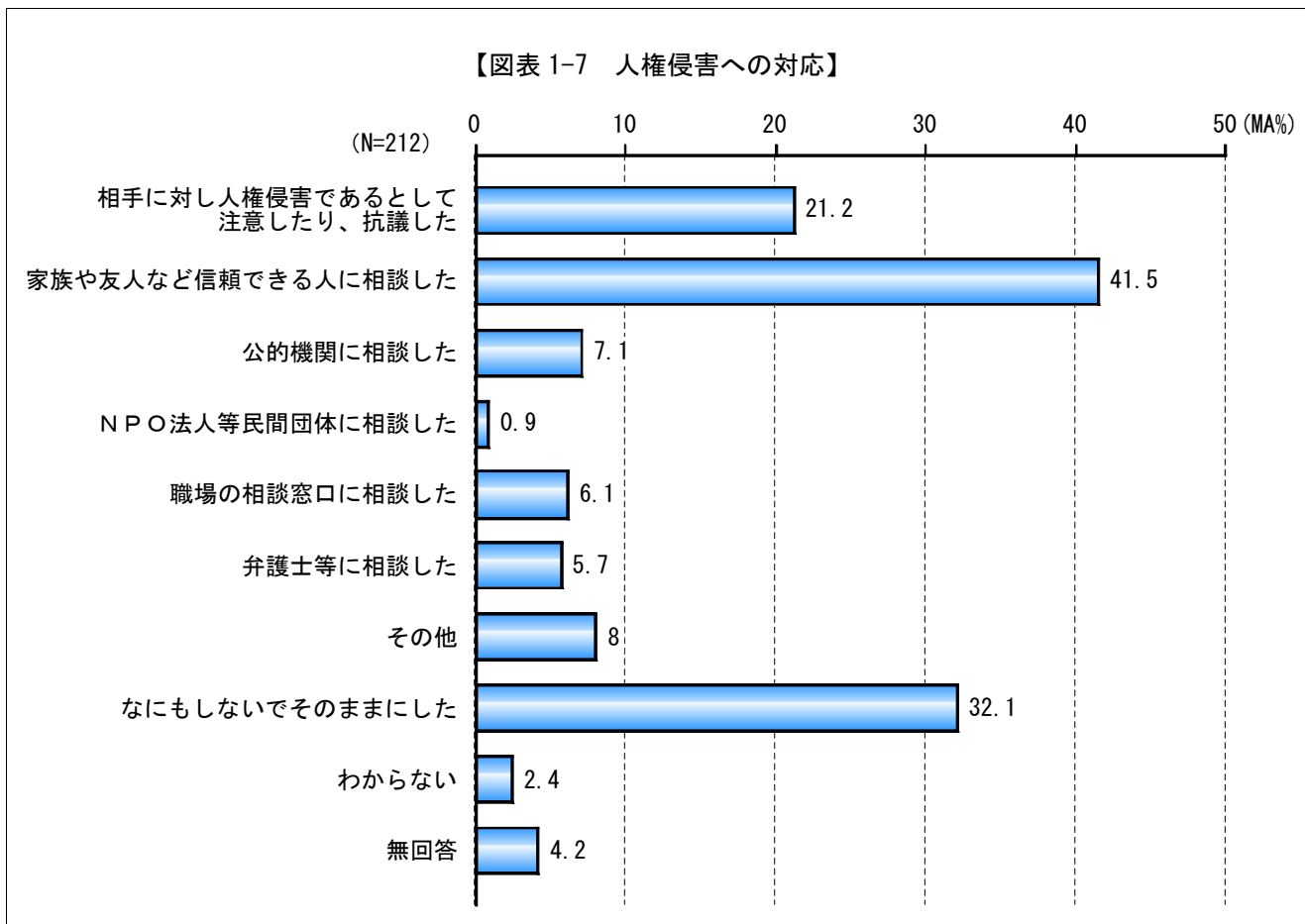
【図表 1-6-2 年齢別 人権侵害の経験内容】



年齢別に人権侵害の経験内容を見たところ、「あらかぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が60歳代で57.1%、「パワーハラスメント」が50歳代で50.0%と、それぞれ最も高くなっている。(図表 1-6-2)

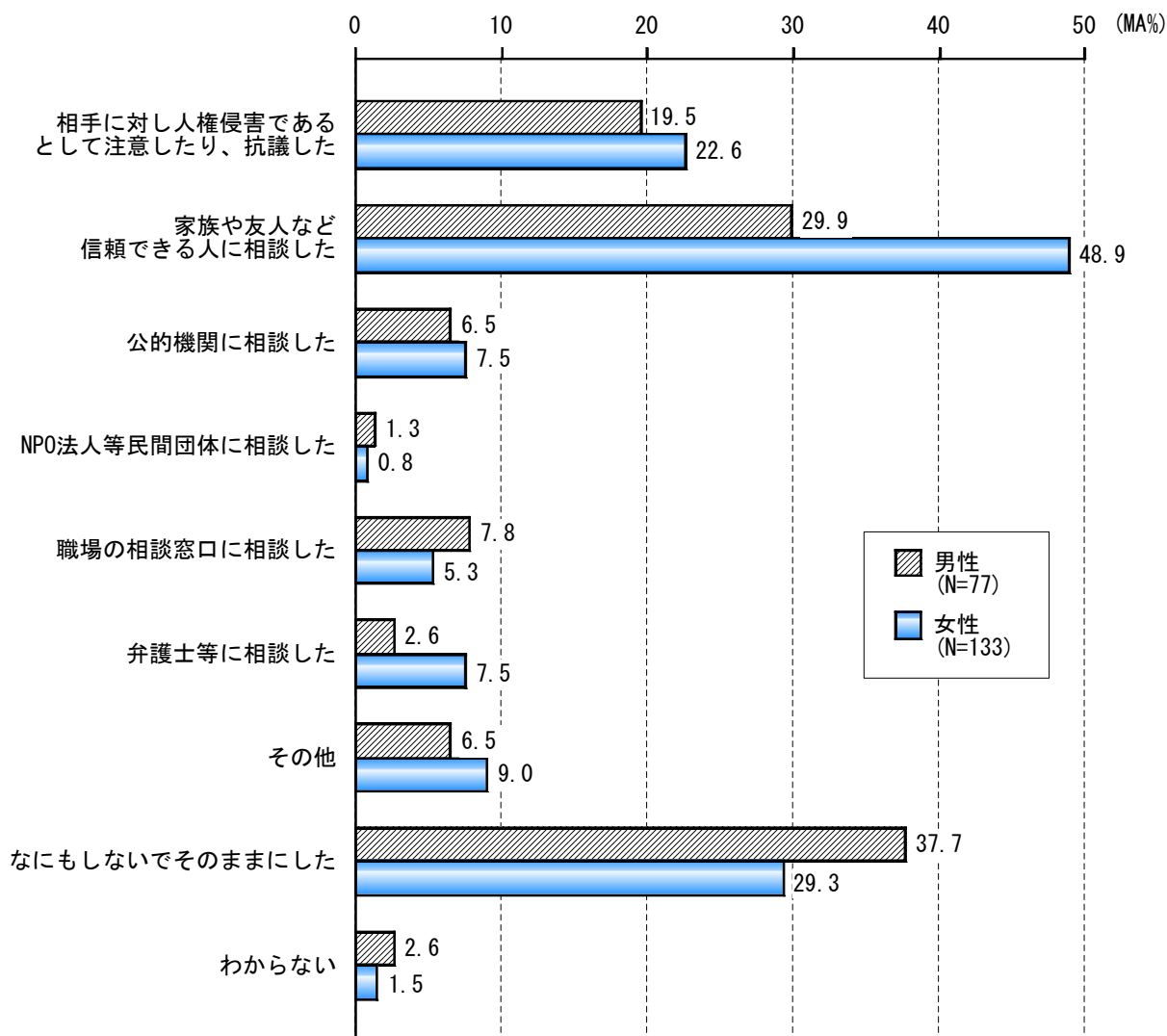
〔3〕人権侵害への対応

問4-3 人権侵害を受けたと感じた際、あなたはどのように対応されましたか。いくつでも選んで○をつけてください。



人権侵害を受けたと感じた際の対応をたずねたところ、「家族や友人など信頼できる人に相談した」が 41.5%と最も高く、次いで「なにもしないでそのままにした」32.1%、「相手に対し人権侵害であるとして注意したり、抗議した」21.2%などとなっている。(図表 1-7)

【図表 1-7-1 性別 人権侵害への対応】



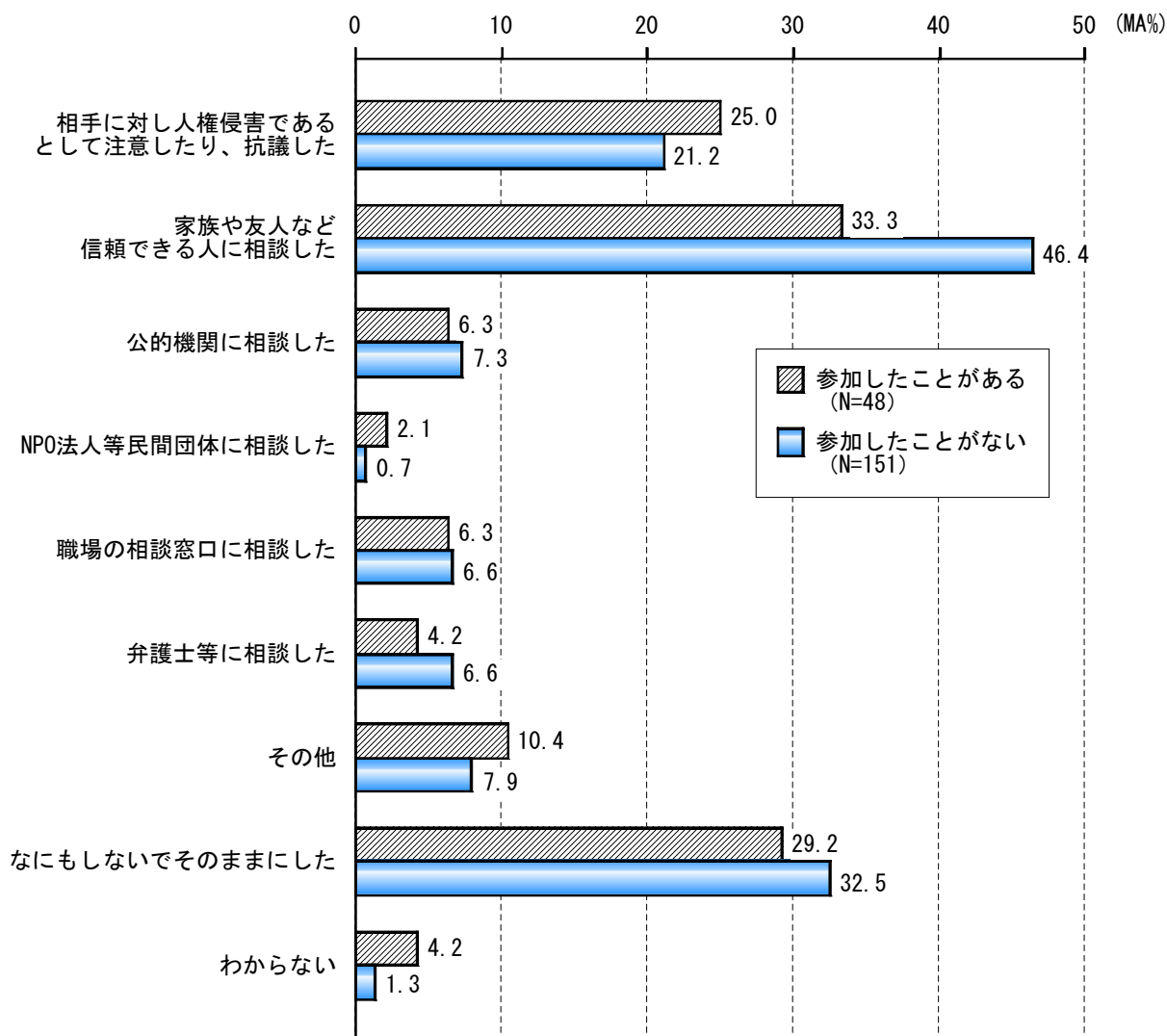
性別に人権侵害への対応をみたところ、男性では「なにもしないでそのままにした」が37.7%、女性では「家族や友人など信頼できる人に相談した」が48.9%と、それぞれ最も高くなっている。(図表 1-7-1)

【図表 1-7-2 年齢別 人権侵害への対応】



年齢別に人権侵害への対応をみたところ、「家族や友人など信頼できる人に相談した」が20歳～50歳代で各々4～5割台と高くなっている。一方、「なにもしないでそのままにした」が50歳代で42.1%と最も高い。(図表 1-7-2)

【図表 1-7-3 人権研修等への参加経験(問11)別 人権侵害への対応】



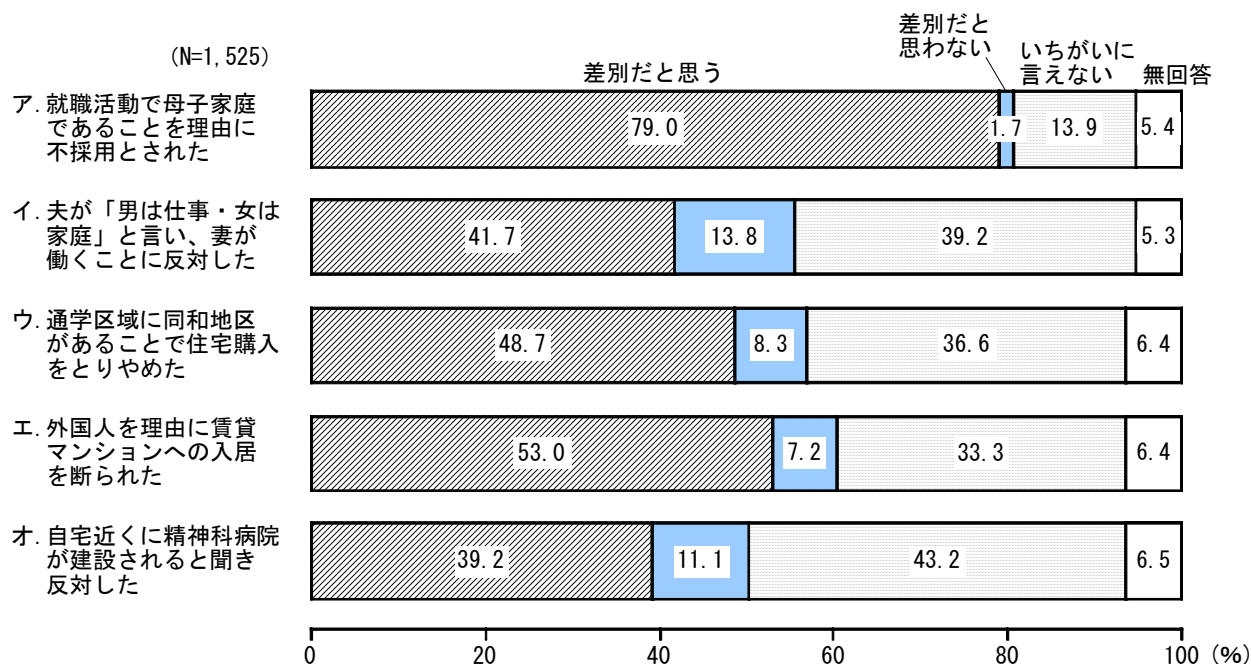
人権研修等への参加経験（問11）別に人権侵害への対応をみたところ、参加経験の有無にかかわらず、「家族や友人など信頼できる人に相談した」が最も高くなっているものの、参加したことがある人で 33.3%に対し、参加したことがない人では 46.4%と、13.1 ポイント高くなっている。（図表 1-7-3）

第3章 差別や人権侵害などに関する考え方や認識について

1. 差別に対する考え方

問5 あなたは、次にあげた事項についてどう思いますか。次のア～オの各事項ごとに、あなたのお考えにもっとも近いものを選びあてはまる番号1つに○をつけてください。

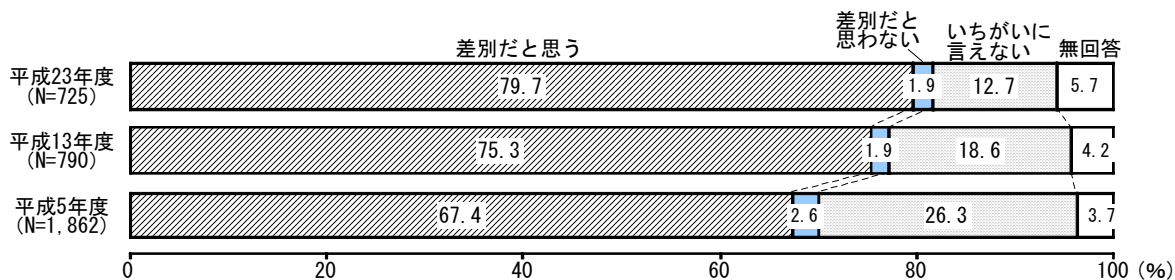
【図表 1-8 差別に対する考え方】



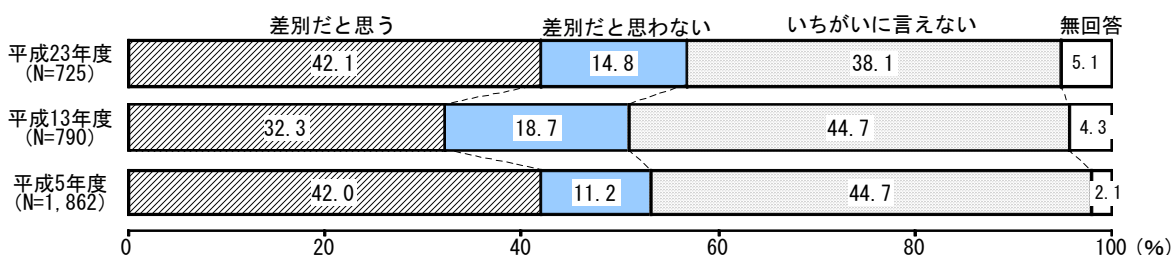
差別に対する考え方として5項目についてたずねたところ、「差別だと思う」では『ア. 就職活動で母子家庭であることを理由に不採用とされた』で79.0%と最も高く、次いで『エ. 外国人を理由に賃貸マンションへの入居を断られた』53.0%、『ウ. 通学区域に同和地区があることで住宅購入をとりやめた』48.7%などとなっている。(図表 1-8)

[参考] 経年比較 ※平成23年度については「京都市」を除いた値で集計している。

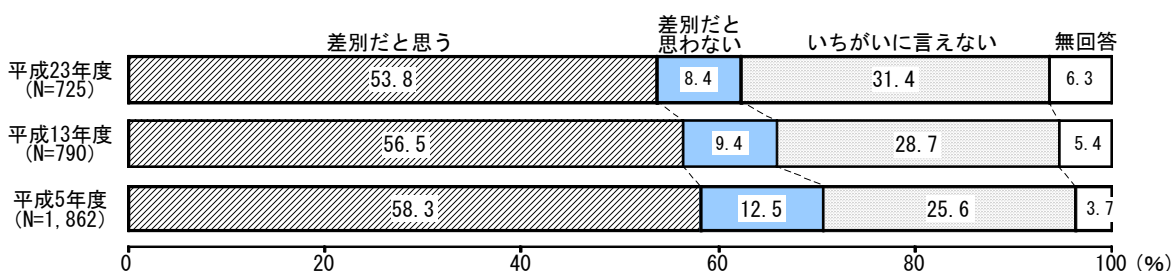
<ア. 就職活動で母子家庭であることを理由に不採用とされた>



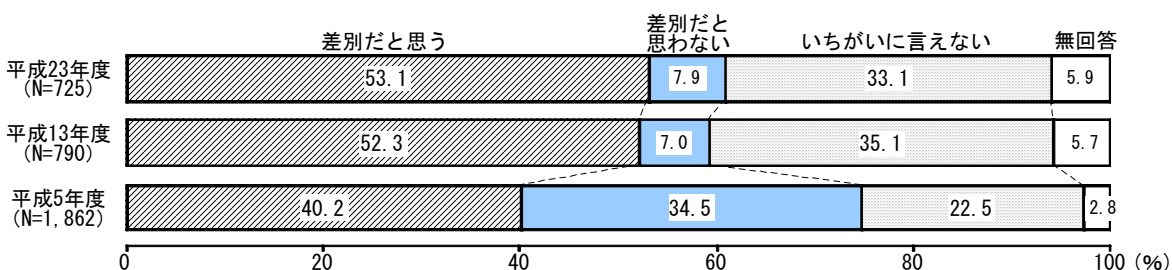
<イ. 夫が「男は仕事・女は家庭」と言い、妻が働くことに反対した>



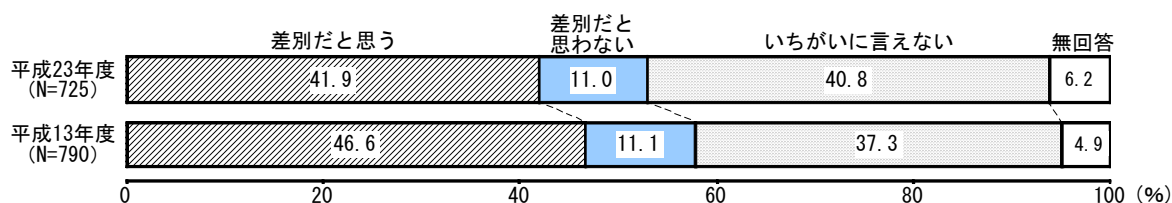
<ウ. 通学区域に同和地区があることで住宅購入をとりやめた>



<エ. 外国人を理由に賃貸マンションへの入居を断られた>

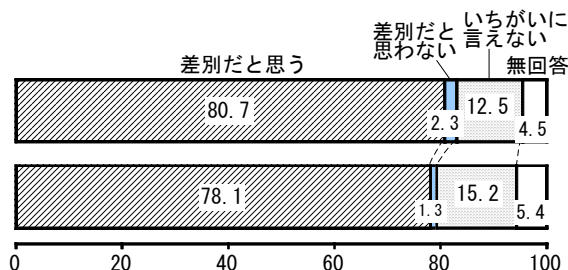


<オ. 自宅近くに精神科病院が建設されると聞き反対した> ※平成5年度は調査項目なし

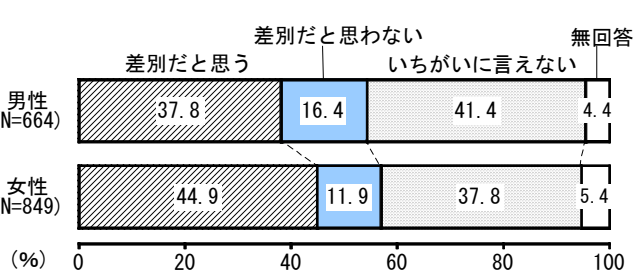


【図表 1-8-1 性別 差別に対する考え方】

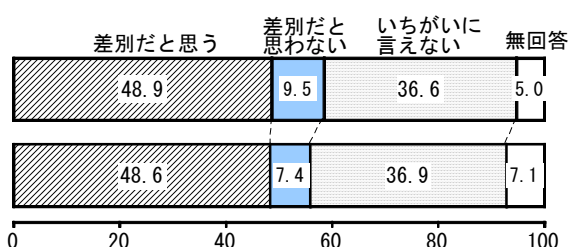
＜ア. 就職活動で母子家庭であること
を理由に不採用とされた＞



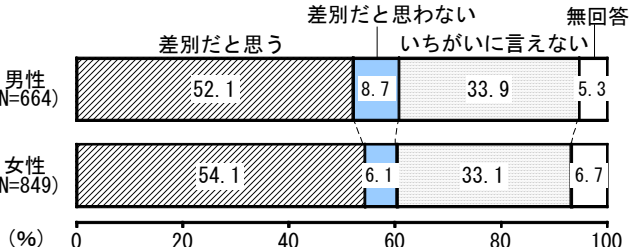
＜イ. 夫が「男は仕事・女は家庭」と言い、
妻が働くことに反対した＞



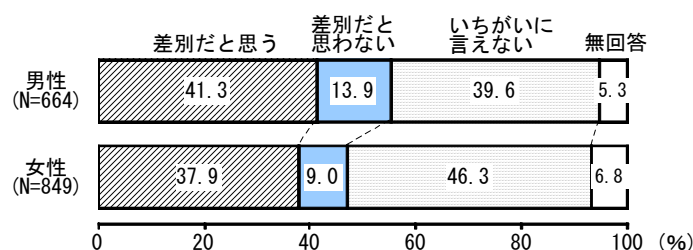
＜ウ. 通学区域に同和地区があることで
住宅購入をとりやめた＞



＜エ. 外国人を理由に賃貸マンション
への入居を断られた＞



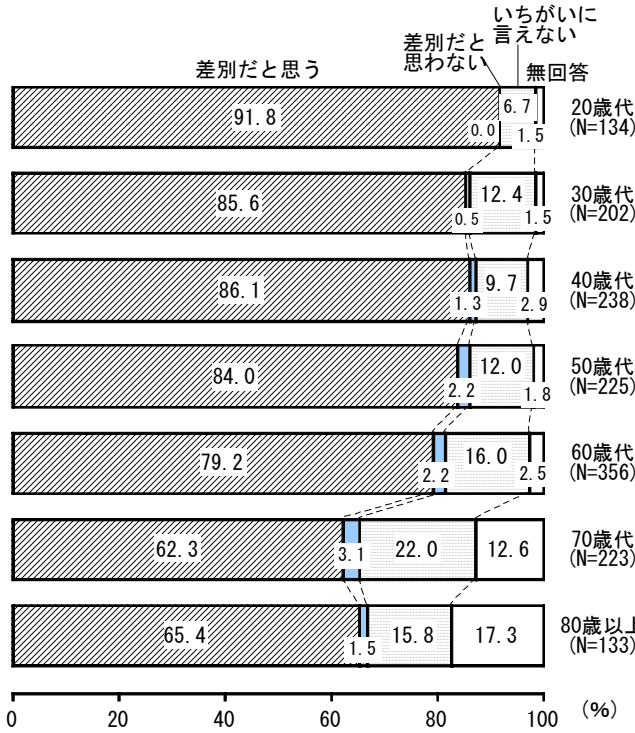
＜オ. 自宅近くに精神科病院が建設されると聞き反対した＞



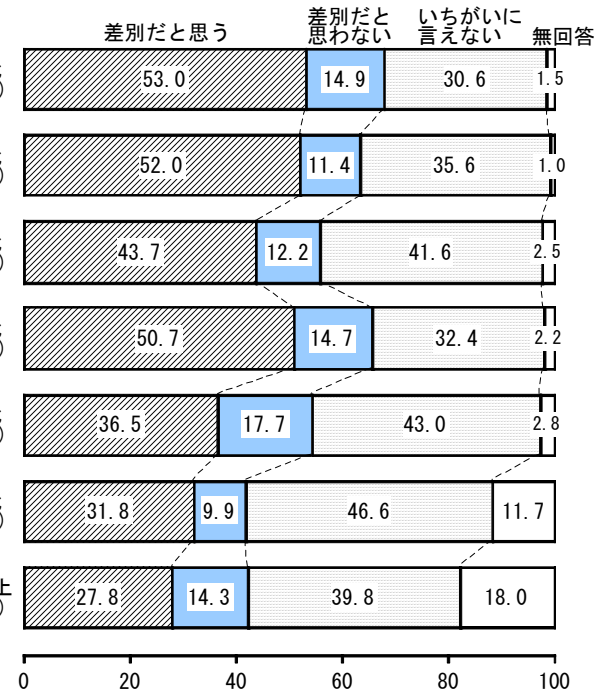
性別に差別に対する考え方をみたところ、「差別だと思う」が『ア. 就職活動で母子家庭であることを理由に不採用とされた』で男性 80.7%、女性 78.1%と、ともに最も高くなっている。また、『イ. 夫が「男は仕事・女は家庭」と言い、妻が働くことに反対した』が男性 37.8%に対し、女性 44.9%と、女性のほうが 7.1 ポイント高く、男女間で差がみられる。『ウ. 通学区域に同和地区があることで住宅購入をとりやめた』、『エ. 外国人を理由に賃貸マンションへの入居を断られた』の「差別だと思う」の各割合は、男女とも半数前後を占め、男女間の差は小さい。『オ. 自宅近くに精神科病院が建設されると聞き反対した』の「差別だと思う」は、女性 (37.9%) に比べ男性 (41.3%) のほうが 3.4%高いのに対し、「いちがいに言えない」は、女性 (46.3%) のほうが男性 (39.6%) に比べが 6.7 ポイント高い。(図表 1-8-1)

【図表 1-8-2 年齢別 差別に対する考え方】

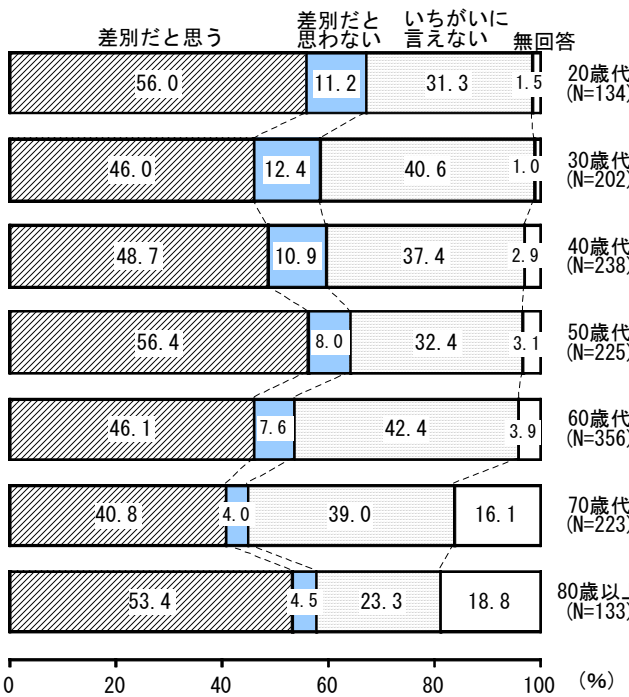
＜ア. 就職活動で母子家庭であること
を理由に不採用とされた＞



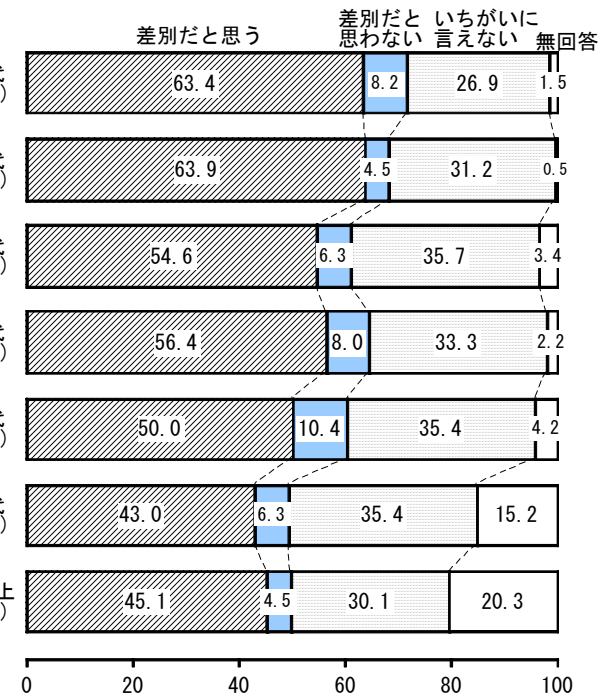
＜イ. 夫が「男は仕事・女は家庭」と言い、
妻が働くことに反対した＞



＜ウ. 通学区域に同和地区があることで
住宅購入をとりやめた＞

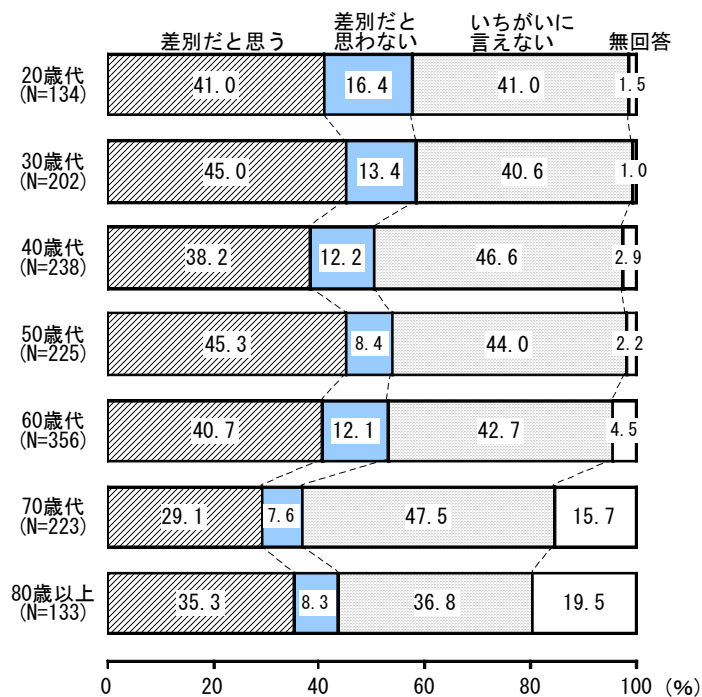


＜エ. 外国人を理由に賃貸マンション
への入居を断られた＞



【図表 1-8-2 年齢別 差別に対する考え方】

<オ. 自宅近くに精神科病院が建設されると聞き反対した>

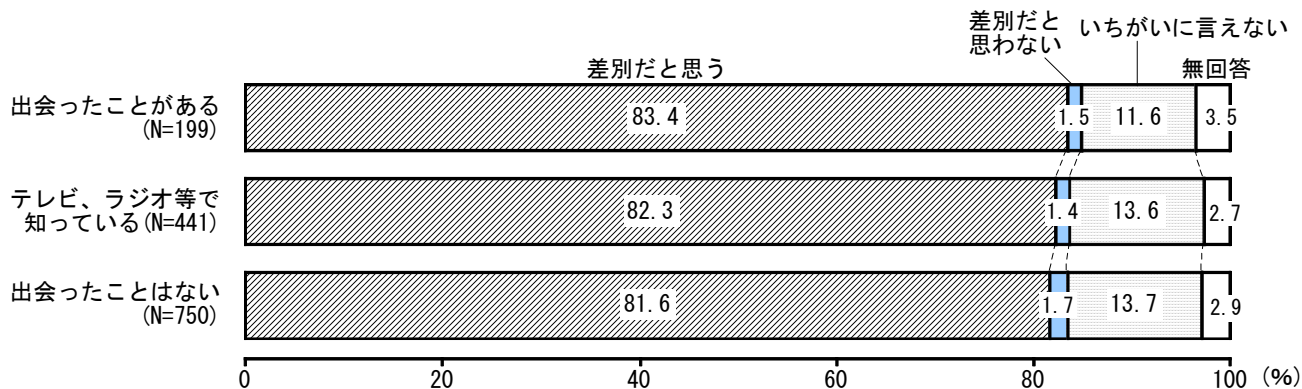


年齢別に差別に対する考え方をみたところ、「差別だと思う」が、『ア. 就職活動で母子家庭であることを理由に不採用とされた』について20歳代で91.8%、『エ. 外国人を理由に賃貸マンションへの入居を断られた』について30歳代で63.9%、20歳代で63.4%と、それぞれ他の年齢層に比べて特に高くなっている。

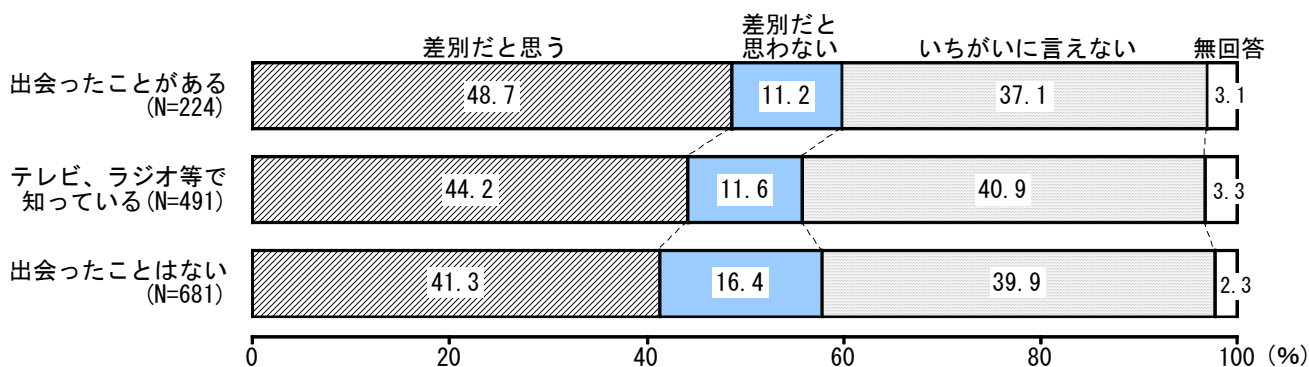
また、『ウ. 通学区域に同和地区があることで住宅購入をとりやめた』について、「差別だと思う」は、20歳代(56.0%)、50歳代(56.4%)、80歳以上(53.4%)の各年代では5割を超えている。(図表 1-8-2)

【図表 1-8-3 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況(問14)別 差別に対する考え方】

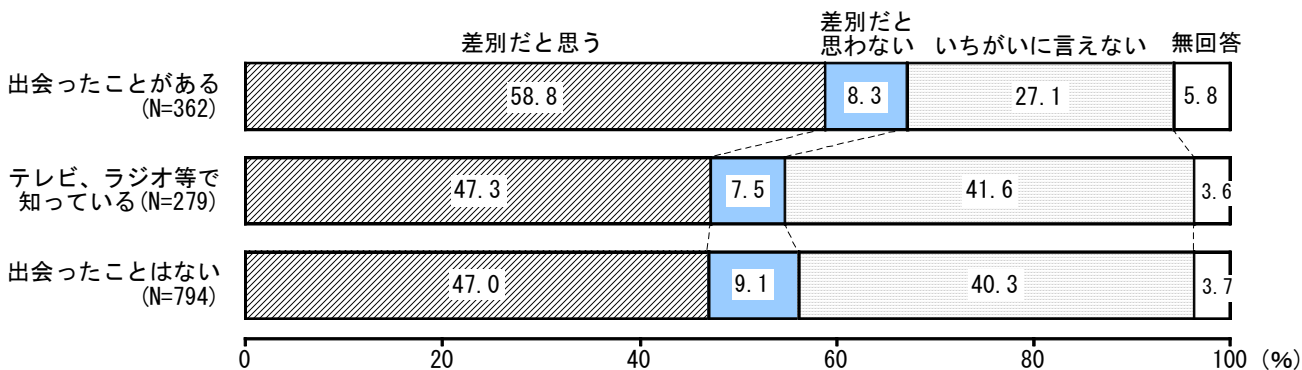
< 『ア. 就職活動で母子家庭であることを理由に不採用とされた』(問14『ウ. 子どもの人権問題』別) >



< 『イ. 夫が「男は仕事・女は家庭」と言い、妻が働くことに反対した』(問14『イ. 女性の人権問題』別) >

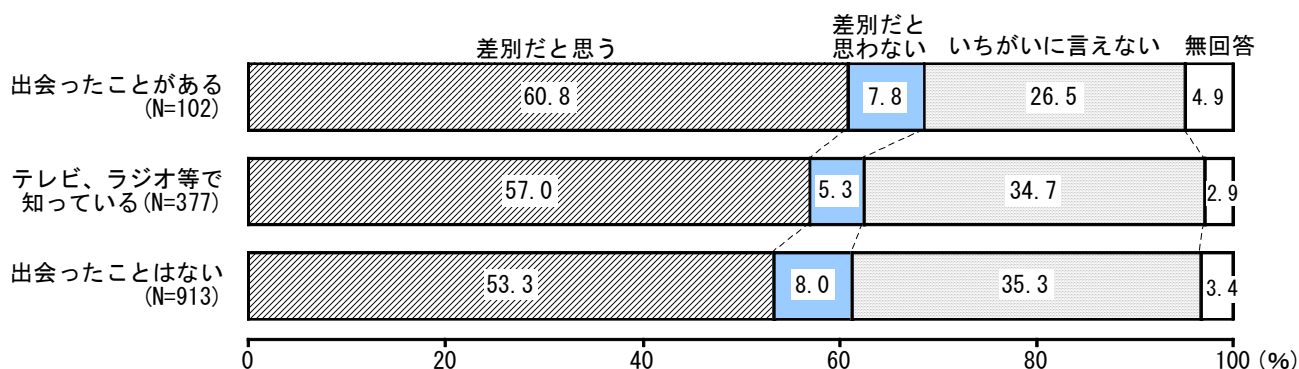


< 『ウ. 通学区域に同和地区があることで住宅購入をとりやめた』(問14『ア. 同和問題』別) >

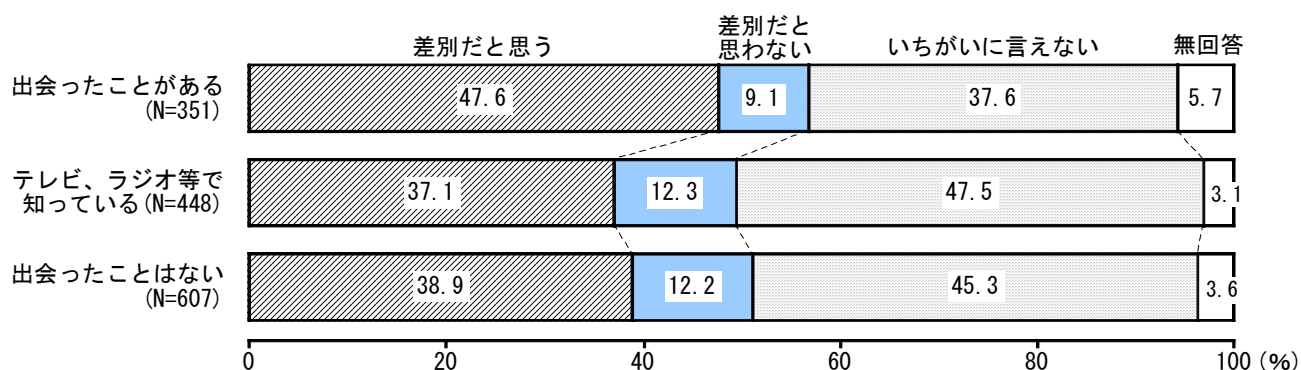


【図表 1-8-3 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況(問 14) 別 差別に対する考え方】

< 『エ. 外国人を理由に賃貸マンションへの入居を断られた』(問 14 『カ. 外国人の人権問題』 別) >



< 『オ. 自宅近くに精神科病院が建設されると聞き反対した』(問 14 『オ. 障害のある人の人権問題』 別) >

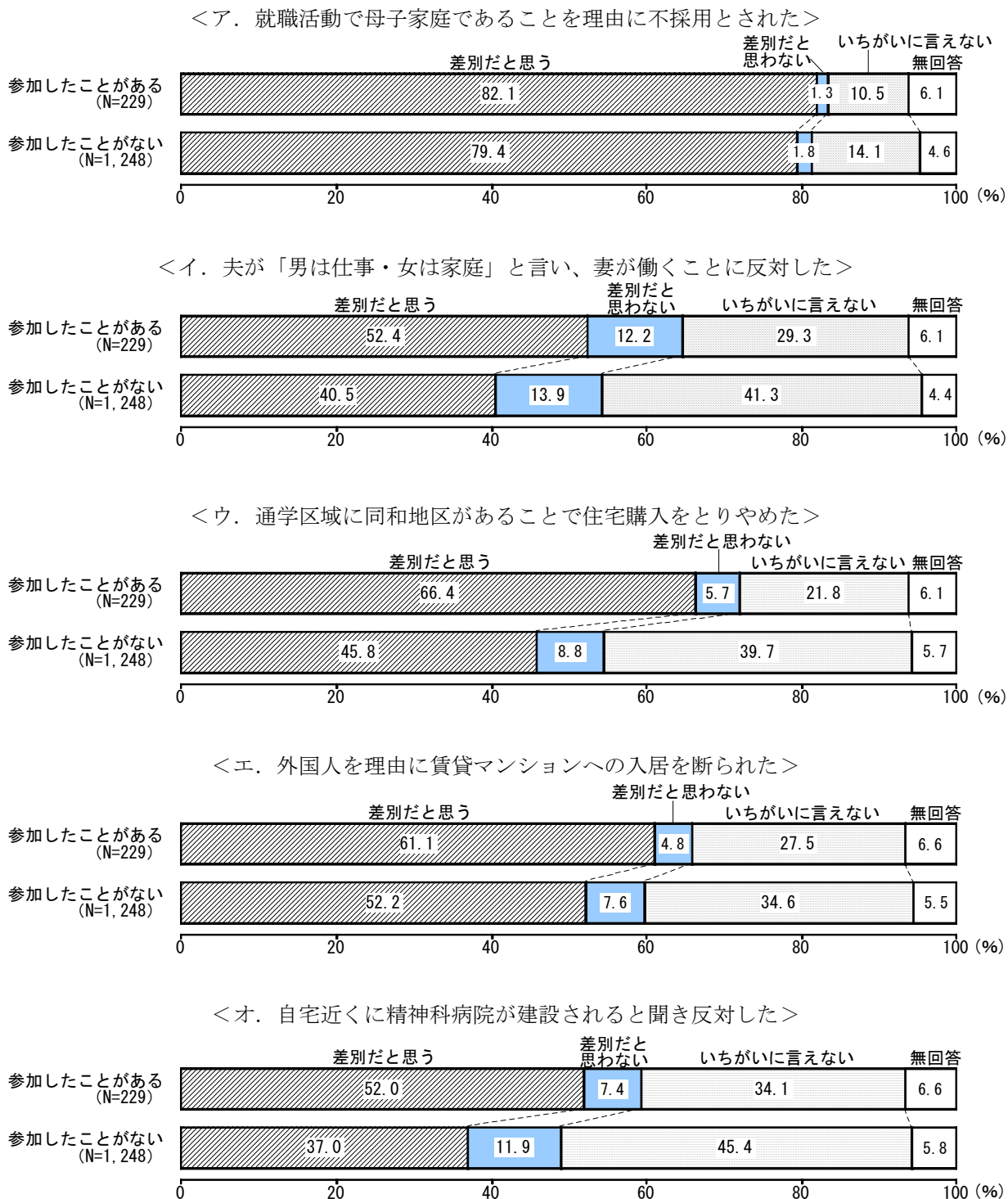


* 「出会ったことがある」: 「親族・近所等にいる」「親しく付き合っている人にいる」「親しい付き合いではないが、いる」の計

人権問題の解決に取り組んでいる人との出会いの状況(問 14)のうち、関連する項目別に差別に対する考え方をみたところ、『ウ. 通学区域に同和地区があることで住宅購入をとりやめた』について、「差別だと思う」が『出会ったことがある』で58.8%と、『テレビ、ラジオ等で知っている』、『出会ったことはない』に比べ10ポイント前後高くなっている。逆に『テレビ、ラジオ等で知っている』、『出会ったことはない』では、「いちがいに言えない」が各々4割台となっている。

また、『オ. 自宅近くに精神科病院が建設されると聞き反対した』についても、「差別だと思う」が『出会ったことがある』で5割弱(47.6%)と、『テレビ、ラジオ等で知っている』、『出会ったことはない』に比べて約10ポイント高くなっている。(図表 1-8-3)

【図表 1-8-4 人権研修等への参加経験(問 11) 別 差別に対する考え方】



人権研修等への参加経験（問 11）別に差別に対する考え方をみたとところ、「差別だと思う」がいずれの項目においても、参加したことがある人のほうが高く、概ね 10～20 ポイントの差がみられる。特に『ウ. 通学区域に同和地区があることで住宅購入をとりやめた』では、参加したことがある人で 66.4% に対し、参加したことがない人で 45.8% と、参加したことがある人のほうが 20.6 ポイント高くなっている。（図表 1-8-4）

【参考データ】差別敏感尺度について

差別に対する考え方を要約的に分析するための参考データとして、ア～オの各質問項目の回答に応じ点数化（下記「点数一覧」参照）し、その累計を回答者数（当該質問の無回答者を除く）で除して全体の平均スコアを算出した。

全体のスコア値は、差別行為に対する府民の感度の強さの程度を表す指標（差別敏感尺度）で、その値は最小5点、最大15点となる。

スコア値が15点に近いほど、差別行為に対する感度は強く、5点に近いほど感度は弱いことを表している。

～点数一覧～

「1. 差別だと思う」…3点 / 「3. いちがいに言えない」…2点 / 「2. 差別だと思わない」…1点

【図表 1-8-5 差別敏感尺度】

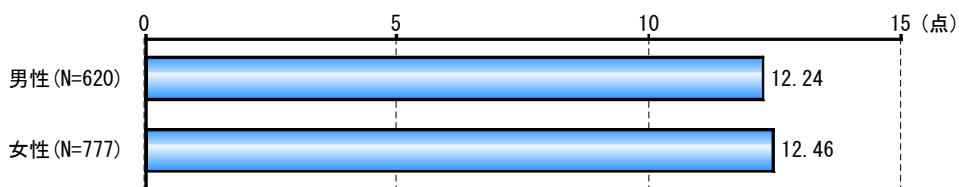
項目		スコア
各質問項目ごとのスコア	ア. 就職活動で母子家庭であることを理由に不採用とされた	2.82
	イ. 夫が「男は仕事・女は家庭」と言い、妻が働くことに反対した	2.30
	ウ. 通学区域に同和地区があることで住宅購入をとりやめた	2.43
	エ. 外国人を理由に賃貸マンションへの入居を断られた	2.49
	オ. 自宅近くに精神科病院が建設されると聞き反対した	2.30
全体の平均スコア (差別行為に対する府民の感度の強さを表す指標)		12.36

上記の表では、差別行為に対する府民の感度の強さを示すスコア値は12.36となっている。

なお、質問項目ごとの個別のスコアは、『ア. 就職活動で母子家庭であることを理由に不採用とされた』で2.82と最も高く、次いで『エ. 外国人を理由に賃貸マンションへの入居を断られた』2.49、『ウ. 通学区域に同和地区があることで住宅購入をとりやめた』2.43などとなっている。スコア得点は2点を平均に、3点に近いほど該当質問の差別行為に対する感度が強く、1点に近いほど感度が弱い傾向を示している。(図表 1-8-5)

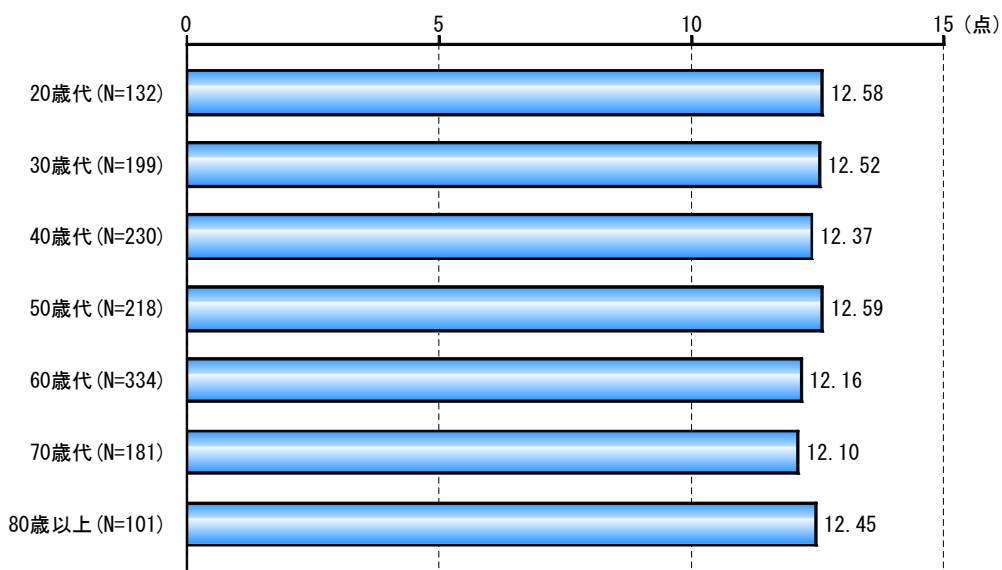
【参考データ】差別敏感尺度について

【図表 1-8-6 性別 差別敏感尺度（全体・平均）】



性別に差別敏感尺度（全体）をみたところ、男性 12.24 に対し、女性 12.46 となっている。（図表 1-8-6）

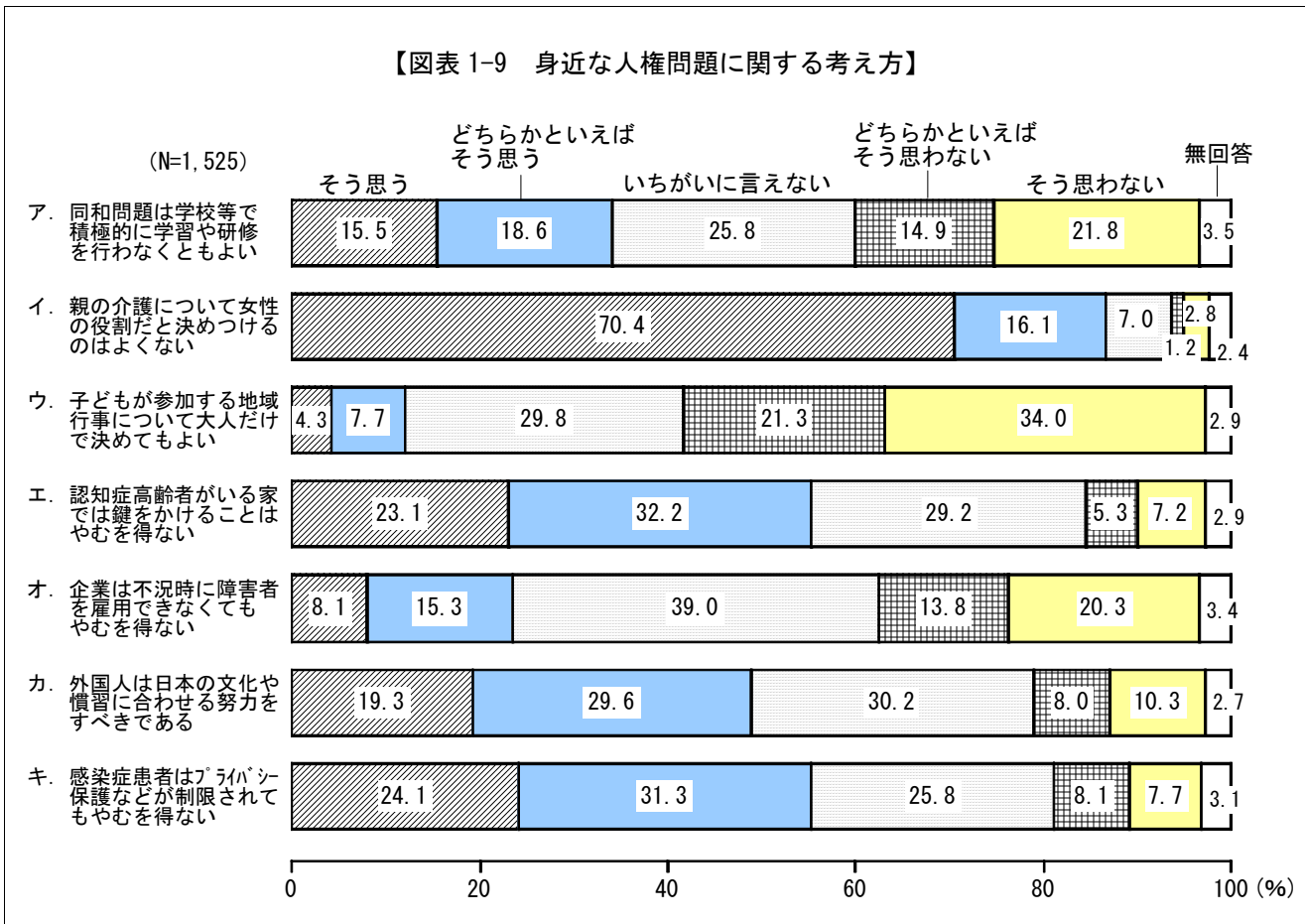
【図表 1-8-7 年齢別 差別敏感尺度（全体・平均）】



年齢別に差別敏感尺度（全体）をみたところ、50歳代で 12.59、20歳代で 12.58 とやや高い。一方、70歳代で 12.10、60歳代で 12.16 と、他の年齢層に比べてやや低い値となっている。（図表 1-8-7）

2. 身近な人権問題に関する考え方

問6 人権の尊重や侵害については、人によっていろいろと考え方の違いがあります。次のア～キの各事項ごとに、あなたのお考えにもっとも近いものを選びあてはまる番号1つに○をつけてください。

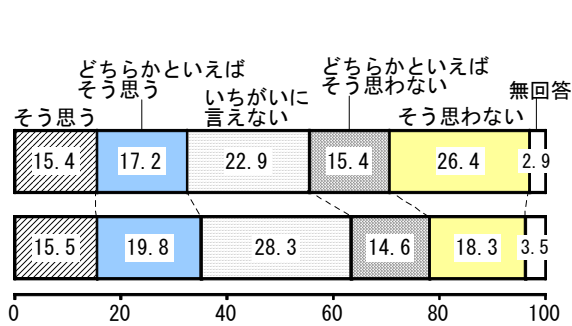


身近な人権問題に関する考え方として7項目についてたずねたところ、『イ. 親の介護について女性の役割だと決めつけるのはよくない』において「そう思う」が70.4%を占め、「どちらかといえばそう思う」(16.1%)を合わせると、“そう思う”という割合が86.5%と最も高い。これに続くのが『キ. 感染症患者はプライバシー保護などが制限されてもやむを得ない』55.4%、『エ. 認知症高齢者がいる家では鍵をかけることはやむを得ない』55.3%などとなっている。一方、“そう思わない”という割合(「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の計)では『ウ. 子どもが参加する地域行事について大人だけで決めてもよい』で55.3%と最も高くなっている。

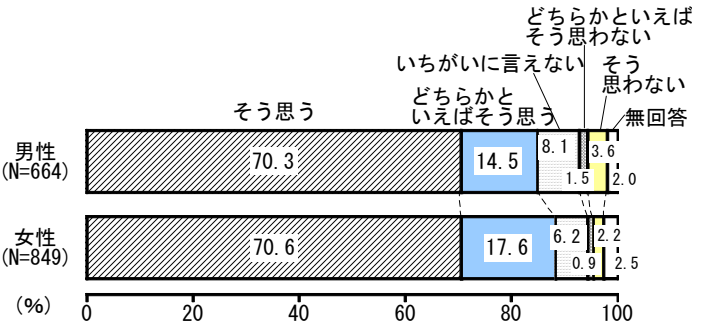
『ア. 同和問題は学校等で積極的に学習や研修を行わなくともよい』では“そう思う”の割合は34.1%、“そう思わない”の割合は36.7%で考え方が二分されており、「いちがいに言えない」の割合も25.8%で回答者の4人に1人を占めている。(図表 1-9)

【図表 1-9-1 性別 身近な人権問題に関する考え方】

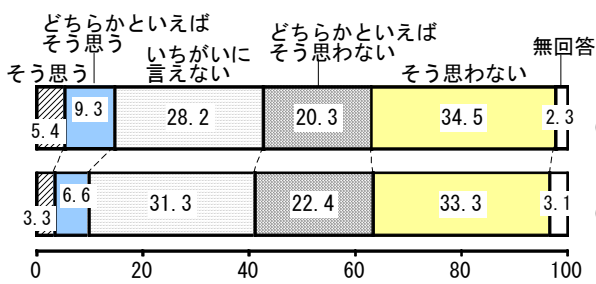
＜ア. 同和問題は学校等で積極的に
学習や研修を行わなくともよい＞



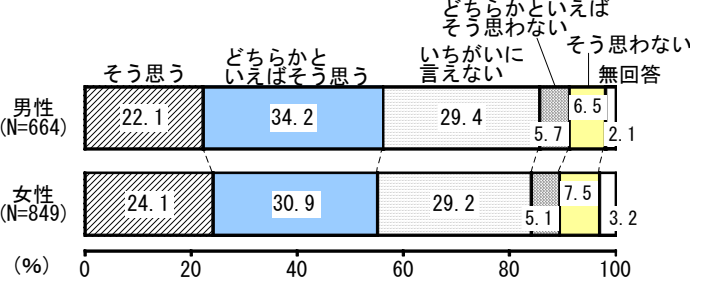
＜イ. 親の介護について女性の役割だと
決めつけるのはよくない＞



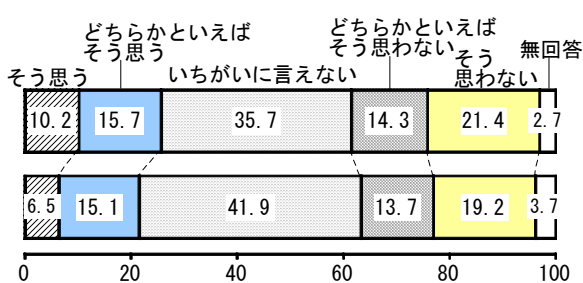
＜ウ. 子どもが参加する地域行事について
大人だけで決めてもよい＞



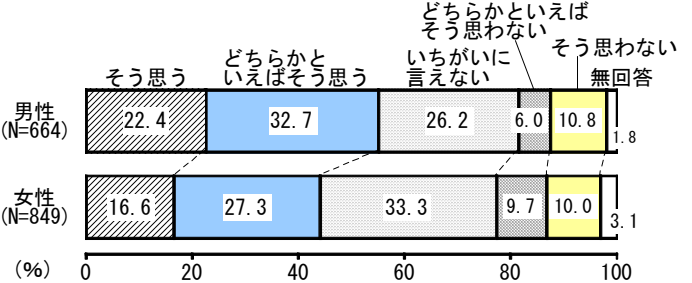
＜エ. 認知症高齢者がいる家では
鍵をかけることはやむを得ない＞



＜オ. 企業は不況時に障害者を
雇用できなくてもやむを得ない＞

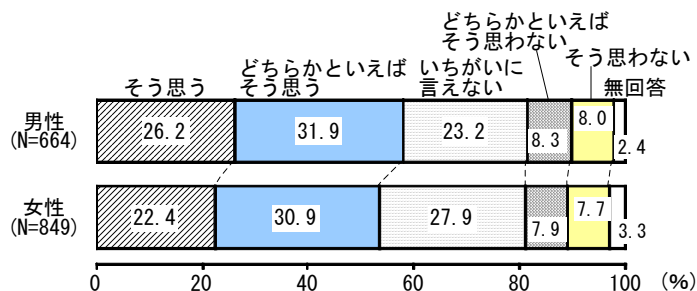


＜カ. 外国人は日本の文化や慣習に
合わせる努力をすべきである＞



【図表 1-9-1 性別 身近な人権問題に関する考え方】

<キ. 感染症患者はプライバシー保護などが制限されてもやむを得ない>

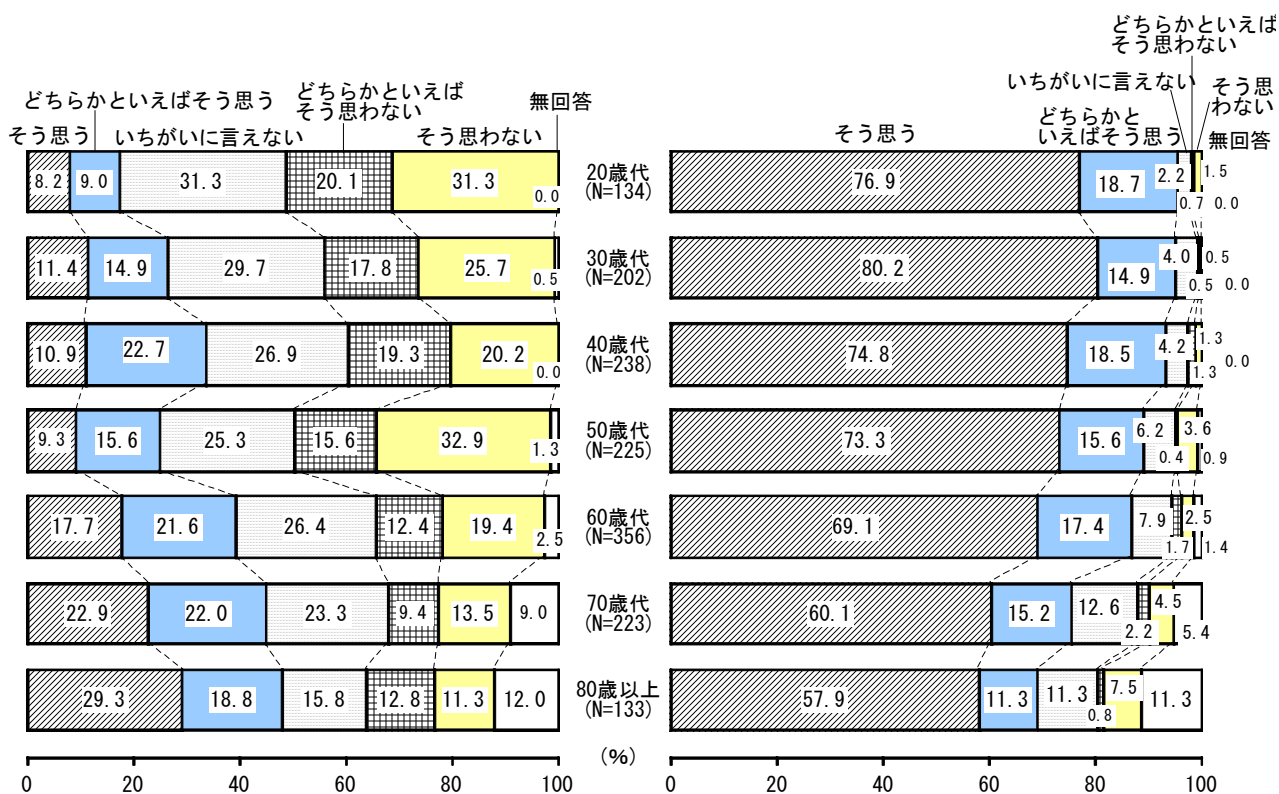


性別に身近な人権問題に関する考え方をみたところ、“そう思う”という割合（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計）では、『イ. 親の介護について女性の役割だと決めつけるのはよくない』で男性84.8%、女性88.2%と、ともに最も高くなっている。また、これに続くのが、男性では『キ. 感染症患者はプライバシー保護などが制限されてもやむを得ない』で58.1%、女性では『エ. 認知症高齢者がいる家では鍵をかけることはやむを得ない』で55.0%などとなっている。これに対し、“そう思わない”の割合（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の計）では男女間で比較的差がみられるのは、『ア. 同和問題は学校等で積極的に学習や研修を行わなくともよい』で、男性41.8%、女性32.9%と男性のほうが8.9ポイント高い。（図表 1-9-1）

【図表 1-9-2 年齢別 身近な人権問題に関する考え方】

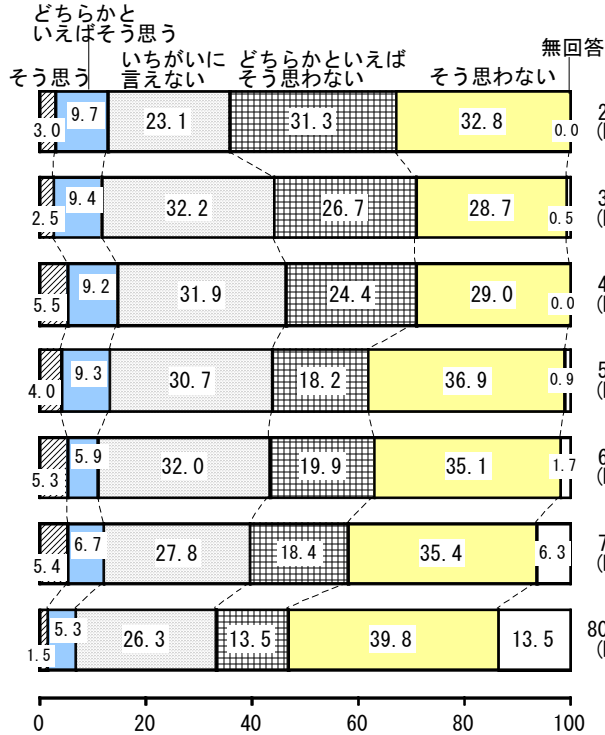
<ア. 同和問題は学校等で積極的に学習や研修を行わなくともよい>

<イ. 親の介護について女性の役割だと決めつけるのはよくない>

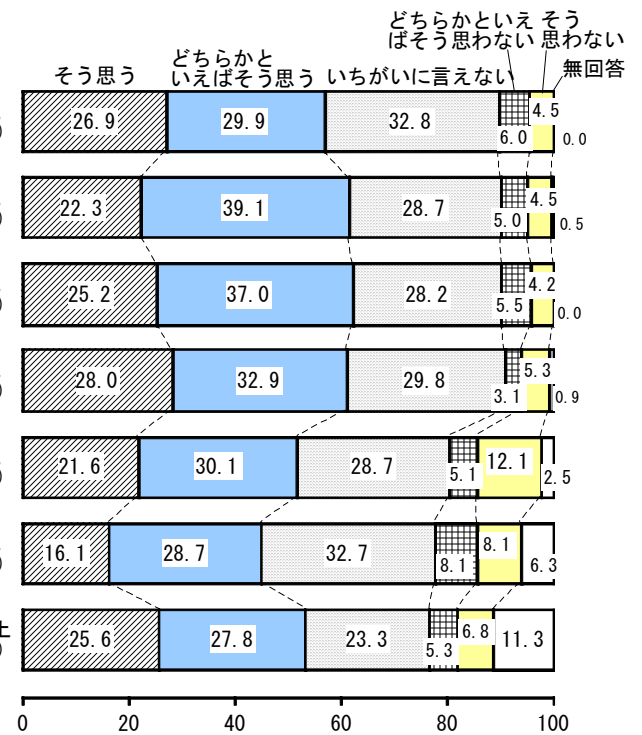


【図表 1-9-2 年齢別 身近な人権問題に関する考え方】

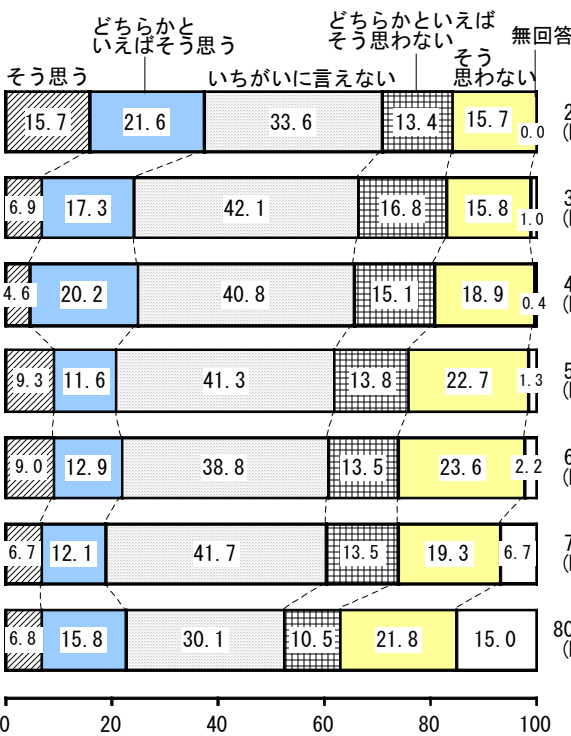
＜ウ. 子どもが参加する地域行事について
大人だけで決めてもよい＞



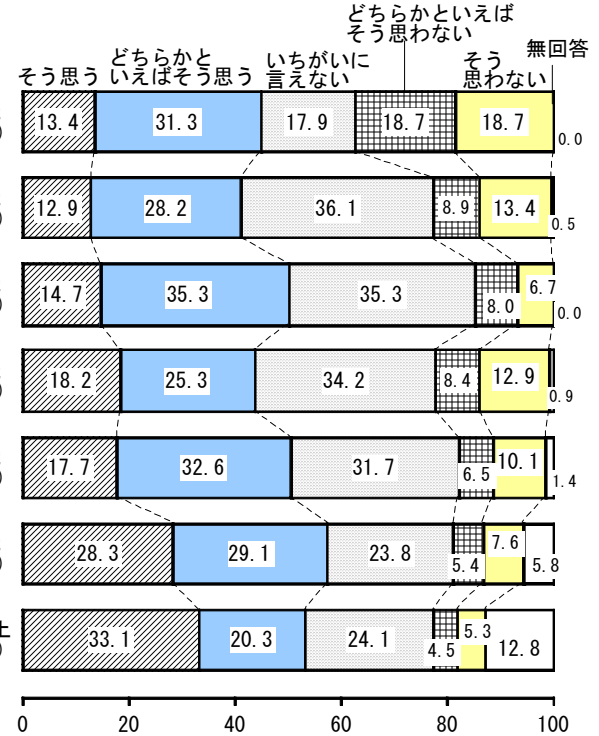
＜エ. 認知症高齢者がいる家では
鍵をかけることはやむを得ない＞



＜オ. 企業は不況時に障害者を
雇用できなくてもやむを得ない＞

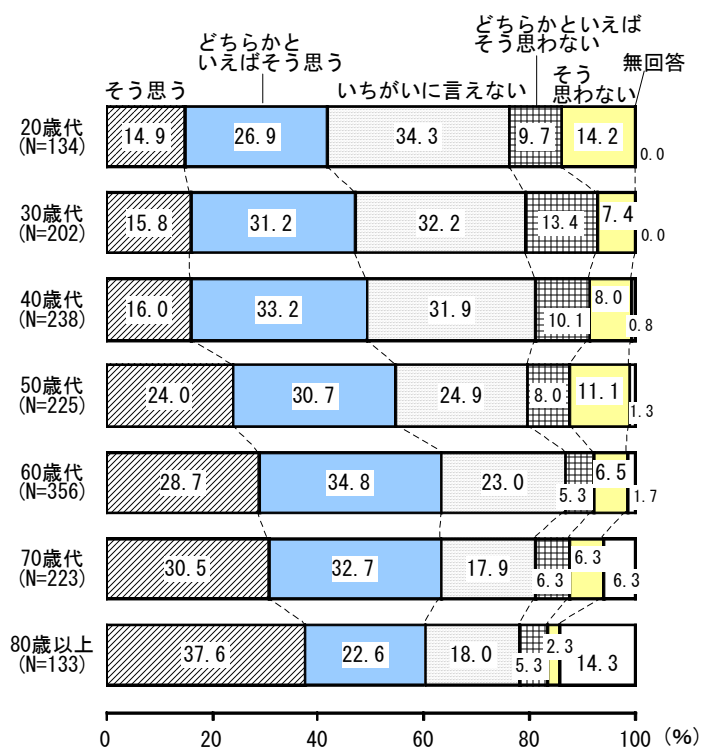


＜カ. 外国人は日本の文化や慣習に
合わせる努力をすべきである＞



【図表 1-9-2 年齢別 身近な人権問題に関する考え方】

<キ. 感染症患者はプライバシー保護などが制限されてもやむを得ない>

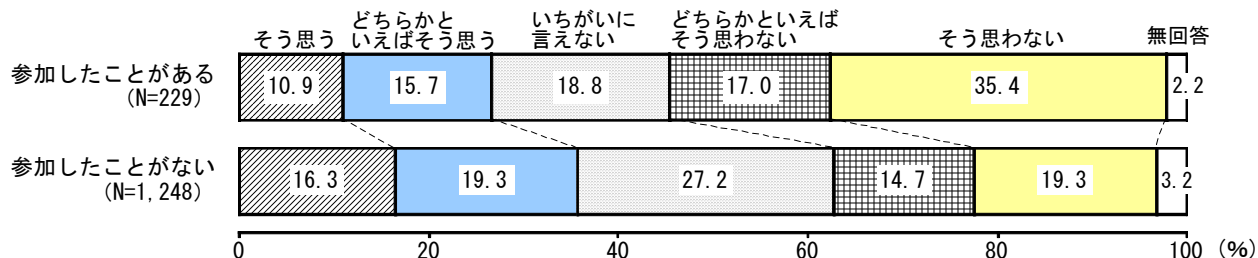


年齢別に身近な人権問題に関する考え方をみたところ、“そう思う”という割合（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計）では、いずれの年齢層においても『イ. 親の介護について女性の役割だと決めつけるのはよくない』が最も高く、特に20～40歳代では各々9割台を占める。また、年齢が上がるにしたがって割合は低くなる傾向にある。一方、“そう思わない”の割合（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の計）では、『ア. 同和問題は学校等で積極的に学習や研修を行わなくともよい』では、20～50歳代の割合がそれ以上の年代に比べ高くなっている。また、『ウ. 子どもが参加する地域行事について大人だけで決めてもよい』の“そう思わない”の割合は各年代とも半数を占めており、特に20歳代の割合が64.1%で最も高い。

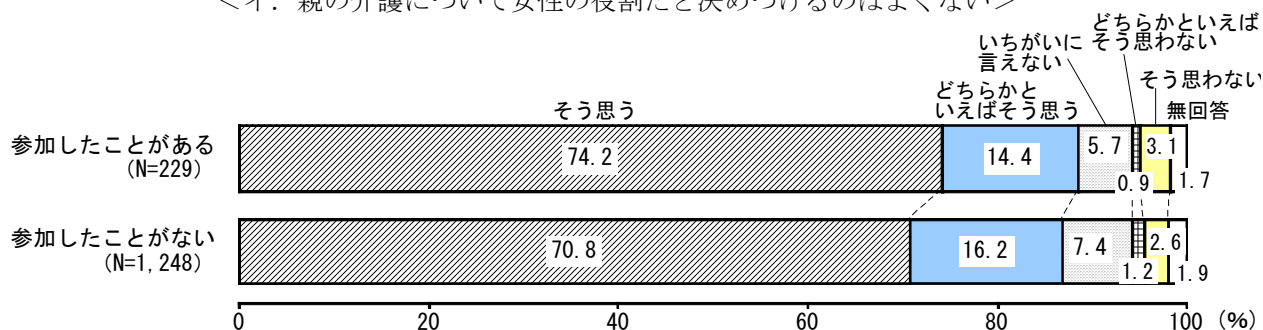
他の項目をみると、『キ. 感染症患者はプライバシー保護などが制限されてもやむを得ない』について、“そう思う”という割合は概ね年齢が上がるにしたがって高くなる傾向にあり、60歳代で63.5%、70歳代で63.2%と高い。また、『オ. 企業は不況時に障害者を雇用できなくてもやむを得ない』については、20歳代で37.3%と、他の年齢層に比べて特に高くなっている。（図表 1-9-2）

【図表 1-9-3 人権研修等への参加経験(問11)別 身近な人権問題に関する考え方】

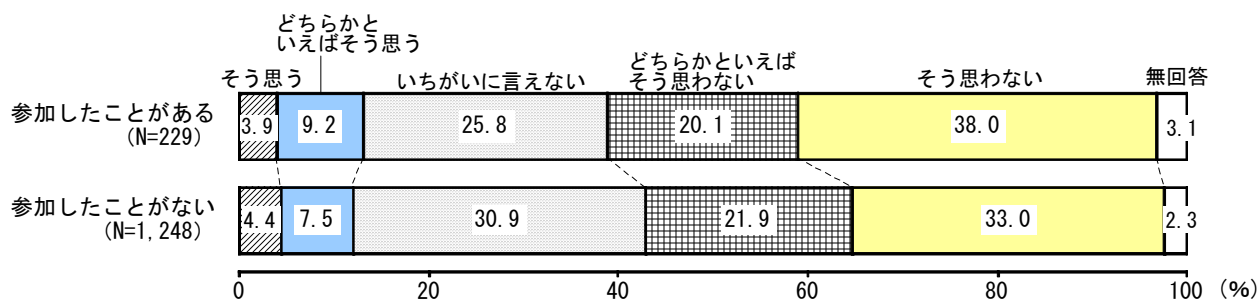
<ア. 同和問題は学校等で積極的に学習や研修を行わなくともよい>



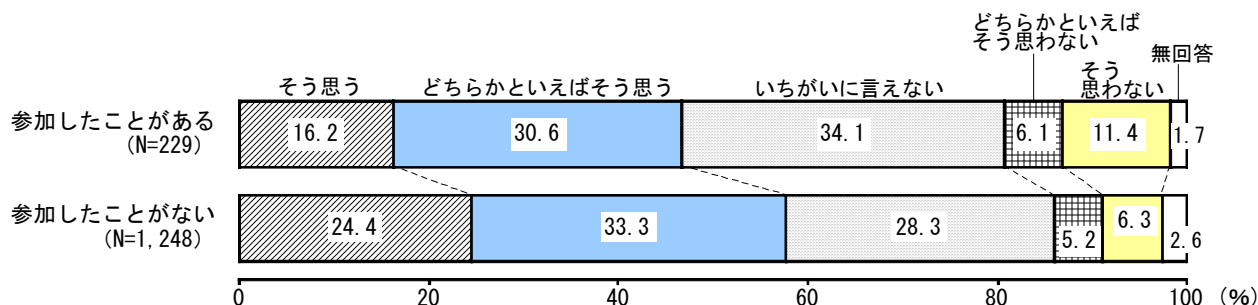
<イ. 親の介護について女性の役割だと決めつけるのはよくない>



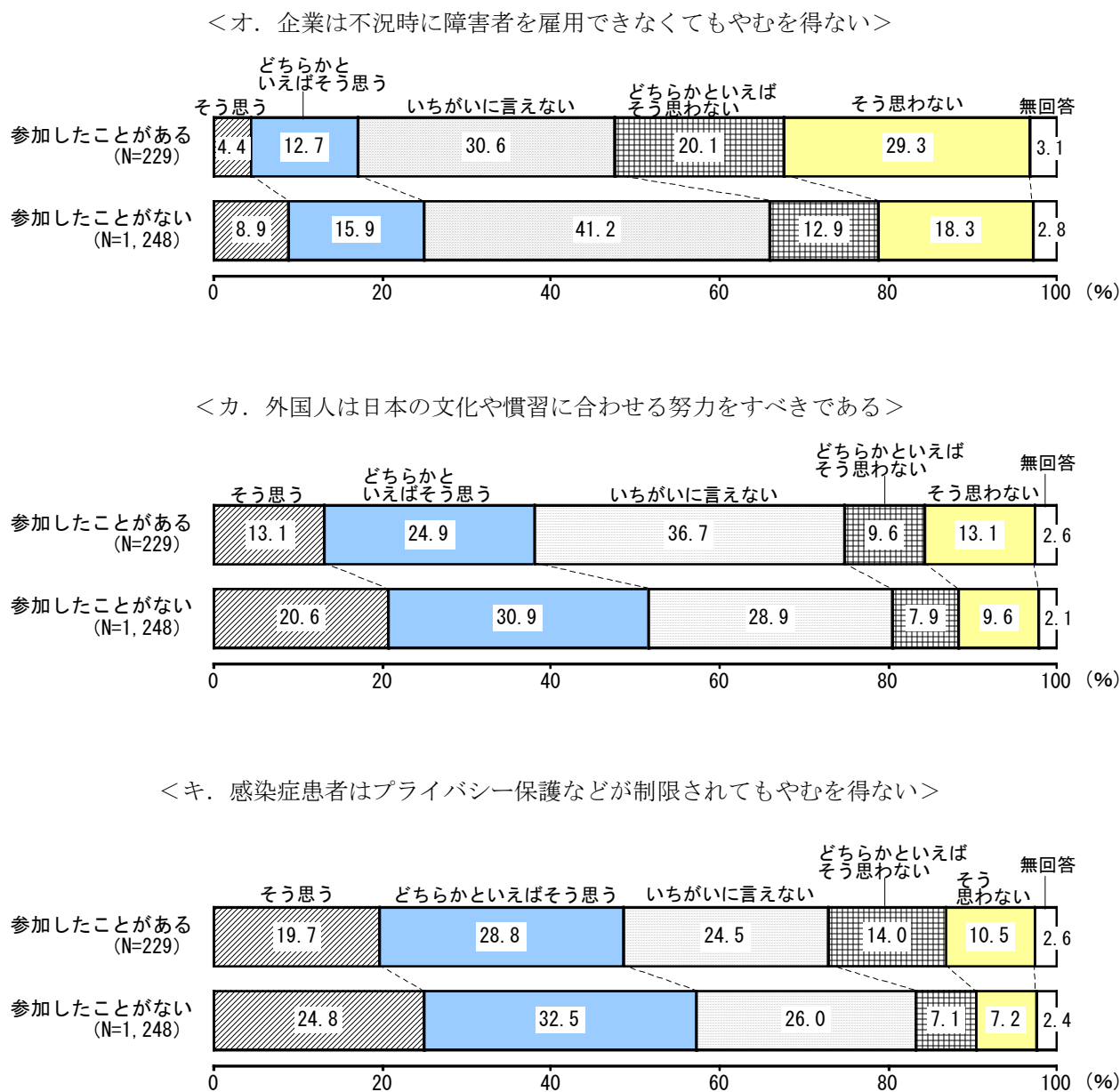
<ウ. 子どもが参加する地域行事について大人だけで決めてもよい>



<エ. 認知症高齢者がいる家では鍵をかけることはやむを得ない>



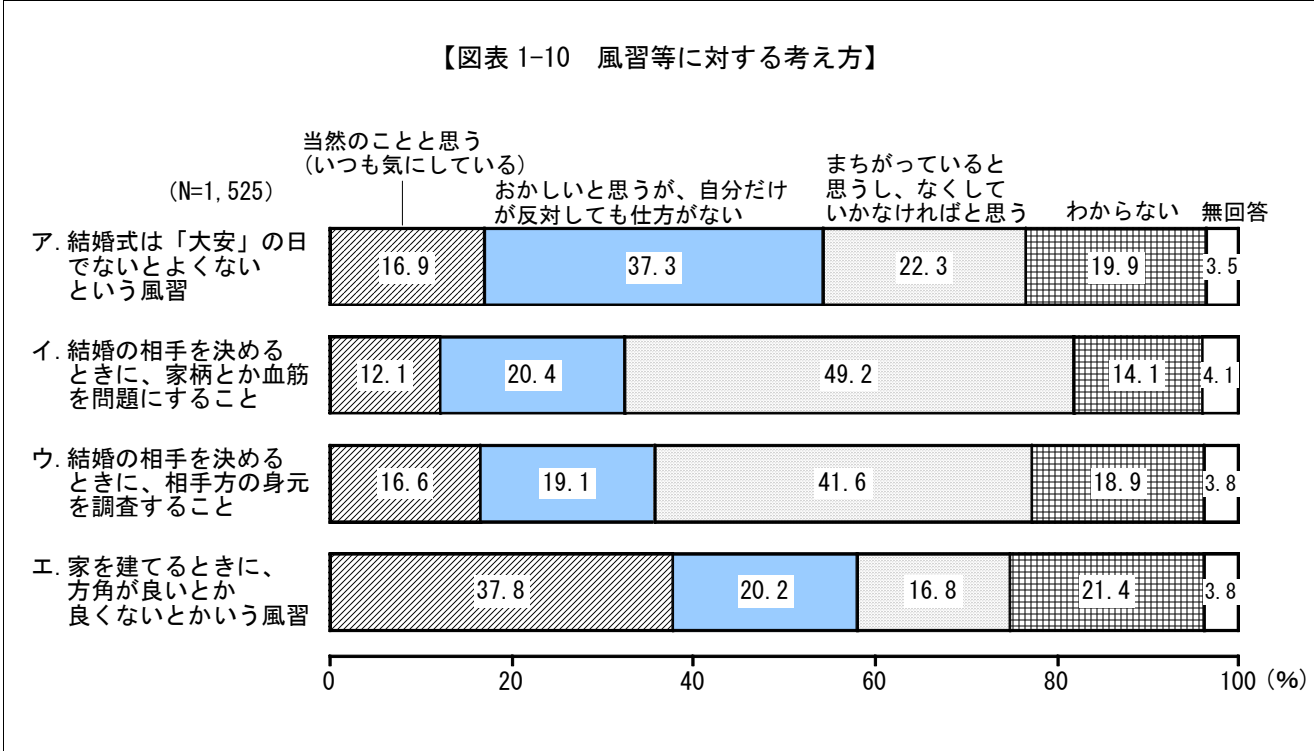
【図表 1-9-3 人権研修等への参加経験(問 11)別 身近な人権問題に関する考え方】



人権研修等への参加経験（問 11）別に身近な人権問題に関する考え方をみると、いずれの項目においても、“そう思わない”という割合（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の計）が、参加したことがない人に比べて、参加したことがある人のほうが高くなっており、特に『ア. 同和問題は学校等で積極的に学習や研修を行わなくともよい』では 18.4 ポイント、『オ. 企業は不況時に障害者を雇用できなくてもやむを得ない』では 18.2 ポイントと、それぞれ参加したことがある人のほうが高い。（図表 1-9-3）

3. 風習等に対する考え方

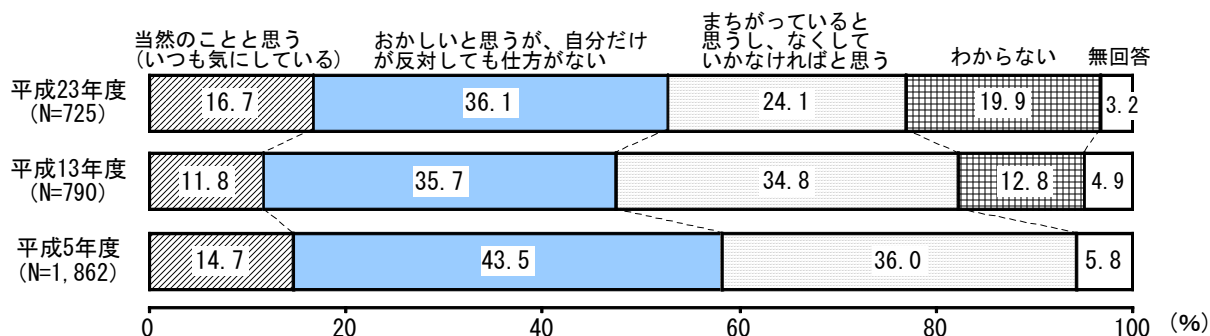
問7 あなたは、次にあげた事項についてどう思いますか。次のア～エの各事項ごとに、あなたのお考えにもっとも近いものを選びあてはまる番号1つに○をつけてください。



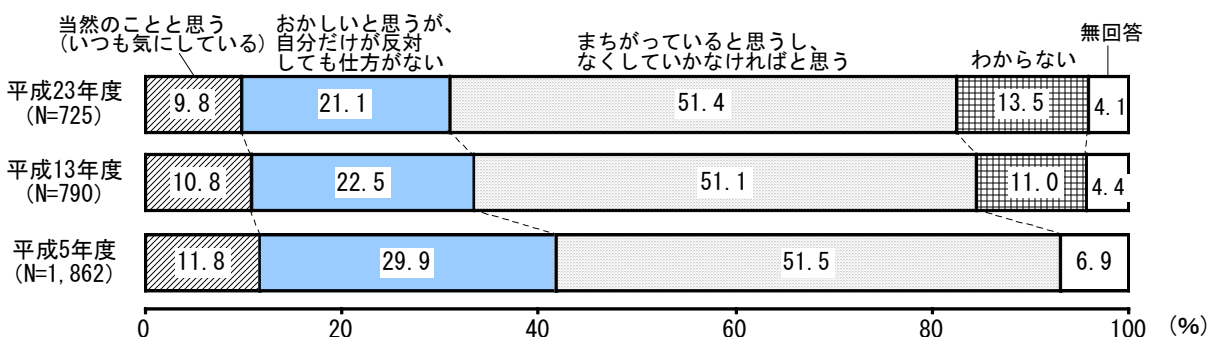
風習等に対する考え方として4項目についてたずねたところ、「当然のことと思う (いつも気にしている)」では『エ. 家を建てるときに、方角が良いとか良くないとかいう風習』で37.8%と最も高くなっている。一方、「おかしいと思うが、自分だけが反対しても仕方がない」では『ア. 結婚式は「大安」の日でないとうよくないという風習』で37.3%、「まちがっていると思うし、なくしていかねばと思う」では『イ. 結婚の相手を決めるときに、家柄とか血筋を問題にすること』で49.2%と、それぞれ最も高い。(図表 1-10)

〔参考〕経年比較 ※平成23年度については「京都市」を除いた値で集計している。

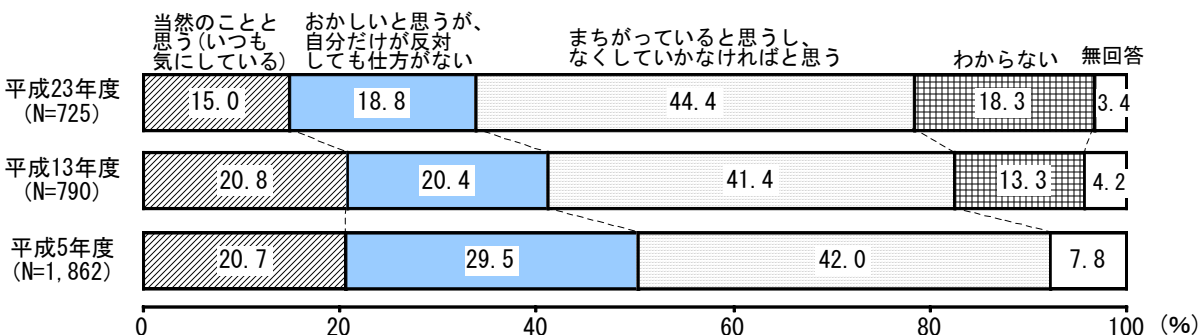
<ア. 結婚式は「大安」の日でないとうけないという風習>



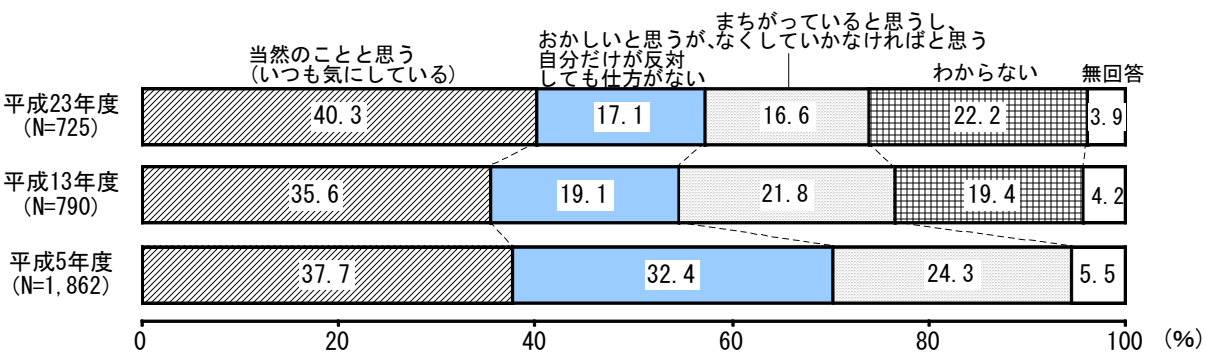
<イ. 結婚の相手を決めるときに、家柄とか血筋を問題にすること>



<ウ. 結婚の相手を決めるときに、相手方の身元を調査すること>

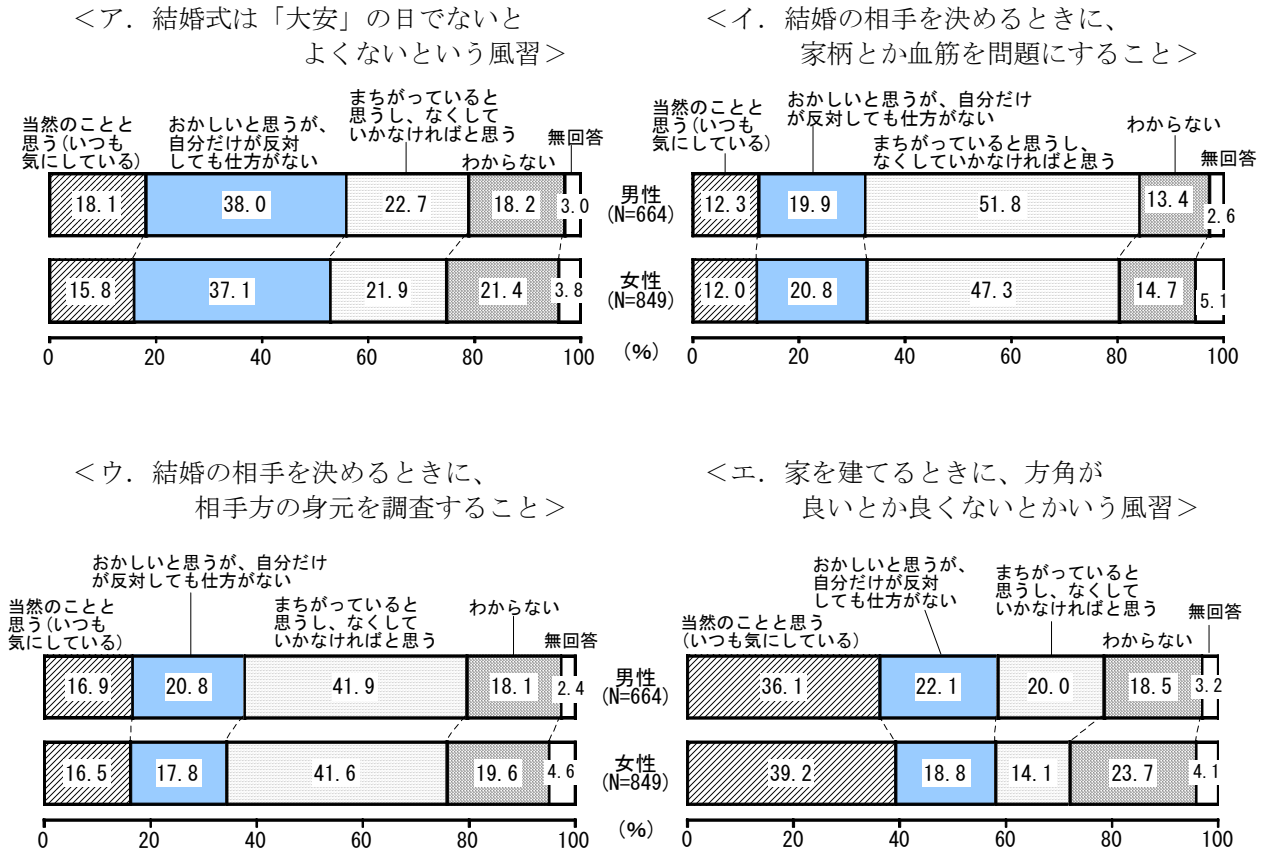


<エ. 家を建てるときに、方角が良いとか良くないとかいう風習>



※) 平成5年度調査においては「わからない」という選択肢は含まれていなかった。

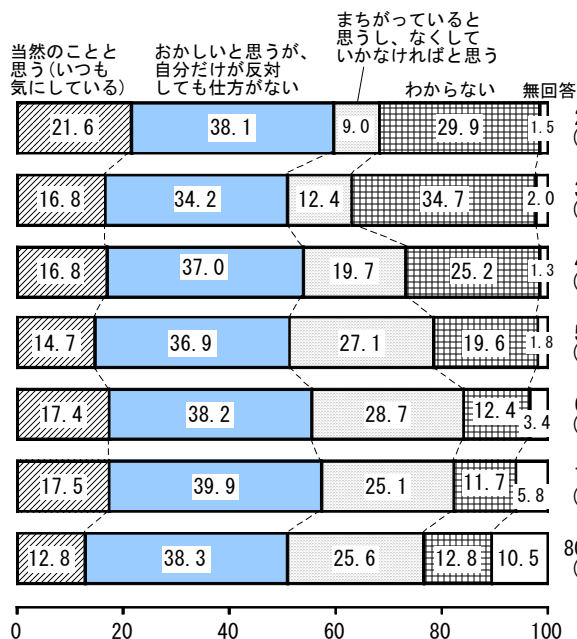
【図表 1-10-1 性別 風習等に対する考え方】



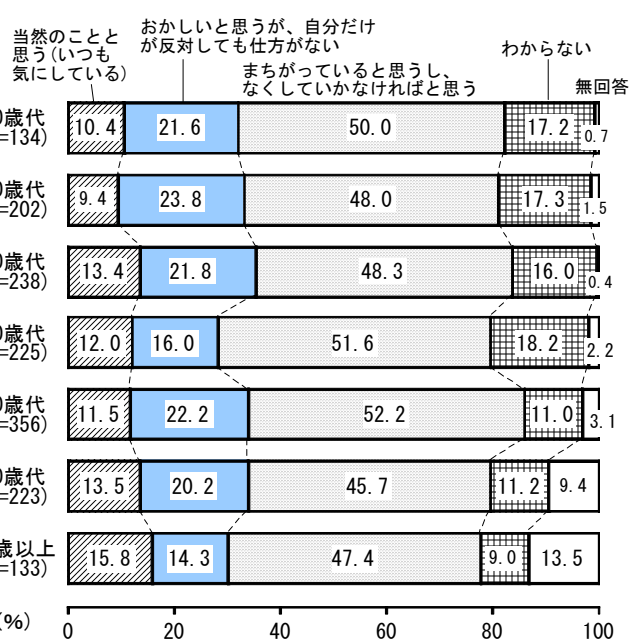
性別に風習等に対する考え方をみたところ、「当然のことと思う」では、男性・女性ともに『エ. 家を立てるときに、方角が良いとか良くないとかいう風習』が各々4割弱と最も高く、「おかしいと思うが、自分だけが反対しても仕方がない」では、男性・女性ともに『ア. 結婚式は「大安」の日でないとうまくないという風習』が各々4割弱、「まちがっていると思うし、なくしていかねばと思う」では、男性・女性ともに『イ. 結婚の相手を決めるときに、家柄とか血筋を問題にすること』で各々5割前後と最も高く、次いで『ウ. 結婚の相手を決めるときに、相手方の身元を調査すること』で4割強などとなっている。(図表 1-10-1)

【図表 1-10-2 年齢別 風習等に対する考え方】

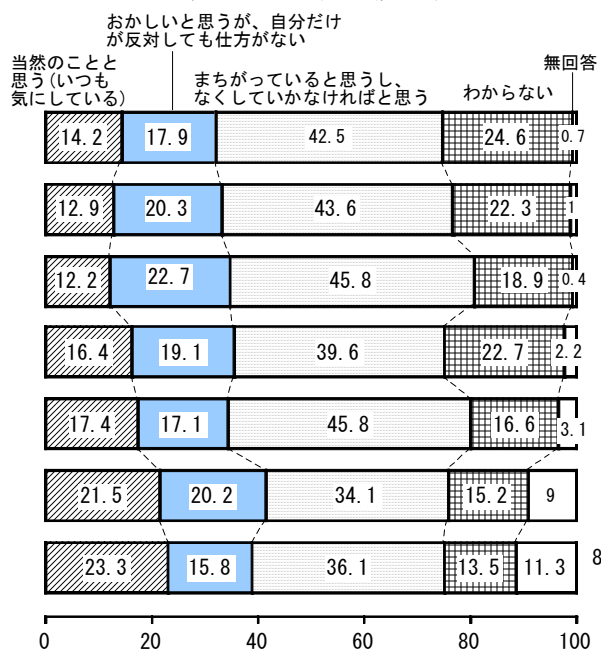
＜ア. 結婚式は「大安」の日でないとかよくないという風習＞



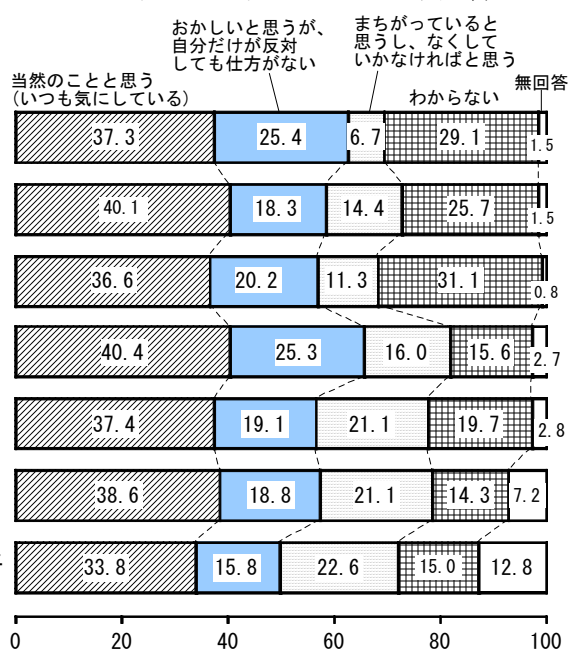
＜イ. 結婚の相手を決めるときに、家柄とか血筋を問題にすること＞



＜ウ. 結婚の相手を決めるときに、相手方の身元を調査すること＞

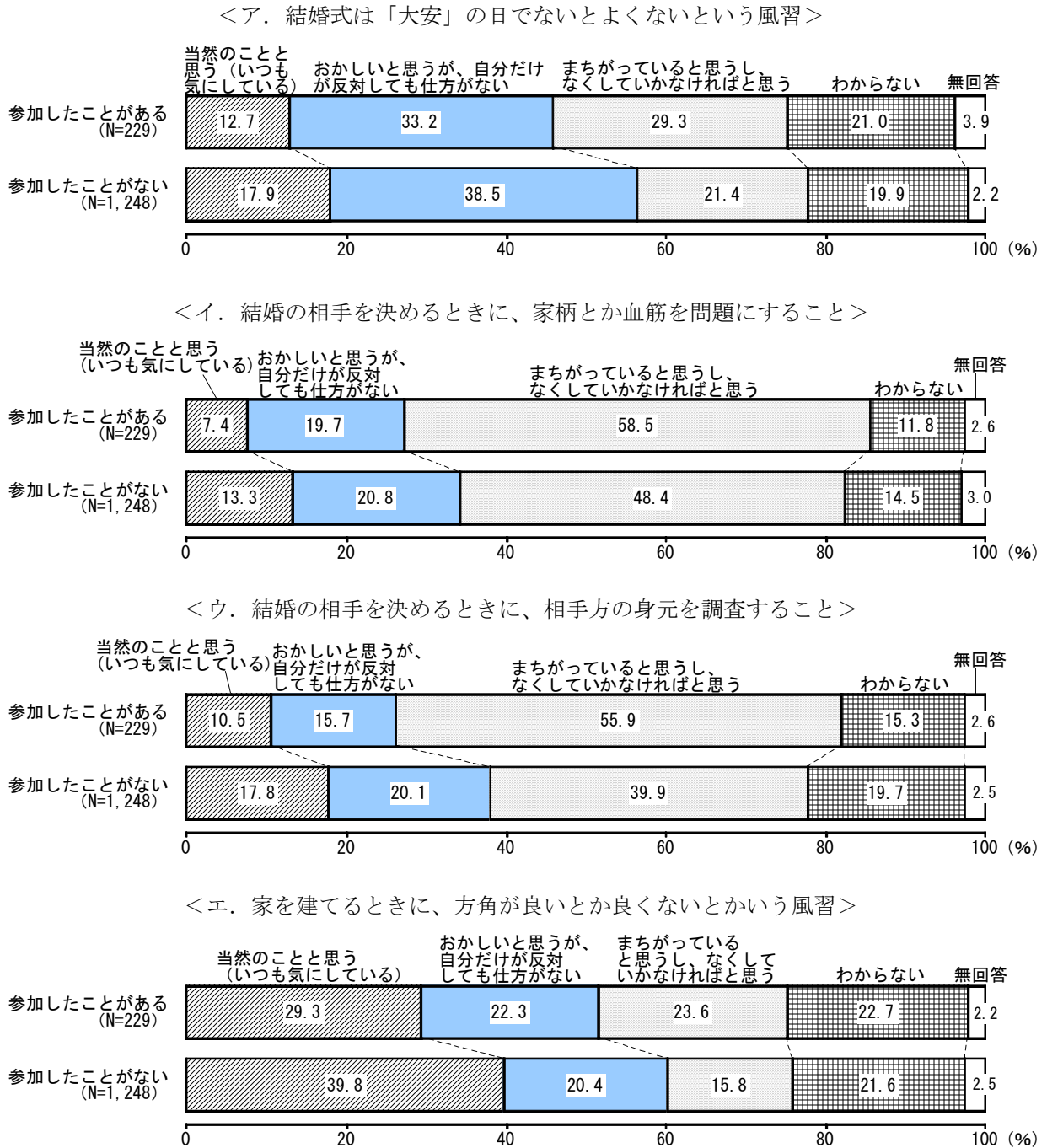


＜エ. 家を作るときに、方角が良いとか良くないとかいう風習＞



年齢別に風習等に対する考え方をみたところ、「当然のことと思う(いつも気にしている)」では各年齢層とも『エ. 家を作るときに、方角が良いとか良くないとかいう風習』が4割前後と高く、「おかしいと思うが、自分だけが反対しても仕方がない」では各年齢層とも『ア. 結婚式は「大安」の日でないとかよくないという風習』が4割弱と高く、「まちがっていると思うし、なくしていかなければと思う」では『イ. 結婚の相手を決めるときに、家柄とか血筋を問題にすること』が各年齢層とも5割前後、『ウ. 結婚の相手を決めるときに、相手方の身元を調査すること』が各年齢層とも4割前後と高くなっている。(図表 1-10-2)

【図表 1-10-3 人権研修等への参加経験(問 11)別 風習等に対する考え方】

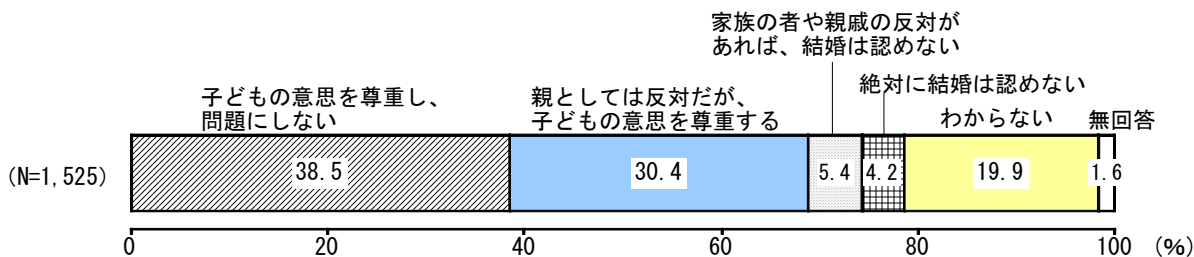


人権研修等への参加経験(問 11)別に風習等に対する考え方をみると、いずれの項目においても「まちがっていると思うし、なくしていかねばと思う」が参加したことがある人で高くなっており、特に『ウ. 結婚の相手を決めるときに、相手方の身元を調査すること』において55.9%と、参加したことがない人(39.9%)に比べて16ポイント高い。一方、「当然のことと思う」が、いずれの項目においても、参加したことがない人で高くなっている。(図表 1-10-3)

4. 同和地区出身者との結婚に対する考え方

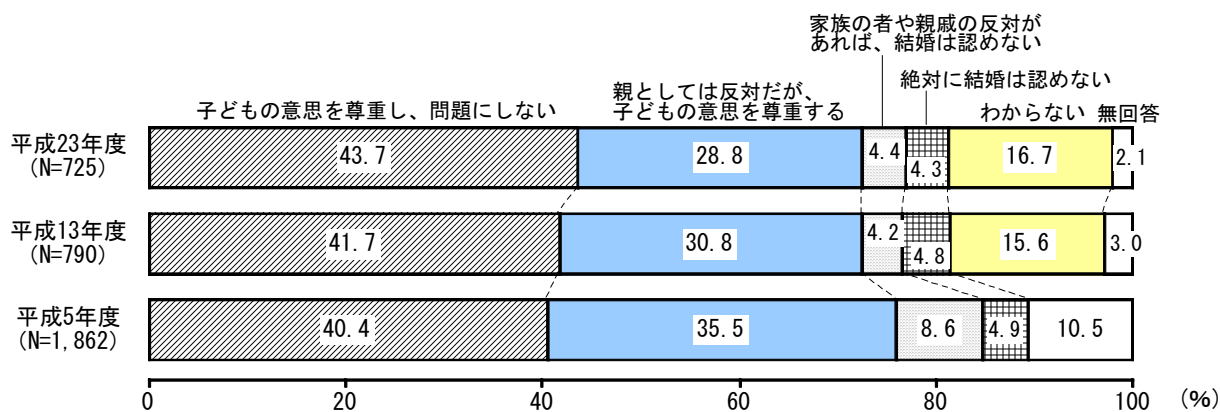
問8 仮にあなたにお子さんがいた場合、お子さんの結婚しようとする相手が同和地区出身者と分かった場合、あなたはどのようにお考えですか。次の中からあてはまる番号1つに○をつけてください。

【図表 1-11 同和地区出身者との結婚に対する考え方】



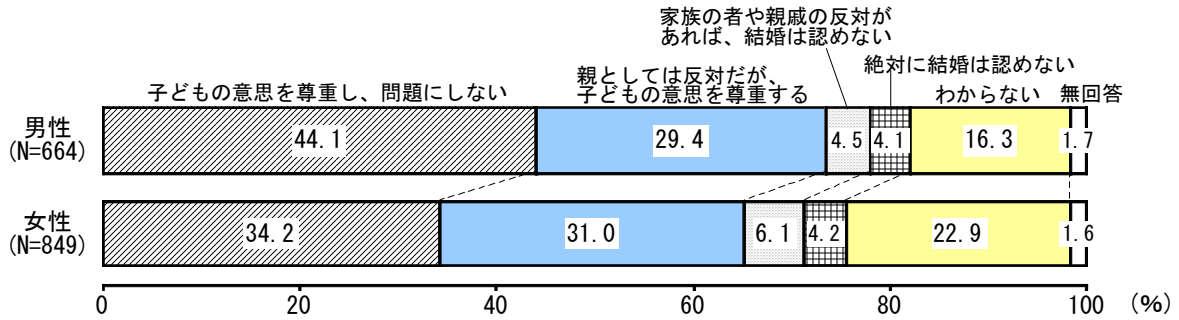
子どもの結婚相手が同和地区出身者と分かった場合どう思うかたずねたところ、「子どもの意思を尊重し、問題にしない」が38.5%と最も高く、次いで高い「親としては反対だが、子どもの意思を尊重する」(30.4%)を合わせると、「子どもの意思を尊重する」という割合が全体の68.9%となっている。(図表 1-11)

〔(参考) 経年比較〕 ※平成23年度については「京都市」を除いた値で集計している。



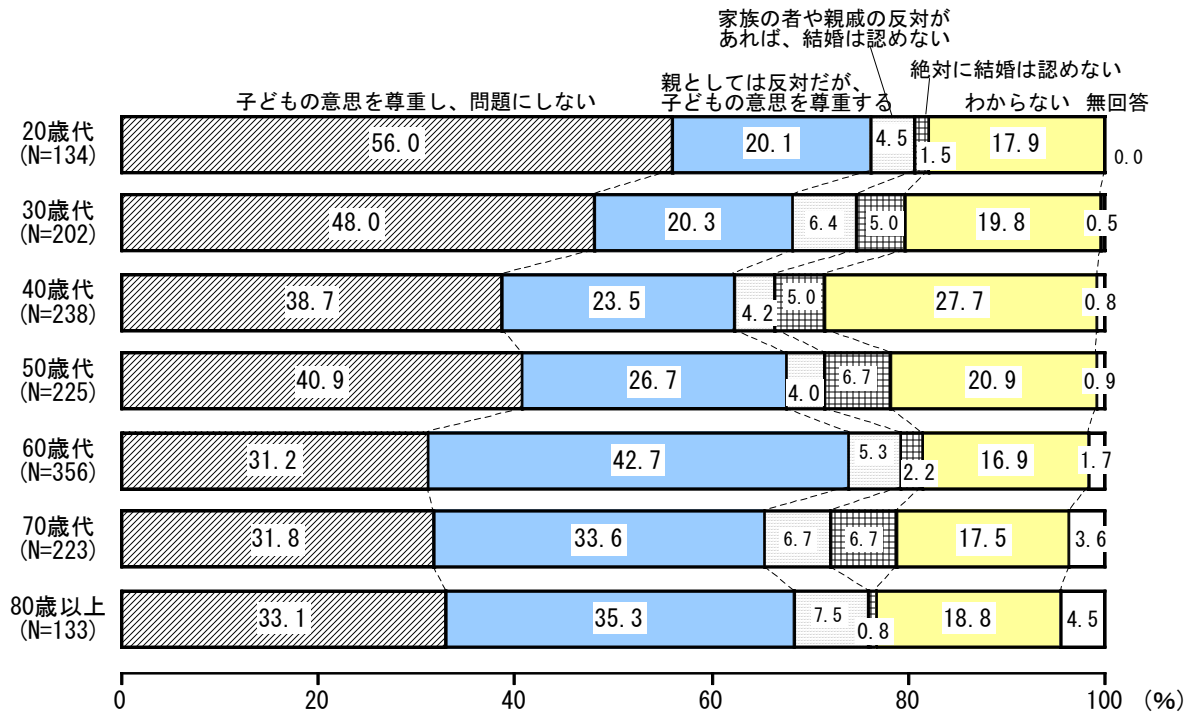
※) 平成5年度調査においては「わからない」という選択肢は含まれていなかった。

【図表 1-11-1 性別 同和地区出身者との結婚に対する考え方】



性別に同和地区出身者との結婚に対する考え方をみたところ、“子どもの意思を尊重する”という割合（「子どもの意思を尊重し、問題にしない」「親としては反対だが、子どもの意思を尊重する」の計）が男性73.5%に対し、女性65.2%と、男性のほうが8.3ポイント高くなっている。（図表 1-11-1）

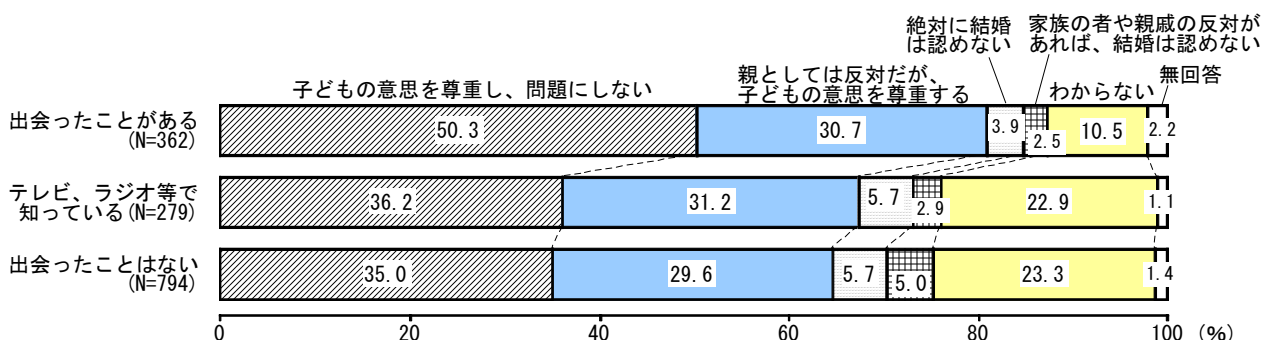
【図表 1-11-2 年齢別 同和地区出身者との結婚に対する考え方】



年齢別に同和地区出身者との結婚に対する考え方をみたところ、“子どもの意思を尊重する”という割合（「子どもの意思を尊重し、問題にしない」「親としては反対だが、子どもの意思を尊重する」の計）は20歳代で76.1%、60歳代で73.9%と、他の年齢層に比べて高くなっている。（図表 1-11-2）

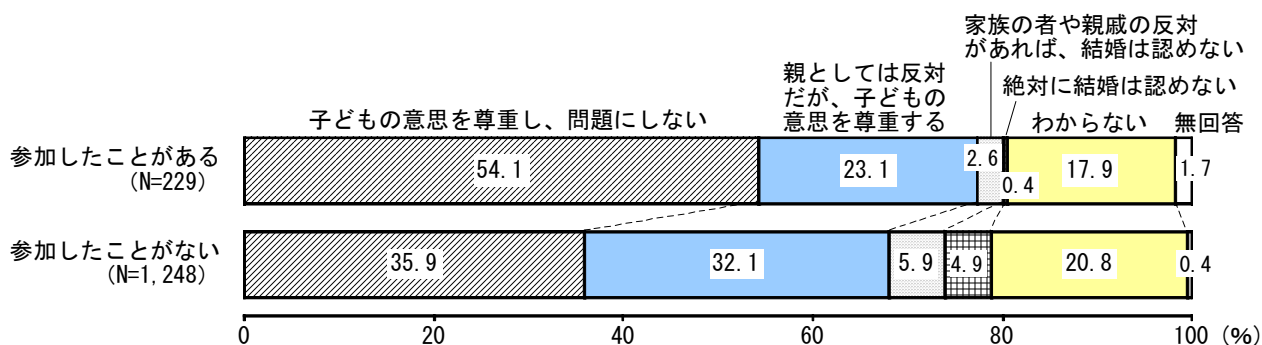
【図表 1-11-3 同和問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況(問 14-ア)別

同和地区出身者との結婚に対する考え方



同和問題の解決に取り組んでいる人との出会いの状況（問 14-ア）別に同和地区出身者との結婚に対する考え方をみると、「子どもの意思を尊重する」という割合（「子どもの意思を尊重し、問題にしない」「親としては反対だが、子どもの意思を尊重する」の計）が『出会ったことがある』で約8割（81.0%）となっているのに対し、『出会ったことはない』、『テレビ、ラジオ等で知っている』ではそれぞれ6割台となっている。（図表 1-11-3）

【図表 1-11-4 人権研修等への参加経験(問 11)別 同和地区出身者との結婚に対する考え方

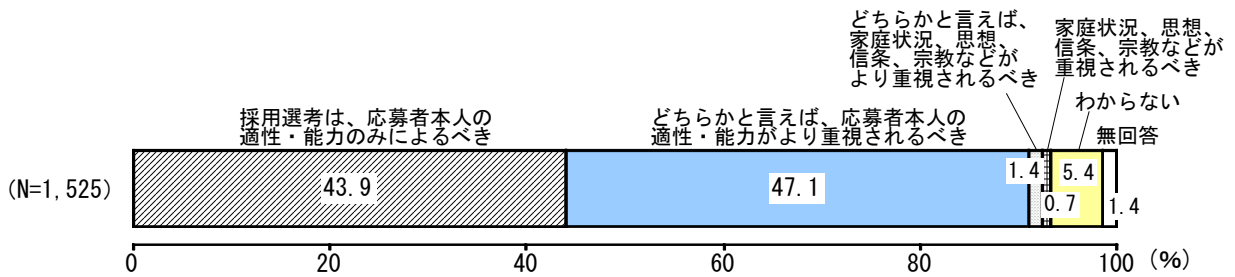


人権研修等への参加経験（問 11）別に同和地区出身者との結婚に対する考え方をみると、「子どもの意思を尊重する」という割合（「子どもの意思を尊重し、問題にしない」「親としては反対だが、子どもの意思を尊重する」の計）が、参加したことがある人で77.2%に対し、参加したことがない人では68.0%と、参加したことがある人のほうが9.2ポイント高くなっている。（図表 1-11-4）

5. 適性・能力とは無関係な家庭状況等を採用選考の判断材料とすることに対する考え方

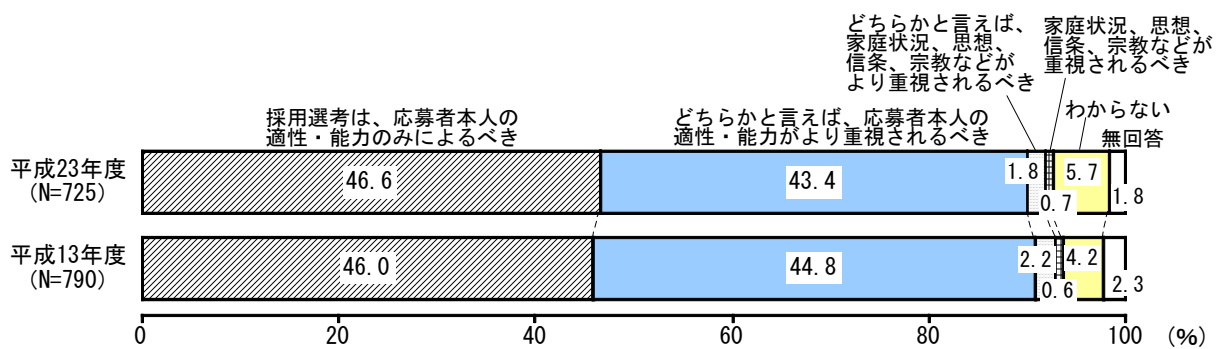
問9 就職の採用選考に当たって、応募者の適性・能力とは関係のない家庭状況（家族の職業、収入、住宅状況等）、思想、信条、宗教などを質問したり、身元を調査したりして、採用を決める際の判断材料とすることについて、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまる番号1つに○をつけてください。

【図表 1-12 家庭状況等を採用選考の判断材料とすることに対する考え方】



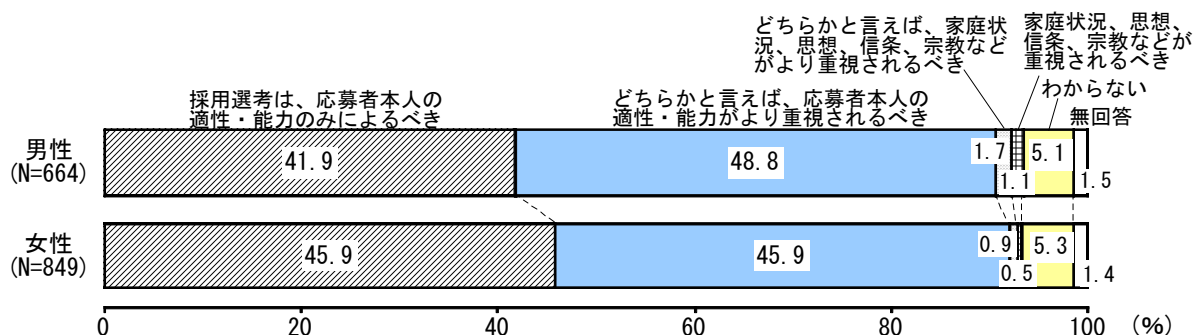
適性・能力とは無関係な家庭状況等を採用選考の判断材料とすることに対する考え方をたずねたところ、「どちらかと言えば、応募者本人の適性・能力がより重視されるべき」が47.1%と最も高く、次いで高い「採用選考は、応募者本人の適性・能力のみによるべき」(43.9%)を合わせると、「応募者本人の適性・能力が重視されるべき」という考え方が全体の91.0%となっている。(図表 1-12)

〔(参考) 経年比較〕 ※平成23年度については「京都市」を除いた値で集計している。



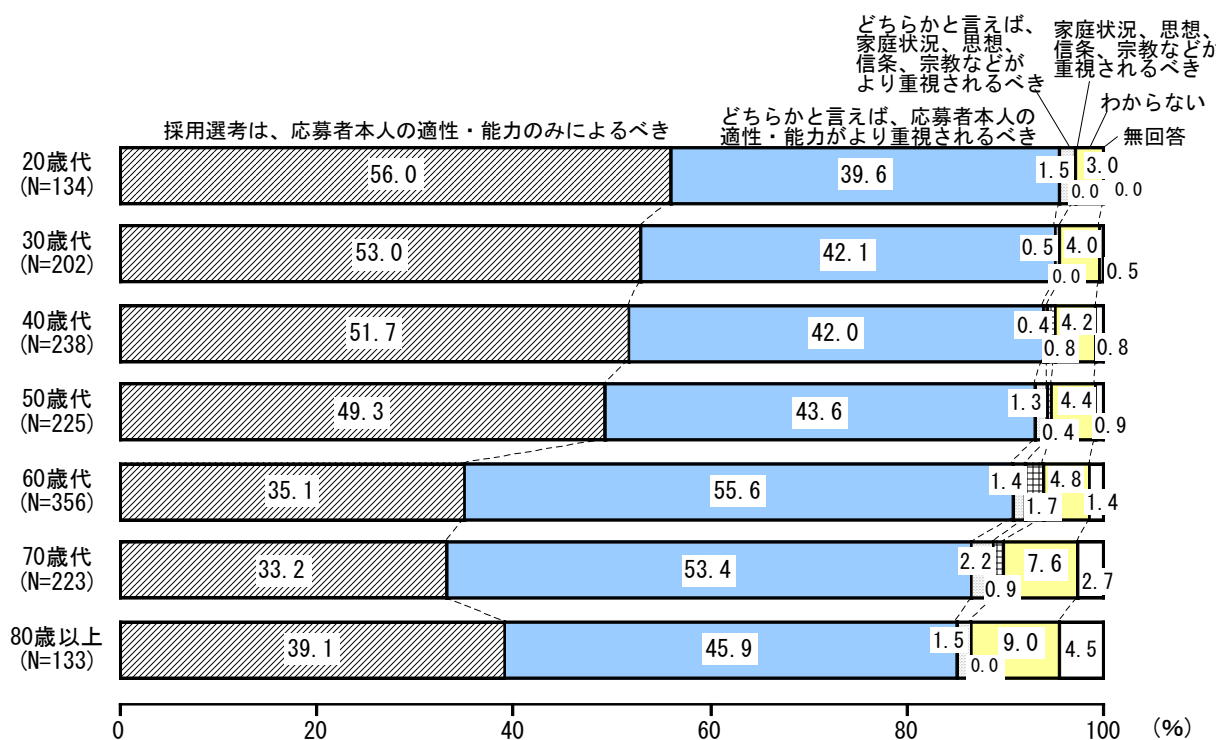
※) 平成5年度調査においては「わからない」という選択肢は含まれていなかった。

【図表 1-12-1 性別 家庭状況等を採用選考の判断材料とすることに対する考え方】



性別に家庭状況等を採用選考の判断材料とすることに対する考え方をみたところ、「採用選考は、応募者本人の適性・能力のみによるべき」が男性 41.9%に対し、女性 45.9%となっている。(図表 1-12-1)

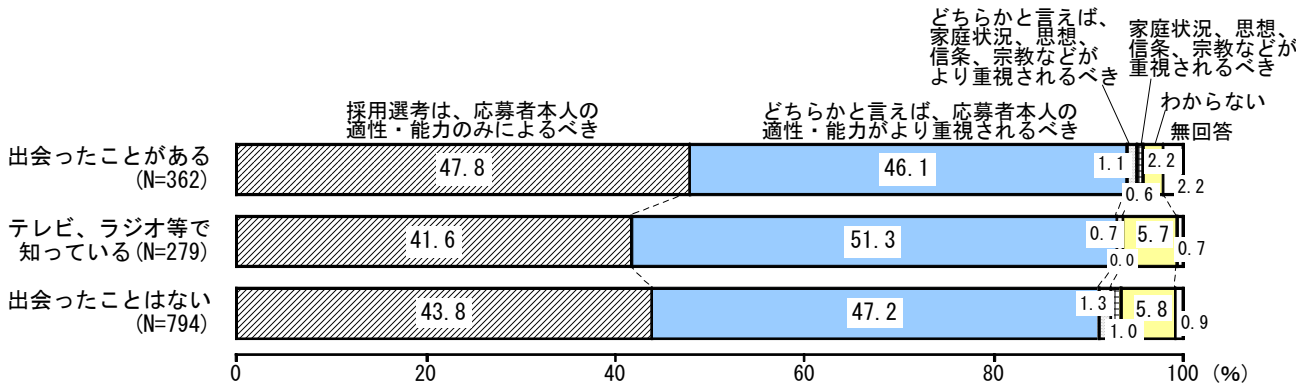
【図表 1-12-2 年齢別 家庭状況等を採用選考の判断材料とすることに対する考え方】



年齢別に家庭状況等を採用選考の判断材料とすることに対する考え方をみたところ、「採用選考は、応募者本人の適性・能力のみによるべき」が20歳代 (56.0%)、30歳代 (53.0%)、40歳代 (51.7%) で各々5割台となっている。一方、70歳代では33.2%、60歳代では35.1%にとどまっている。(図表 1-12-2)

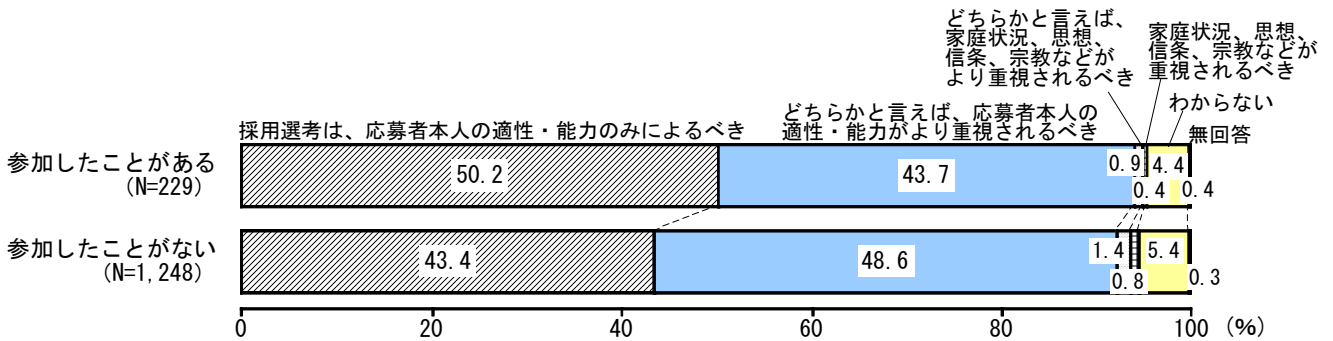
【図表 1-12-3 同和問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況(問 14-ア)別

家庭状況等を採用選考の判断材料とすることに対する考え方



同和問題の解決に取り組んでいる人との出会いの状況（問 14-ア）別に家庭状況等を採用選考の判断材料とすることに対する考え方をみたところ、「採用選考は、応募者本人の適性・能力のみによるべき」が『出会ったことがある』で 47.8%と最も高くなっている。（図表 1-12-3）

【図表 1-12-4 人権研修等への参加経験(問 11)別 家庭状況等を採用選考の判断材料とすることに対する考え方

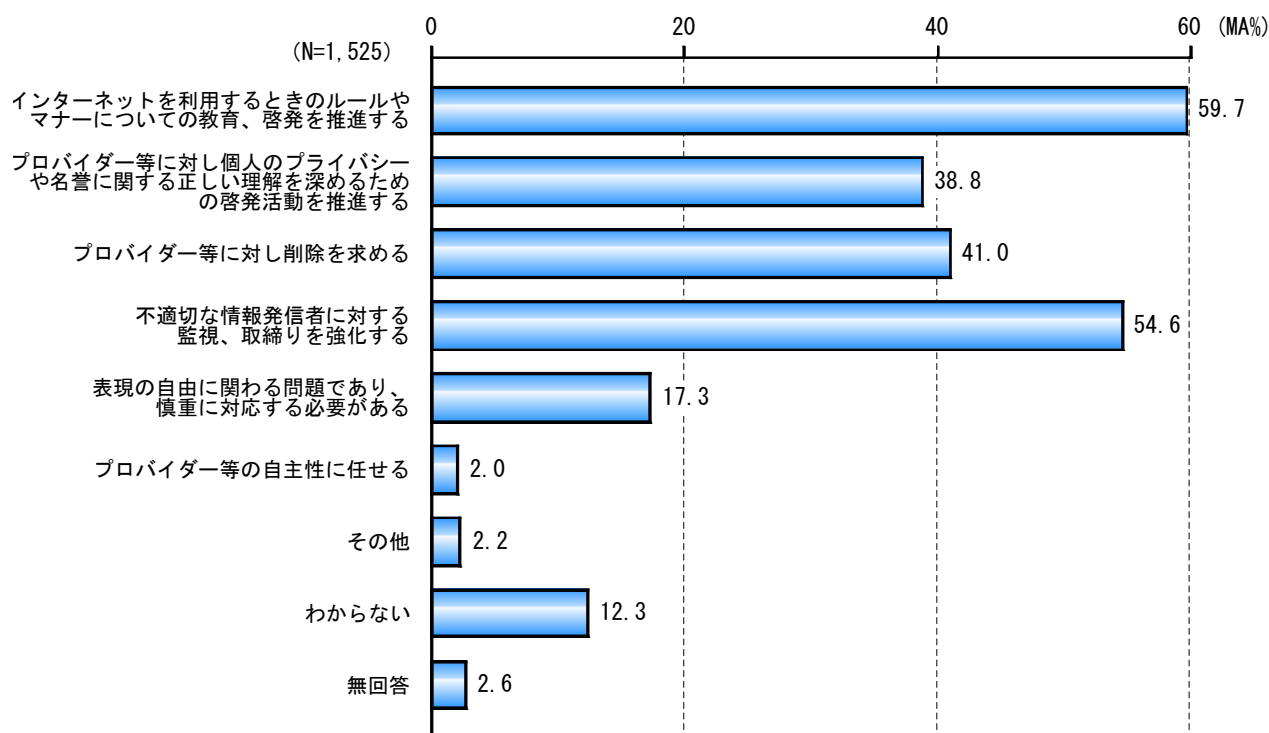


人権研修等への参加経験（問 11）別に家庭状況等を採用選考の判断材料とすることに対する考え方をみたところ、「採用選考は、応募者本人の適性・能力のみによるべき」が参加したことがある人で 50.2%に対し、参加したことがない人で 43.4%と、参加したことがある人のほうが 6.8 ポイント高くなっている。（図表 1-12-4）

6. インターネットによる人権侵害への対応に対する考え方

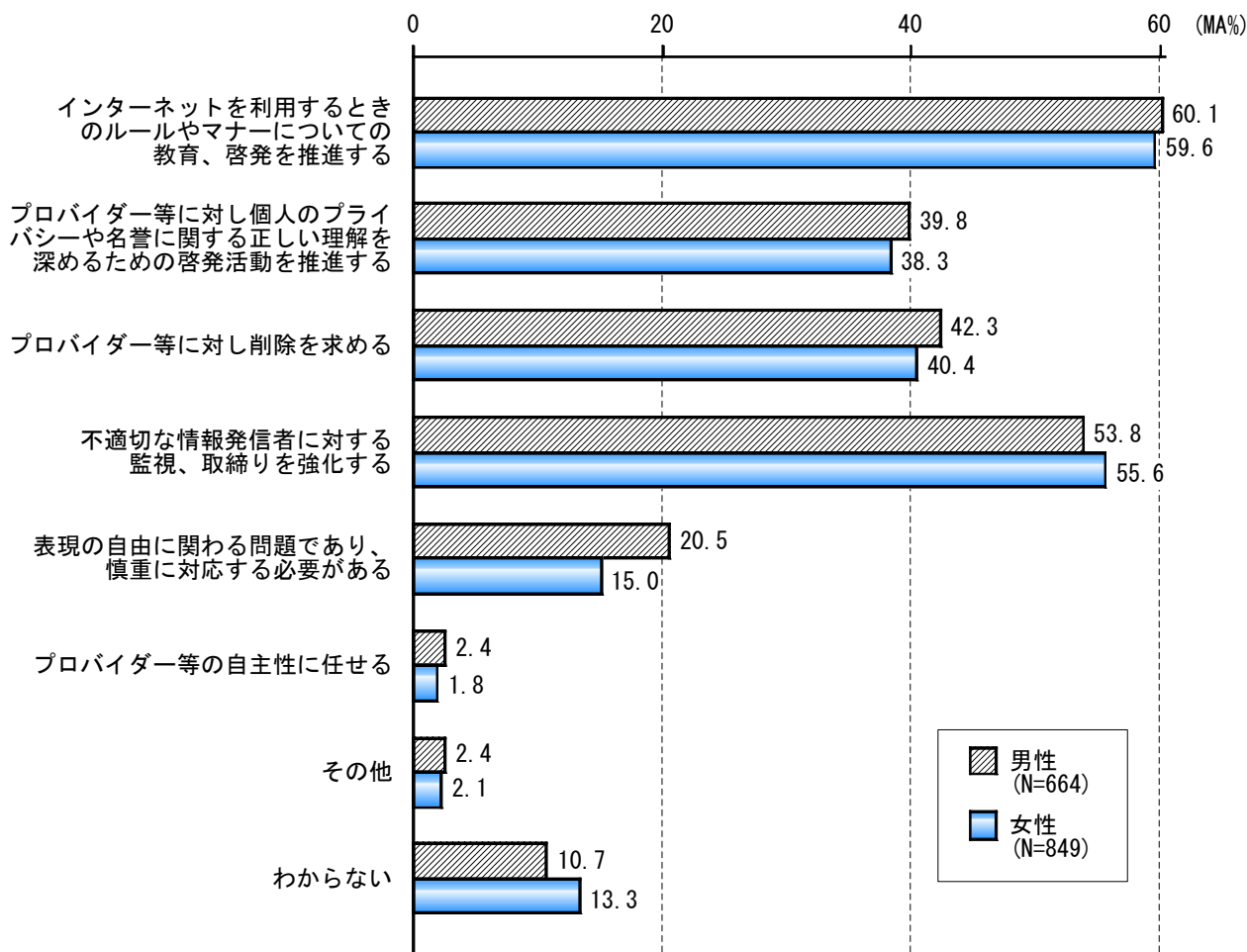
問10 パソコンや携帯電話などを利用したインターネット上の掲示板や学校裏サイトへの差別的な書き込みや個人情報の掲載などインターネットによる人権侵害を改善するためには、あなたはどうすればよいと思いますか。いくつでも選んで○をつけてください。

【図表 1-13 インターネットによる人権侵害への対応に対する考え方】



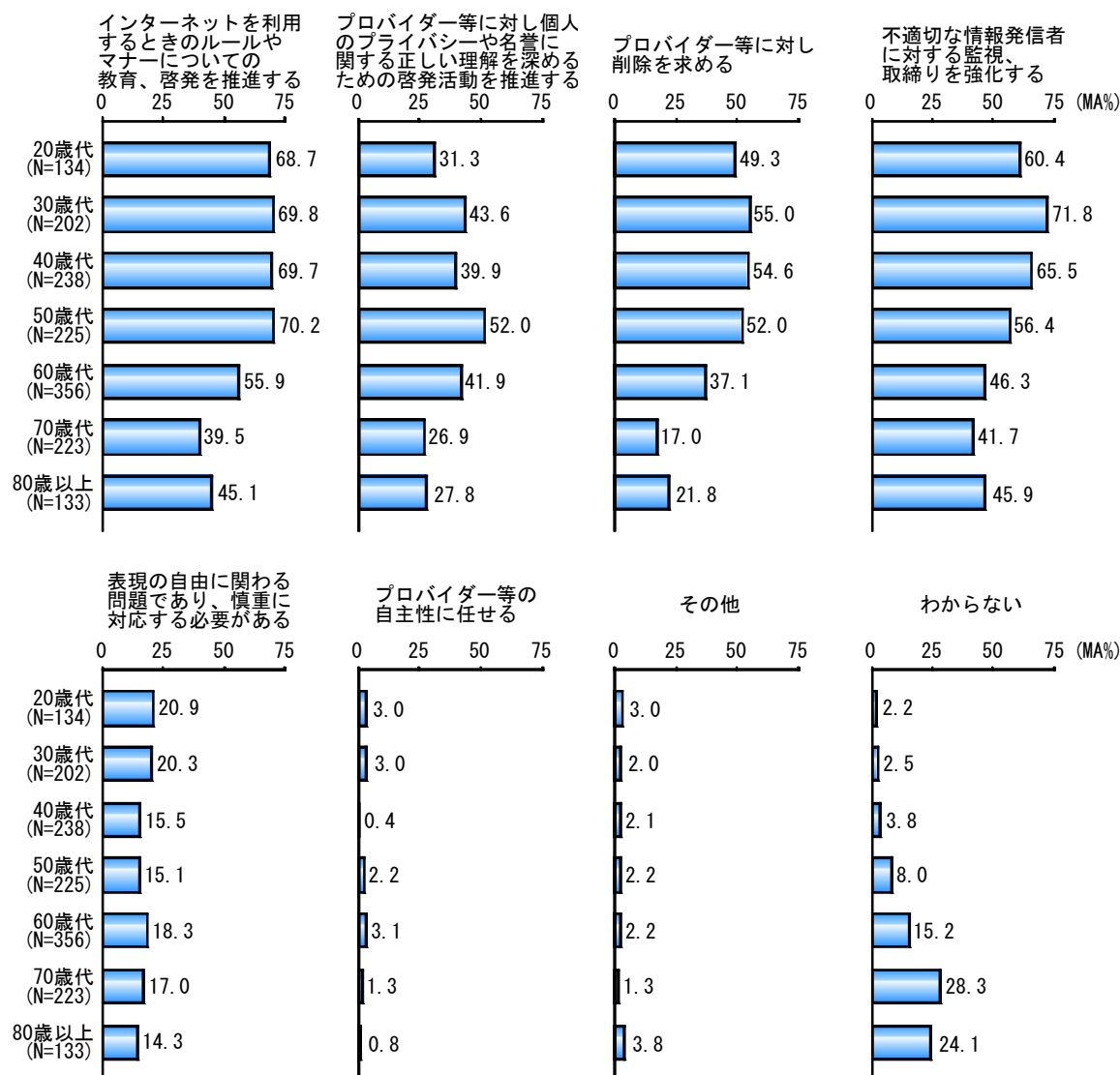
インターネットによる人権侵害への対応に対する考え方をたずねたところ、「インターネットを利用するときのルールやマナーについての教育、啓発を推進する」が59.7%と最も高く、次いで「不適切な情報発信者に対する監視、取締りを強化する」54.6%、「プロバイダー等に対し削除を求める」41.0%などとなっている。(図表 1-13)

【図表 1-13-1 性別 インターネットによる人権侵害への対応】



性別にインターネットによる人権侵害への対応をみたところ、男性・女性ともに「インターネットを利用するときのルールやマナーについての教育、啓発を推進する」が各々約6割と最も高く、次いで「不適切な情報発信者に対する監視、取締りを強化する」が各々5割台などとなっている。(図表 1-13-1)

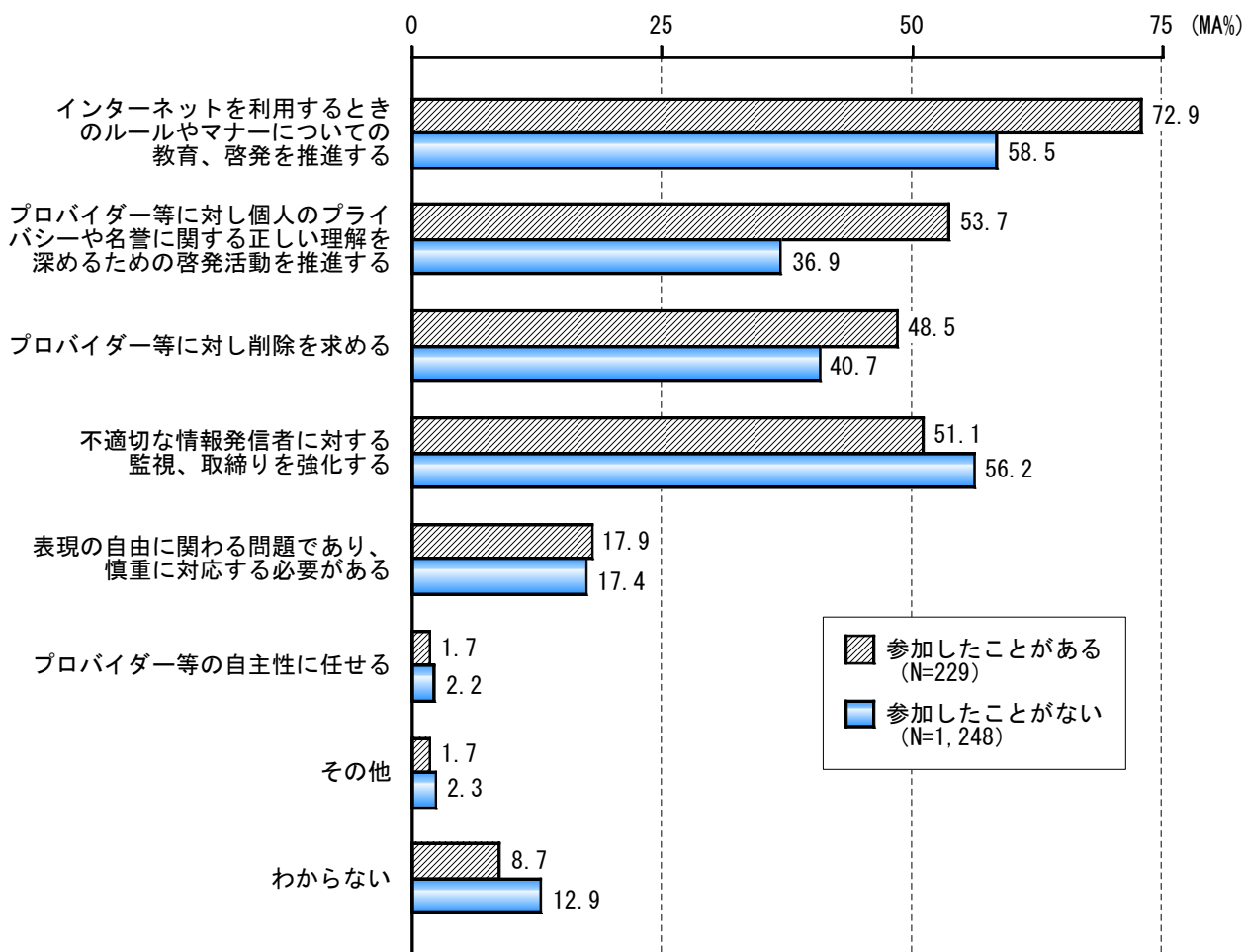
【図表 1-13-2 年齢別 インターネットによる人権侵害への対応】



年齢別にインターネットによる人権侵害への対応をみたところ、20～50歳代において「インターネットを利用するときのルールやマナーについての教育、啓発を推進する」が各々約7割、「不適切な情報発信者に対する監視、取締りを強化する」が各々5～7割台、「プロバイダー等に対し削除を求める」が各々4～5割台と、それぞれ60歳以上に比べて高い割合となっている。

また、「不適切な情報発信者に対する監視、取締りを強化する」が30歳代で71.8%、「プロバイダー等に対し個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための啓発活動を推進する」が50歳代で52.0%と、それぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。(図表1-13-2)

【図表 1-13-3 人権研修等への参加経験(問11)別 インターネットによる人権侵害への対応】



人権研修等への参加経験（問11）別にインターネットによる人権侵害への対応をみると、参加経験の有無にかかわらず、「インターネットを利用するときのルールやマナーについての教育、啓発を推進する」が最も高くなっているものの、参加したことがある人で72.9%に対し、参加したことがない人で58.5%と、参加したことがある人のほうが14.4ポイント高くなっている。また、これに続くのが、参加したことがある人では「プロバイダー等に対し個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための啓発活動を推進する」で53.7%、参加したことがない人では「不適切な情報発信者に対する監視、取締りを強化する」で56.2%などとなっている。（図表 1-13-3）

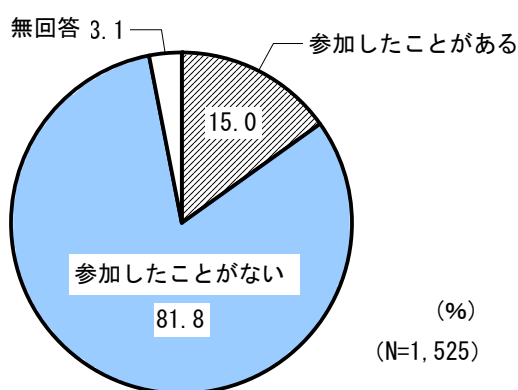
第4章 人権が尊重される社会づくりに向けた取組みについて

1. 人権に関する研修会等への参加状況

〔1〕人権研修等への参加経験、参加回数

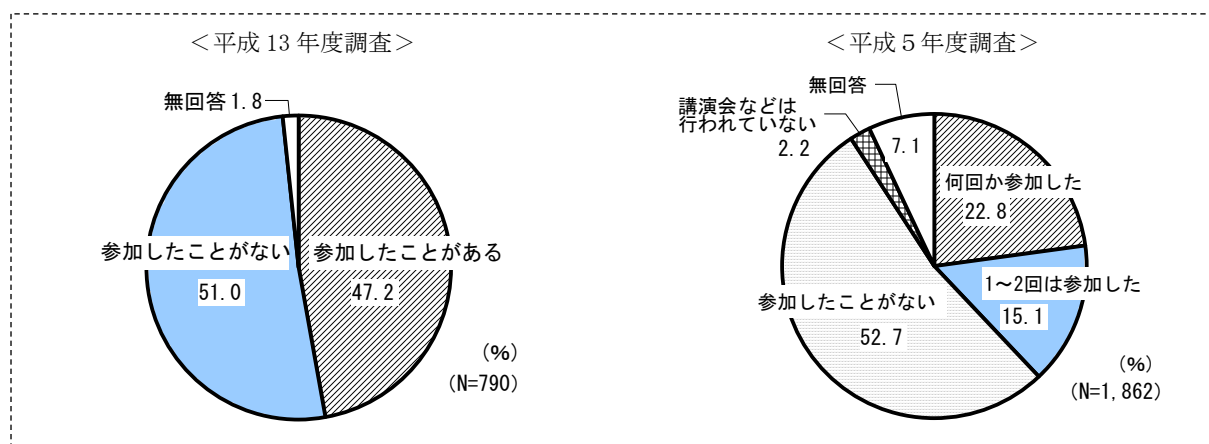
問11 最近（5年間）、あなたは、人権問題に関する研修会や講演会、啓発映画上映会や人権啓発フェスティバル（人権のつどい）などの人権啓発に関するイベント等に参加されたことがありますか。次の中からあてはまる番号1つに○をつけてください。

【図表 1-14 人権研修等への参加経験】

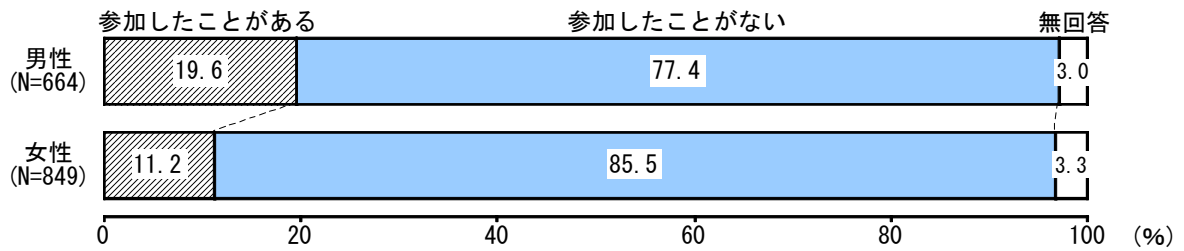


過去5年間に人権問題に関する研修会や講演会、人権啓発に関するイベント等に「参加したことがある」という割合は全体の15.0%となっている。（図表 1-14）

〔参考〕平成13年度・平成5年度調査結果 ※前回調査までは設問に“最近（5年間）”という制限（文言）がなかった。また、平成5年度調査では“同和問題”関係の研修会等への参加経験を聞く設問となっている。

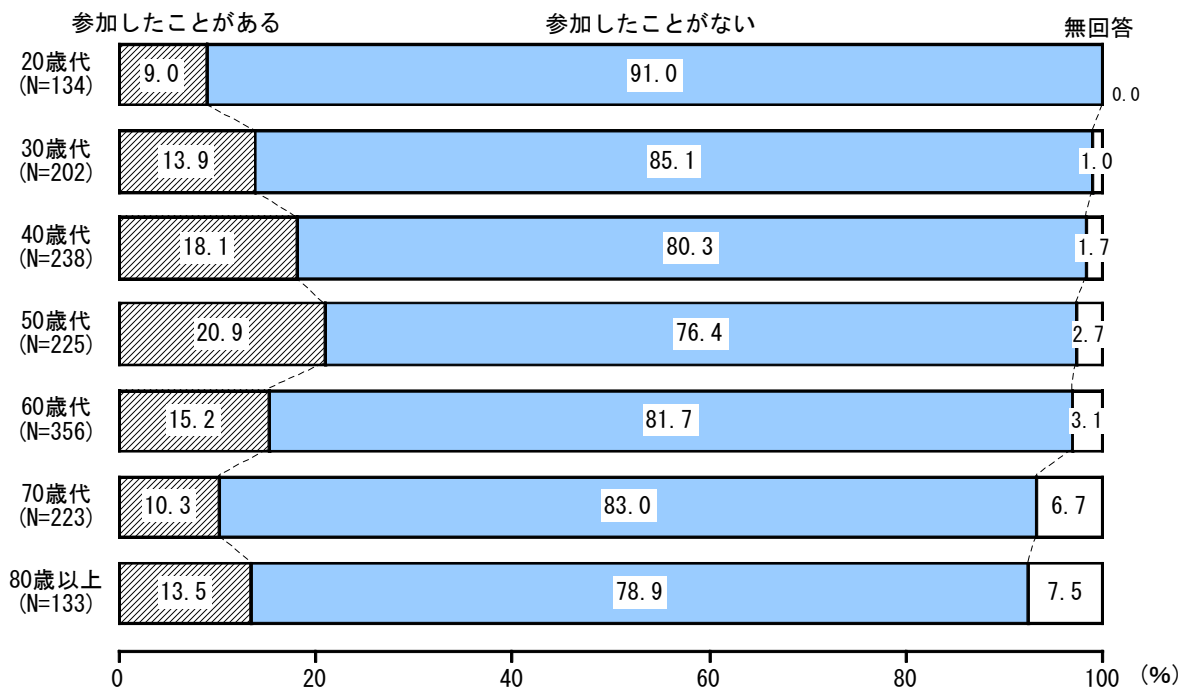


【図表 1-14-1 性別 人権研修等への参加経験】



性別に人権研修等への参加経験をみたところ、「参加したことがある」が男性 19.6%に対し、女性 11.2%となっている。(図表 1-14-1)

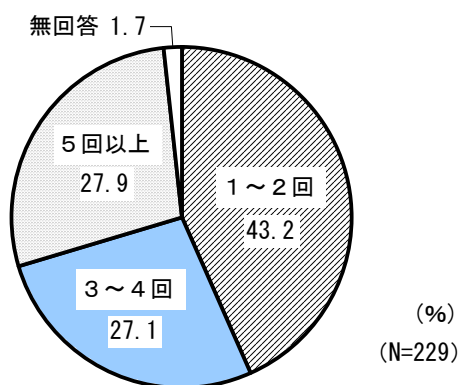
【図表 1-14-2 年齢別 人権研修等への参加経験】



年齢別に人権研修等への参加経験をみたところ、「参加したことがある」が50歳代で20.9%と最も高く、次いで「40歳代」18.1%、60歳代15.2%などとなっている。(図表 1-14-2)

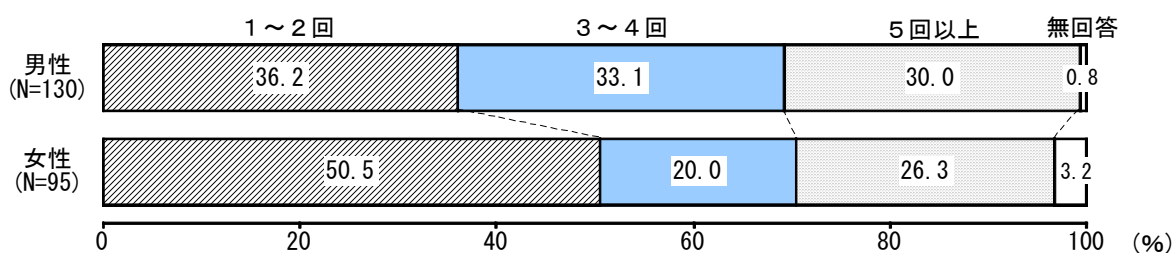
問 11-1 これまでに参加された回数は何回ですか。

【図表 1-15 人権研修等への参加回数】



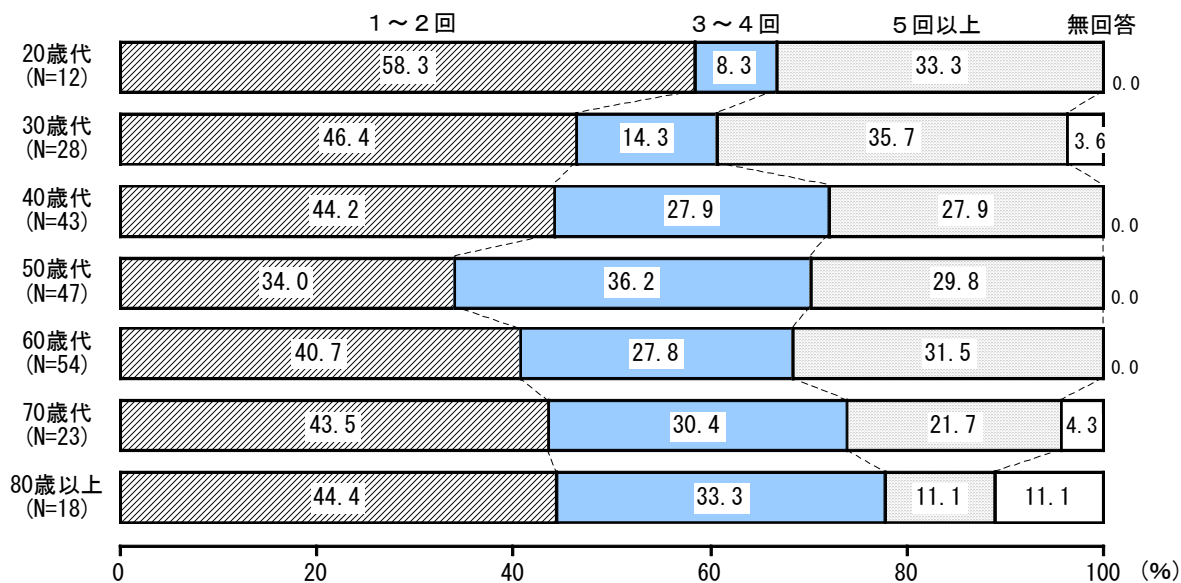
人権問題に関する研修会等へ参加したことがあると回答した人にその回数をたずねたところ、「1～2回」が43.2%を占め、「3～4回」は27.1%、「5回以上」は27.9%となっている。(図表 1-15)

【図表 1-15-1 性別 人権研修等への参加回数】



性別に人権研修等への参加回数をみたところ、男性・女性ともに「1～2回」が最も高くなっている。(図表 1-15-1)

【図表 1-15-2 年齢別 人権研修等への参加回数】

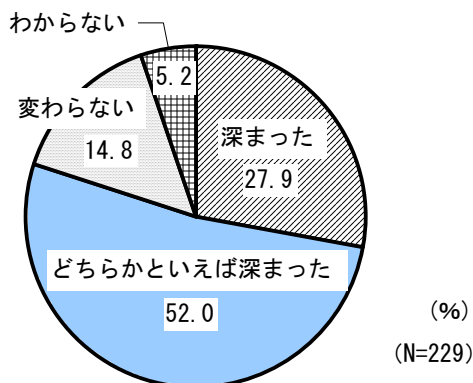


年齢別に人権研修等への参加回数をみたところ、「1～2回」が20歳代で58.3%と最も高くなっている。一方、3回以上の割合（「3～4回」「5回以上」の計）では50歳代が66.0%と最も高い。（図表 1-15-2）

〔2〕人権に関する研修会等に参加後の人権等に対する理解・認識状況の変化

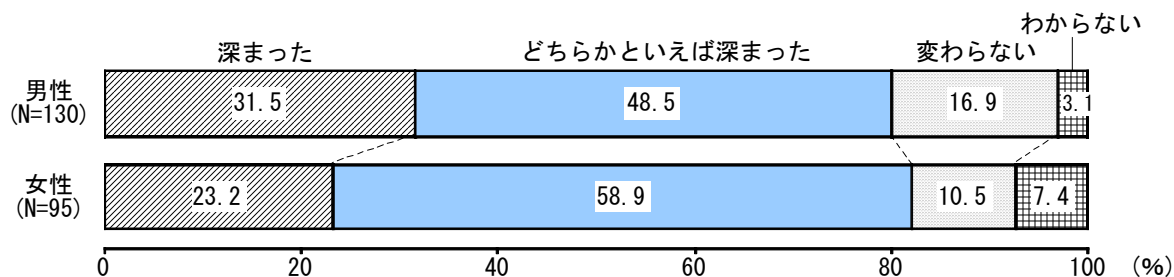
問12 あなたは、人権啓発に関するイベント等に参加して、人権や人権問題に対する理解・認識は深まりましたか。次の中からあてはまる番号1つに○をつけてください。

【図表 1-16 研修会等参加後の人権等に対する理解・認識状況の変化】



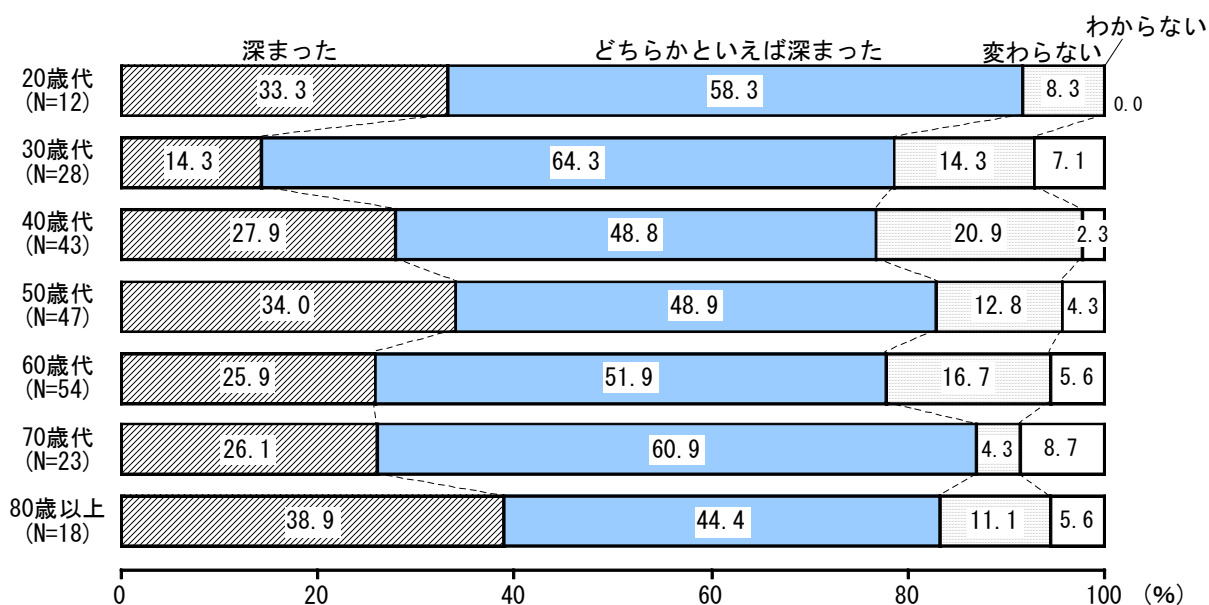
人権啓発に関するイベント等に参加後の人権や人権問題に対する理解・認識状況の変化をたずねたところ、「どちらかといえば深まった」が52.0%と最も高く、次いで高い「深まった」(27.9%)を合わせると、「深まった」という割合が79.9%となっている。（図表 1-16）

【図表 1-16-1 性別 研修会等参加後の人権等に対する理解・認識状況の変化】



性別に人権研修会等参加後の人権等に対する理解・認識状況の変化をみたところ、“深まった”という割合（「深まった」「どちらかといえば深まった」の計）が男性80.0%に対し、女性82.1%となっている。一方、「変わらない」では男性16.9%に対し、女性10.5%となっている。（図表 1-16-1）

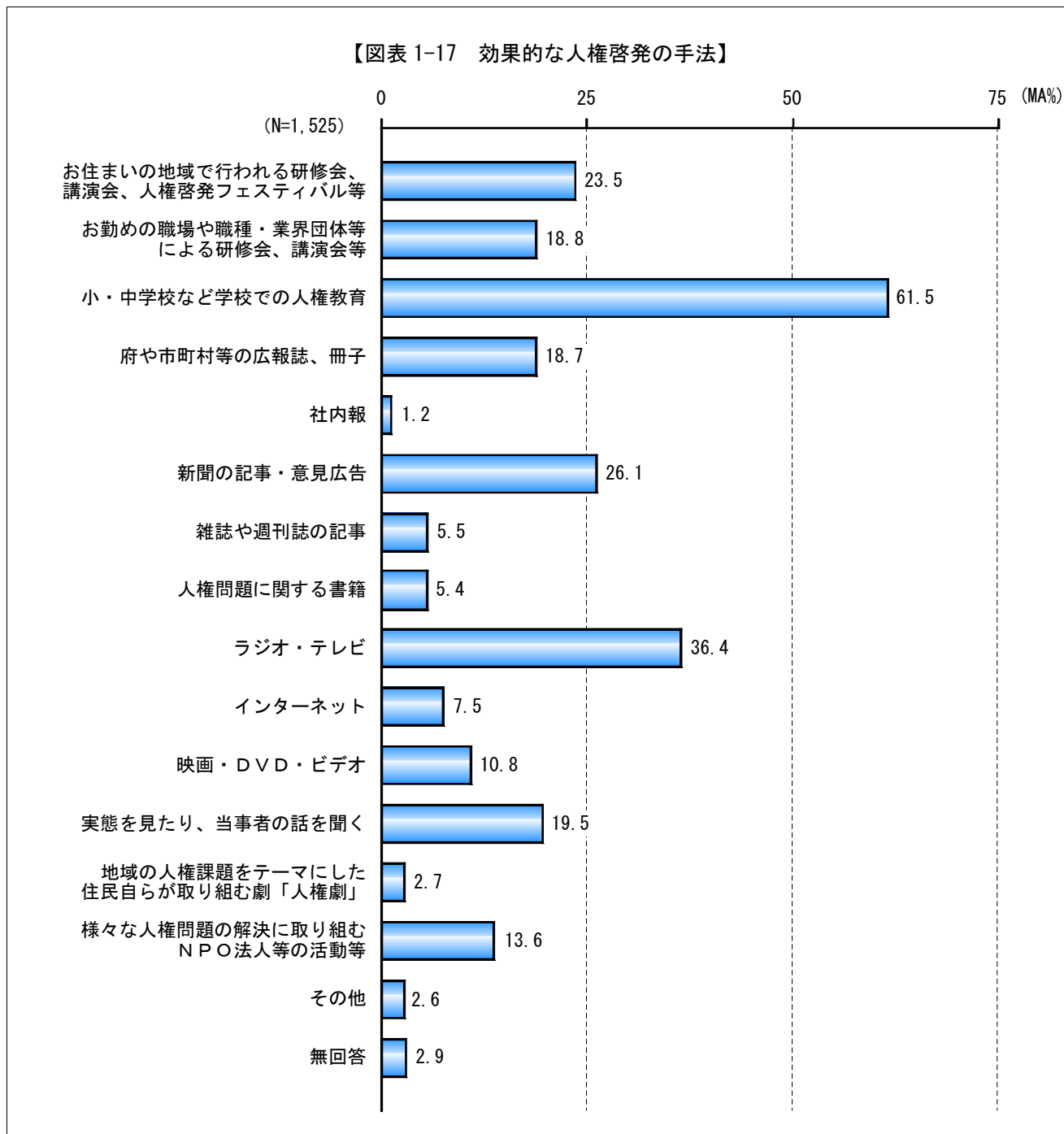
【図表 1-16-2 年齢別 研修会等参加後の人権等に対する理解・認識状況の変化】



年齢別に人権研修会等参加後の人権等に対する理解・認識状況の変化をみたところ、“深まった”という割合（「深まった」「どちらかといえば深まった」の計）は20歳代で91.6%と最も高くなっている。一方、「変わらない」では40歳代が20.9%と最も高い。（図表 1-16-2）

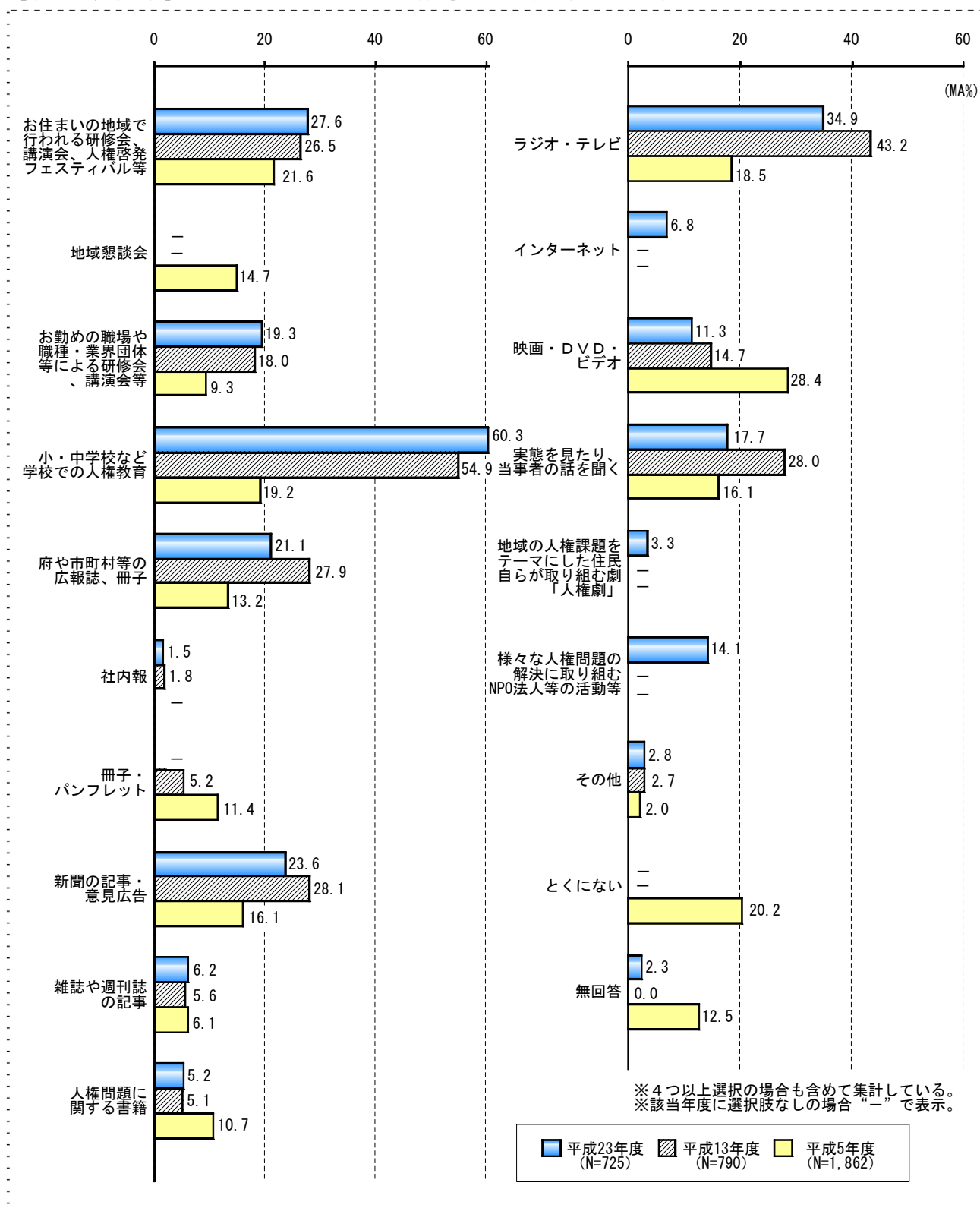
〔3〕効果的な人権啓発の手法

問13 あなたは、人権問題について理解や認識を深めるためには、どのようなものが役立つと思いますか。次の中から役立つと思われる番号を3つ以内で○をつけてください。

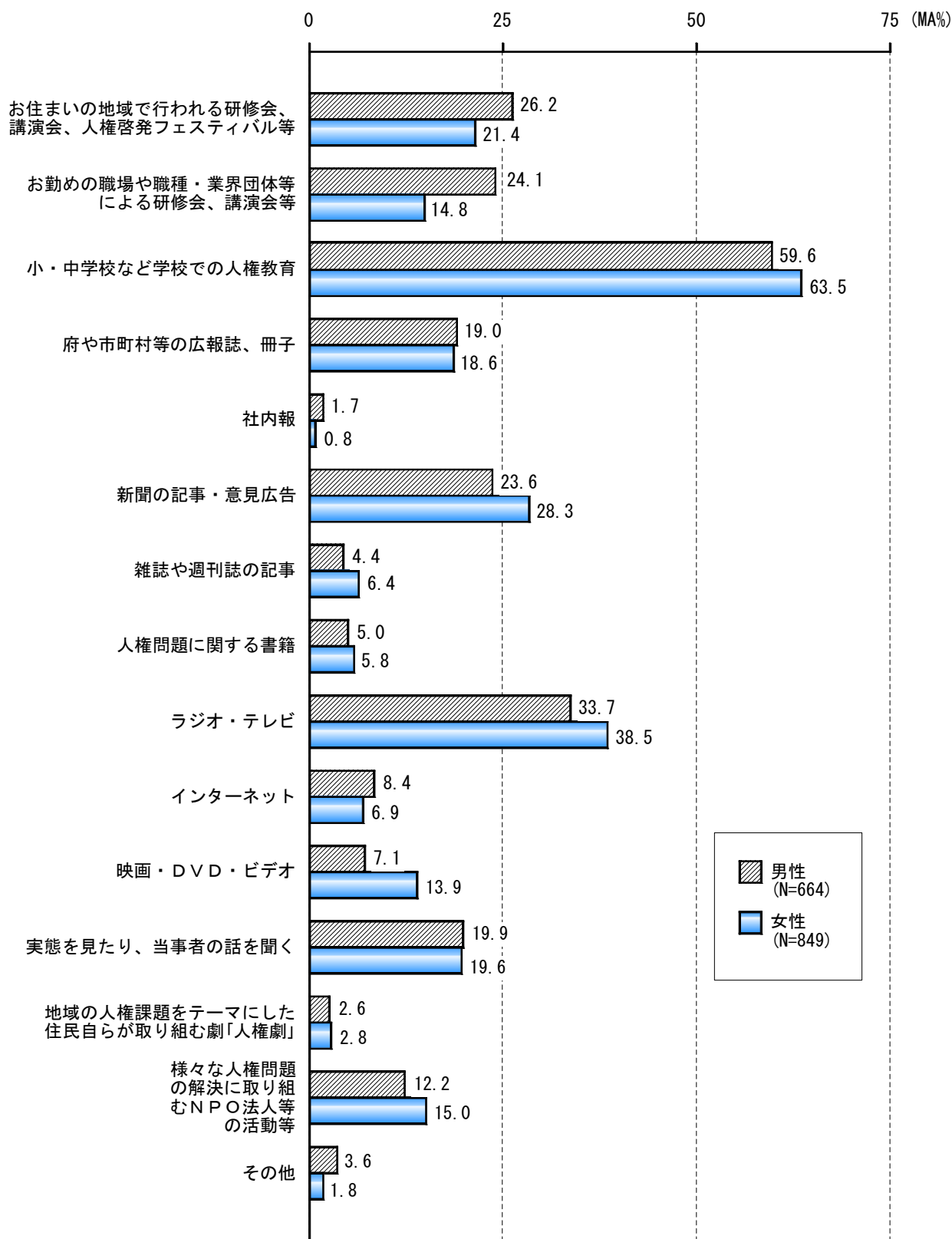


人権問題について理解や認識を深めるために役立つと思うものをたずねたところ、「小・中学校など学校での人権教育」が61.5%と最も高く、次いで「ラジオ・テレビ」36.4%、「新聞の記事・意見広告」26.1%、「お住まいの地域で行われる研修会、講演会、人権啓発フェスティバル等」23.5%などとなっている。(図表 1-17)

〔参考〕経年比較 ※平成23年度については「京都市」を除いた値で集計している。

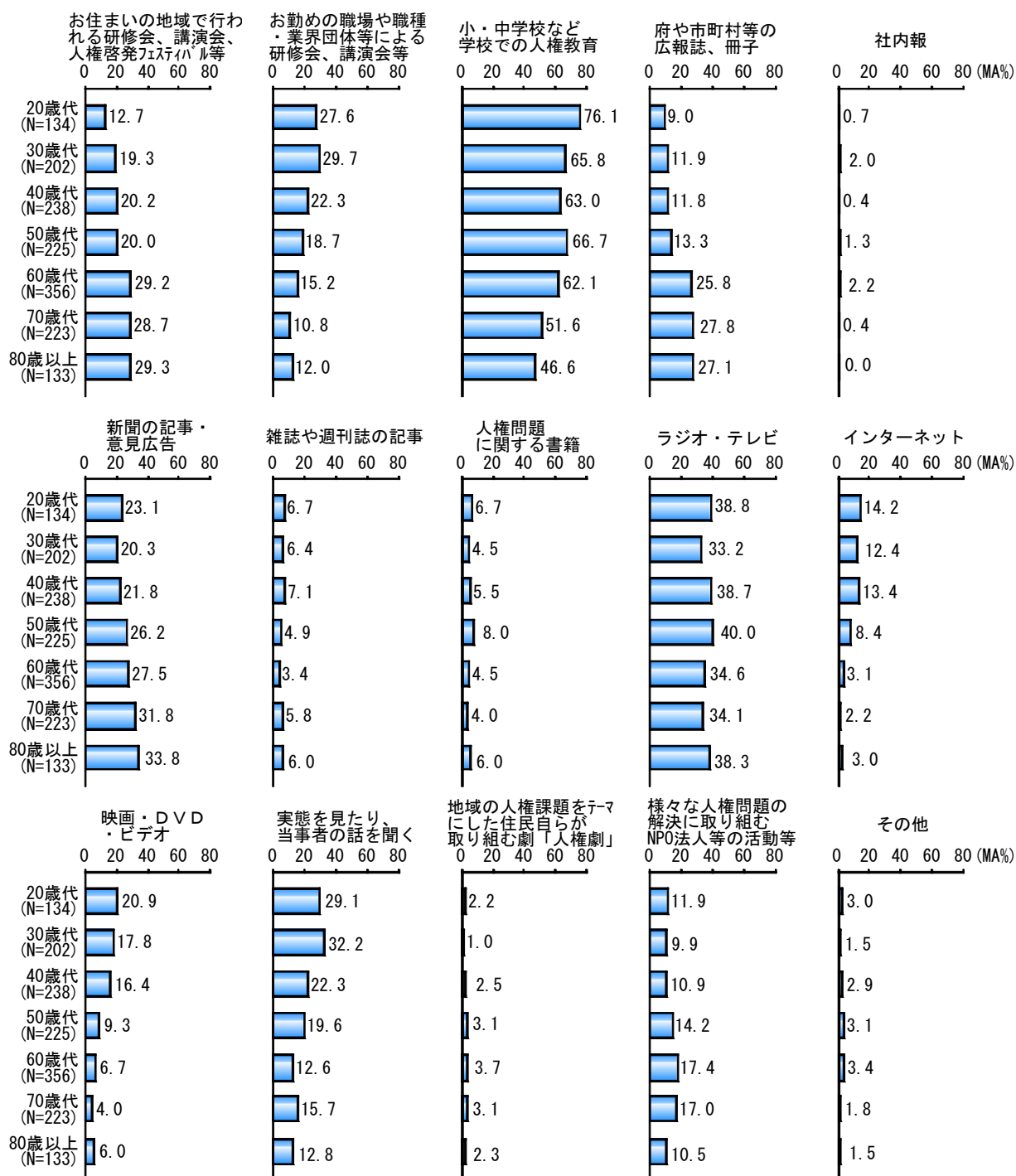


【図表 1-17-1 性別 効果的な人権啓発の手法】



性別に効果的な人権啓発の手法をみたところ、「小・中学校など学校での人権教育」が男性59.6%、女性63.5%と、ともに最も高くなっている。これに続くのが「ラジオ・テレビ」でともに3割台などとなっている。(図表 1-17-1)

【図表 1-17-2 年齢別 効果的な人権啓発の手法】



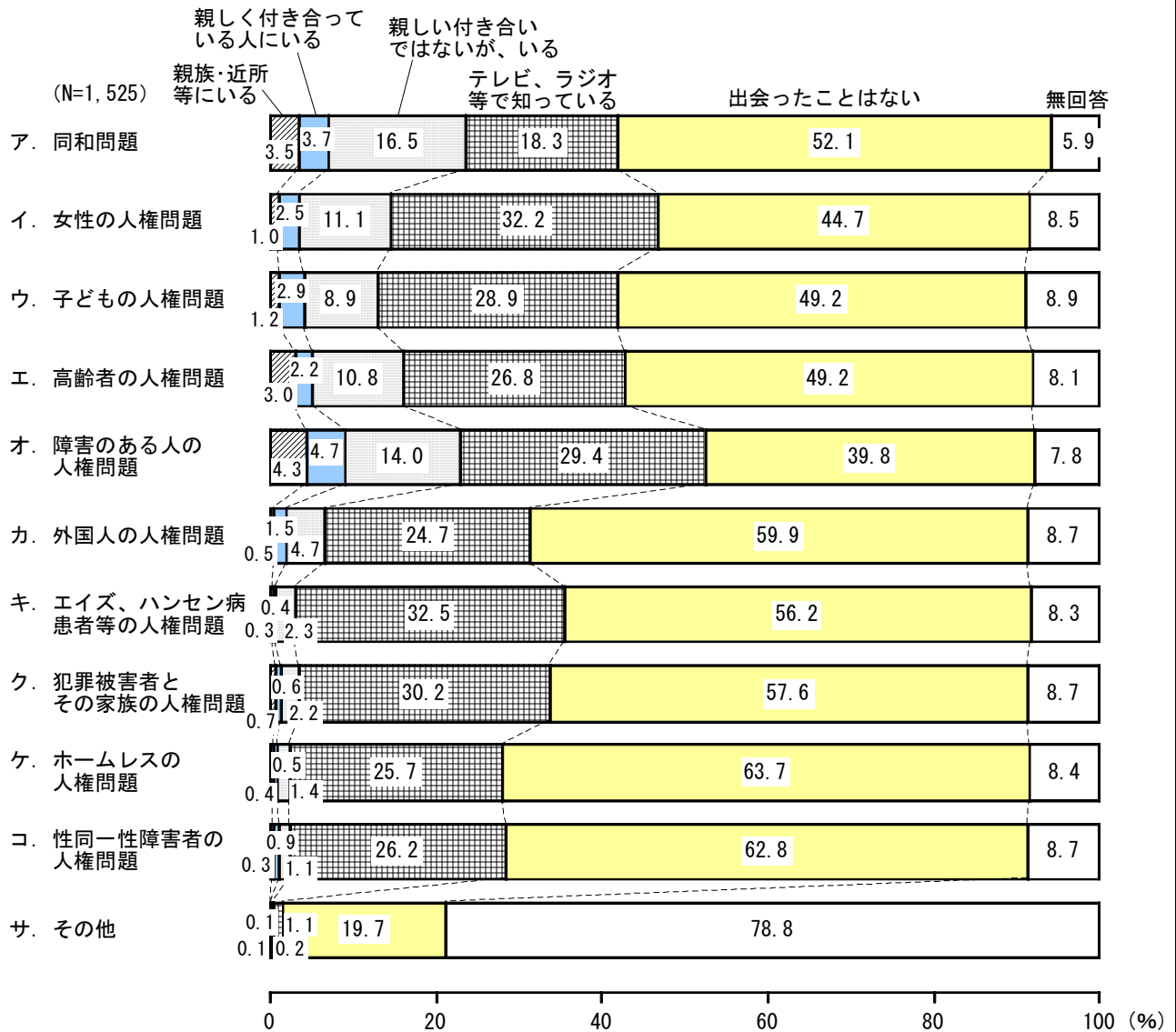
年齢別に効果的な人権啓発の手法をみると、いずれの年齢層においても「小・中学校など学校での人権教育」が最も高く、特に20歳代で76.1%と高い。

他の項目についてみると、20～30歳代において「実態を見たり、当事者の話を聞く」が各々3割前後、「お勤めの職場や職種・業界団体等による研修会、講演会等」が3割弱と高い。一方、60歳以上において「お住まいの地域で行われる研修会、講演会、人権啓発フェスティバル等」が各々3割弱、「新聞の記事・意見広告」が3割前後、「府や市町村等の広報誌、冊子」が2割台となっている。(図表 1-17-2)

2. 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況

問14 あなたは、次のような人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人に出会ったことがありますか。ア～サの各事項ごとにあてはまる番号1つに○をつけてください。

【図表 1-18 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況】

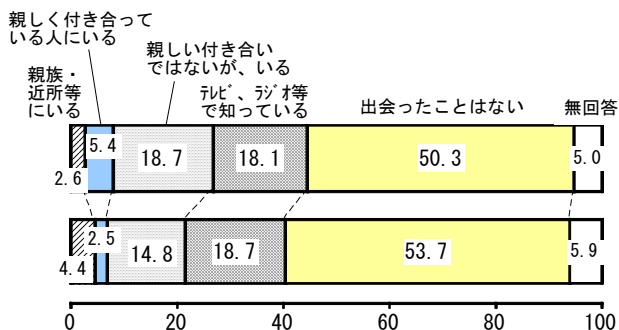


人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人との出会い状況として、11項目についてたずねたところ、「出会ったことがある」という割合（「親族・近所等にいる」「親しく付き合っている人」「親しい付き合いではないが、いる」の計）が『ア. 同和問題』で23.7%、『オ. 障害のある人の人権問題』で23.0%と、ともに2割台で、他の人権問題に比べて高くなっている。

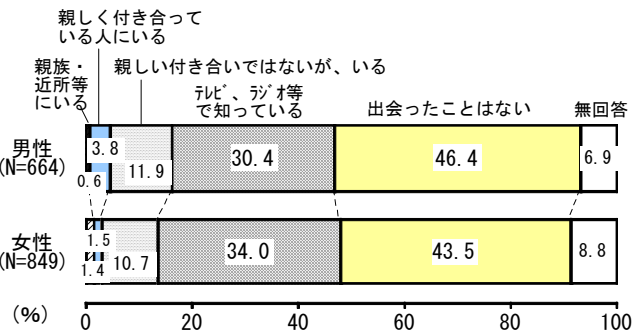
一方、「出会ったことはない」が『ケ. ホームレスの人権問題』（63.7%）、『コ. 性同一性障害者の人権問題』（62.8%）で6割台と高い。（図表 1-18）

【図表 1-18-1 性別 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況】

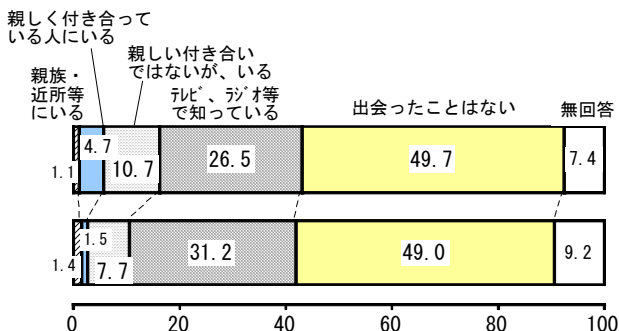
<ア. 同和問題>



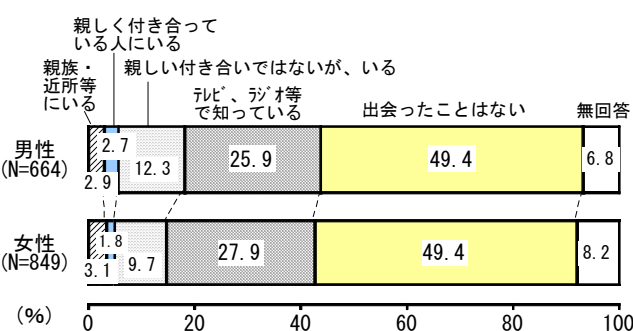
<イ. 女性の人権問題>



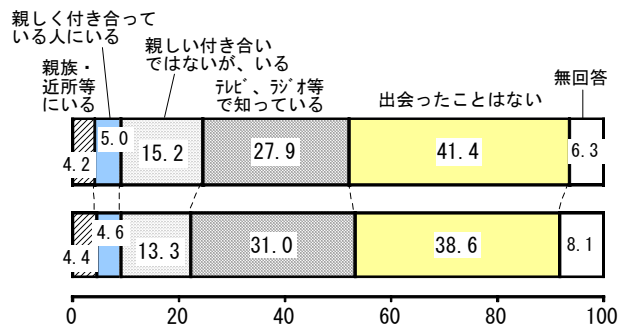
<ウ. 子どもの人権問題>



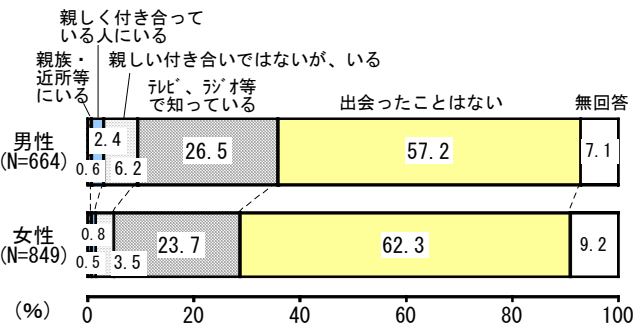
<エ. 高齢者の人権問題>



<オ. 障害のある人の人権問題>



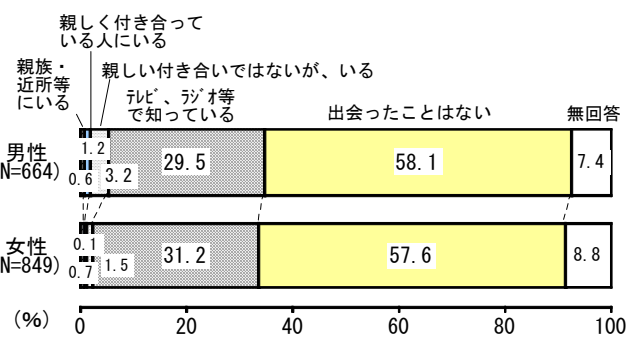
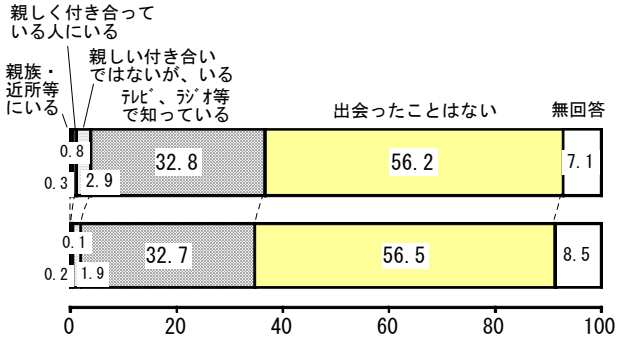
<カ. 外国人の人権問題>



【図表 1-18-1 性別 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況】

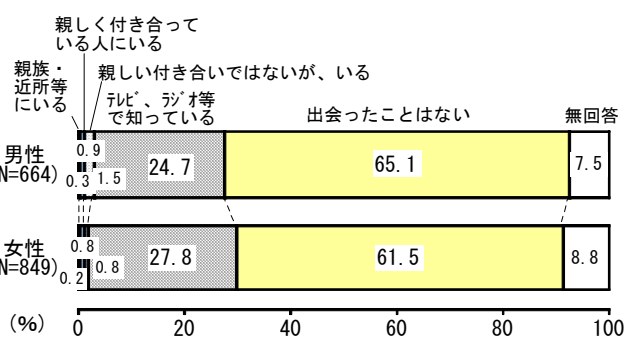
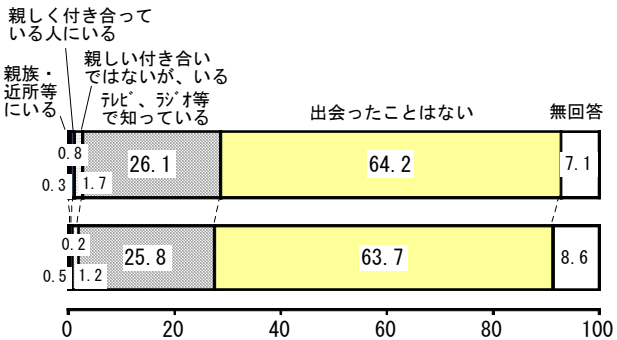
＜キ. エイズ、ハンセン病患者等の人権問題＞

＜ク. 犯罪被害者とその家族の人権問題＞



＜ケ. ホームレスの人権問題＞

＜コ. 性同一性障害者の人権問題＞

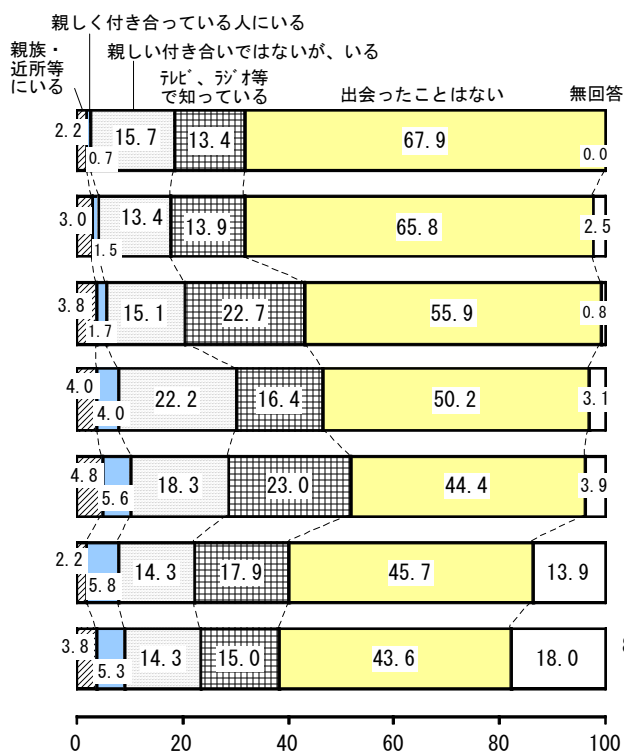


性別に人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況をみると、「出会ったことがある」という割合（「親族・近所等にいる」「親しく付き合っている人」「親しい付き合いではないが、いる」の計）が、男性では『ア. 同和問題』で26.7%、女性では『オ. 障害のある人の人権問題』で22.3%と、それぞれ最も高くなっている。

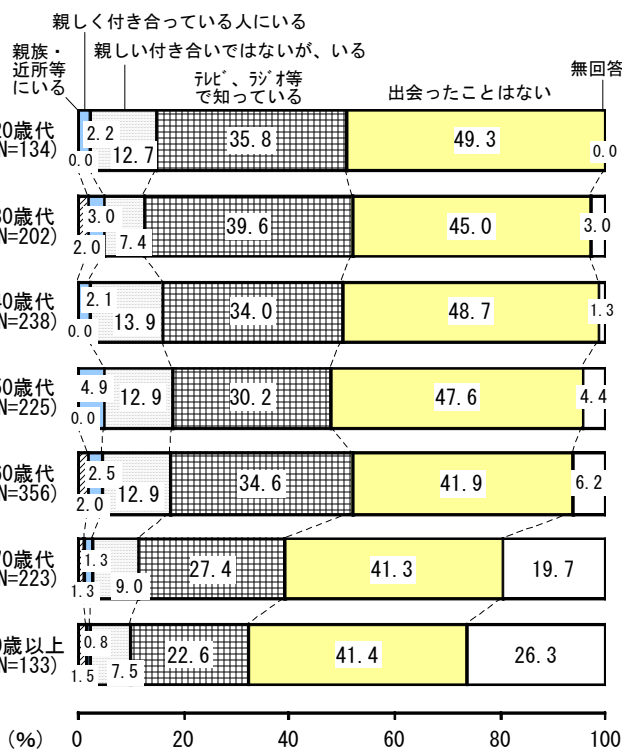
一方、「出会ったことはない」が、いずれの項目においても、男性・女性ともに4～6割台となっており、特に男性では『コ. 性同一性障害者の人権問題』が65.1%、女性では『ケ. ホームレスの人権問題』が63.7%と、それぞれ最も高い。（図表 1-18-1）

【図表 1-18-2 年齢別 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況】

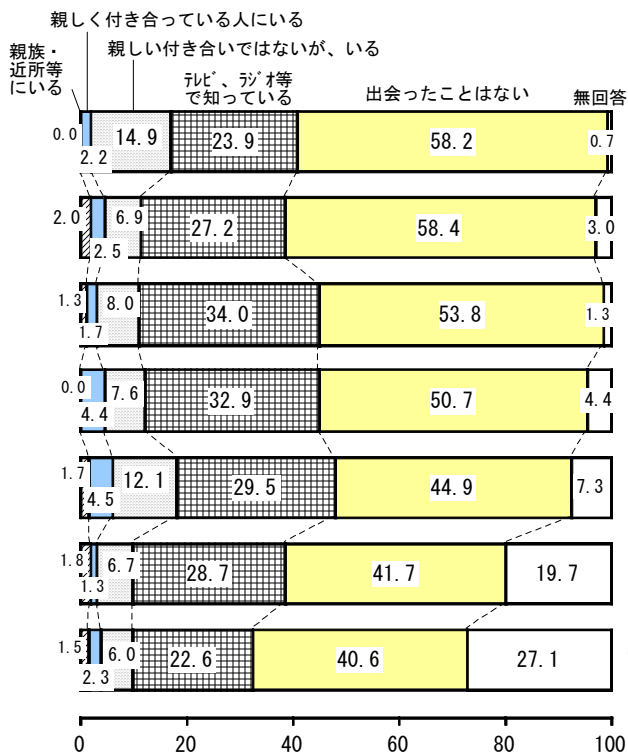
<ア. 同和問題>



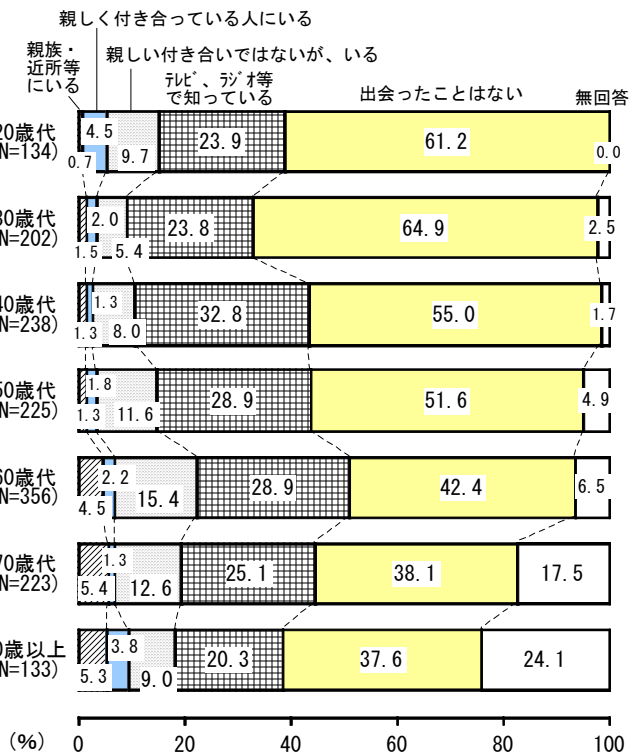
<イ. 女性の人権問題>



<ウ. 子どもの人権問題>



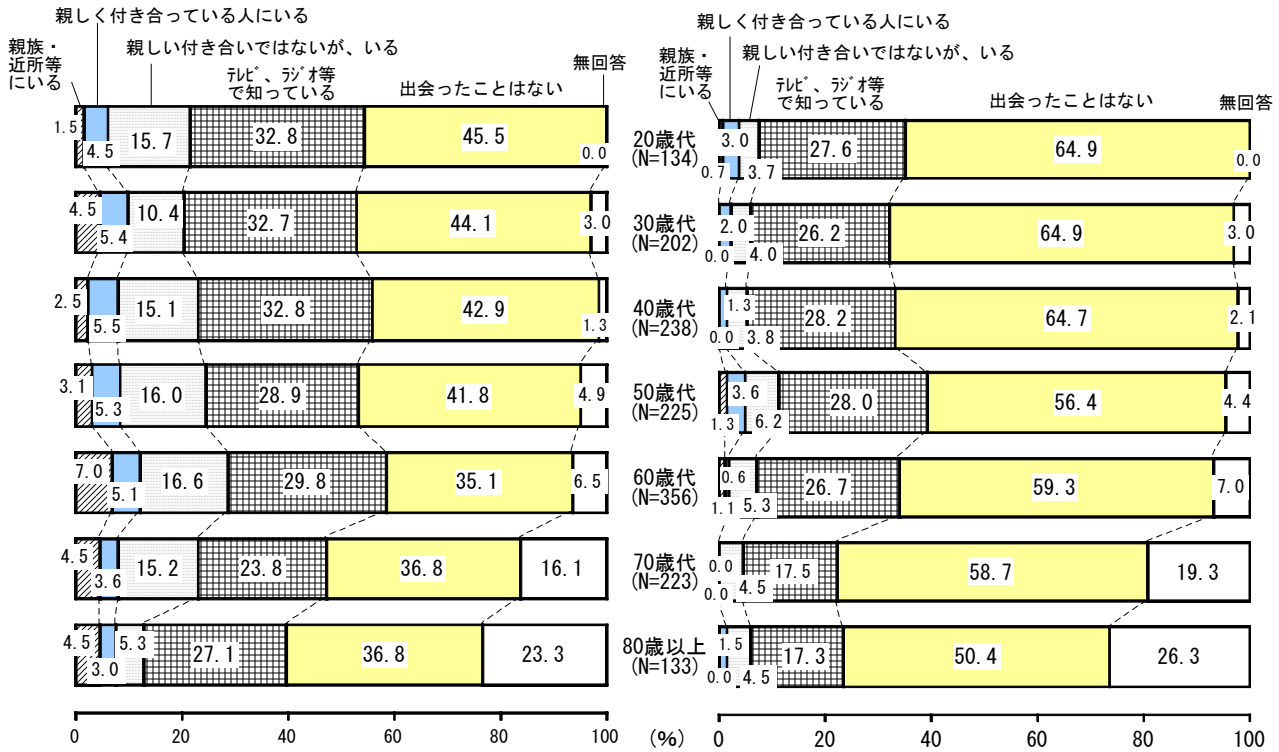
<エ. 高齢者の人権問題>



【図表 1-18-2 年齢別 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況】

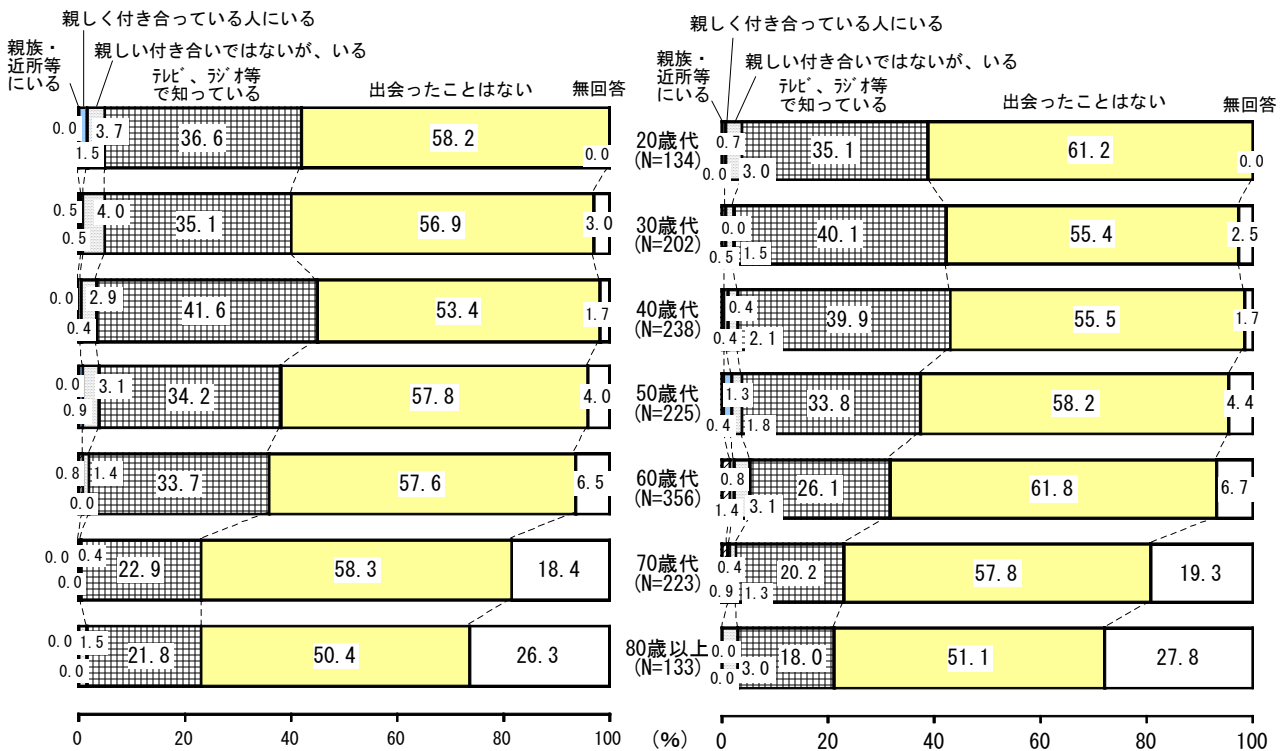
<オ. 障害のある人の人権問題>

<カ. 外国人の人権問題>



<キ. エイズ、ハンセン病患者等の人権問題>

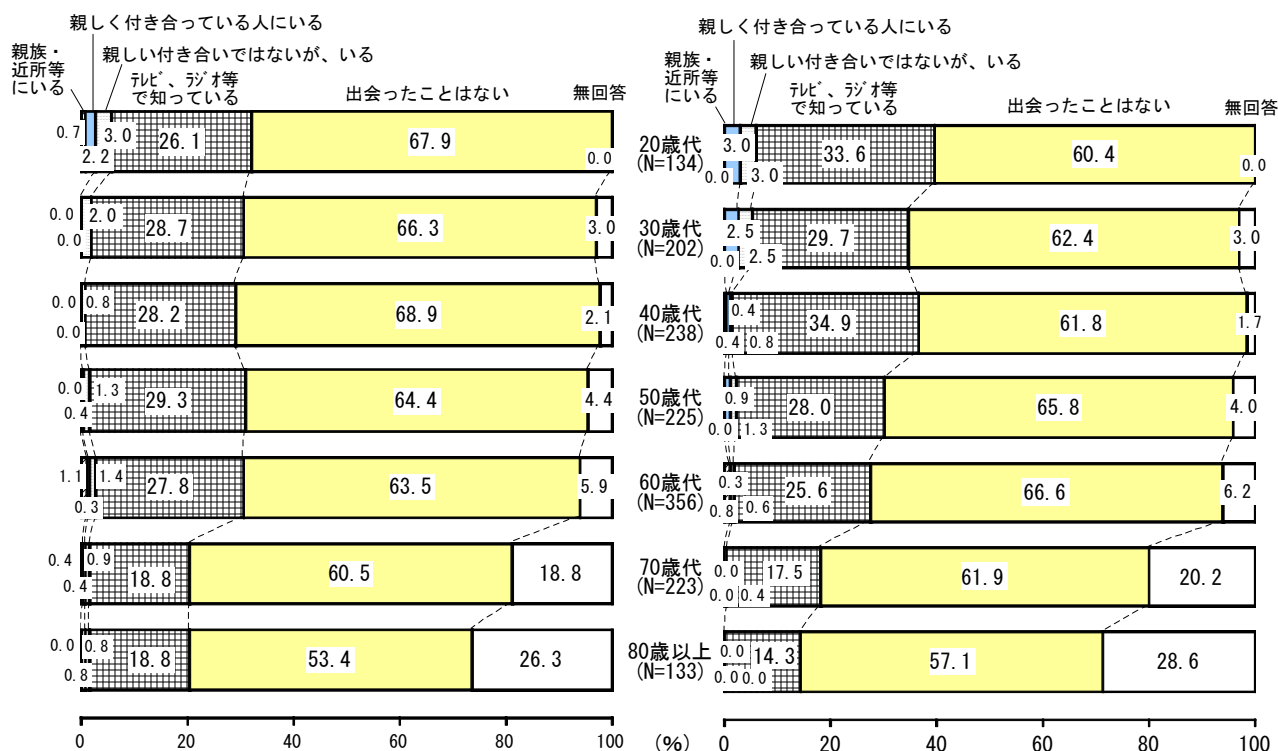
<ク. 犯罪被害者とその家族の人権問題>



【図表 1-18-2 年齢別 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況】

<ケ. ホームレスの人権問題>

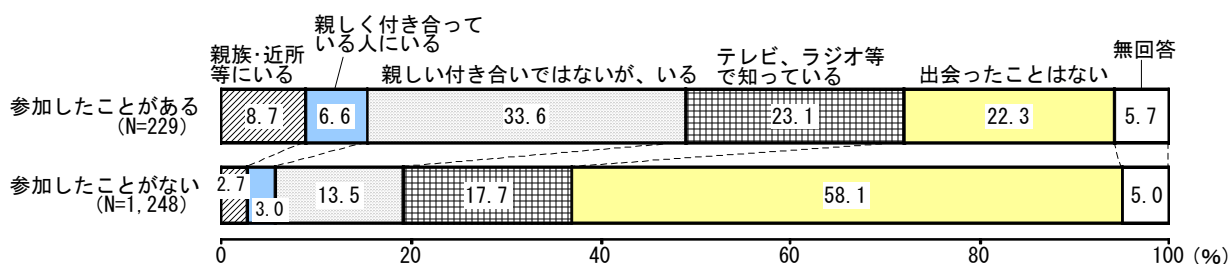
<コ. 性同一性障害者の人権問題>



年齢別に人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況をみると、「出会ったことがある」という割合（「親族・近所等にいる」「親しく付き合っている人」「親しい付き合いではないが、いる」の計）が、『ア. 同和問題』において、50歳代で30.2%、60歳代で28.7%と高くなっている。また、60歳代において『オ. 障害のある人の人権問題』で28.7%、『エ. 高齢者の人権問題』で22.1%と最も高くなっている。一方、20～30歳代においては、『ア. 同和問題』・『エ. 高齢者の人権問題』ともに「出会ったことはない」が各々6割台となっている。（図表 1-18-2）

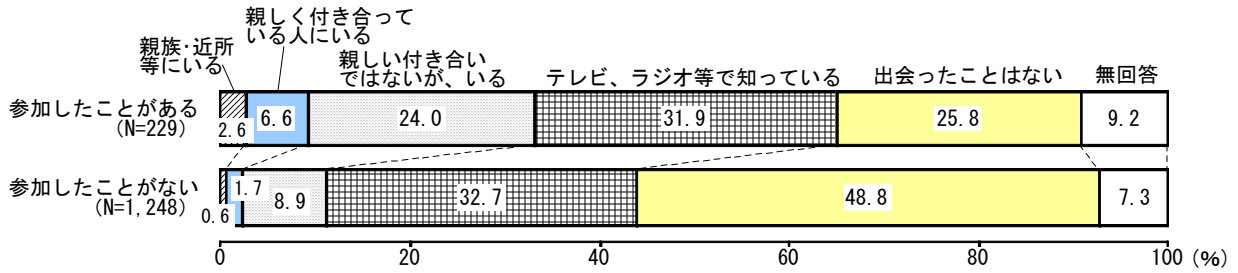
【図表 1-18-3 人権研修等への参加経験(問11)別 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況】

<ア. 同和問題>

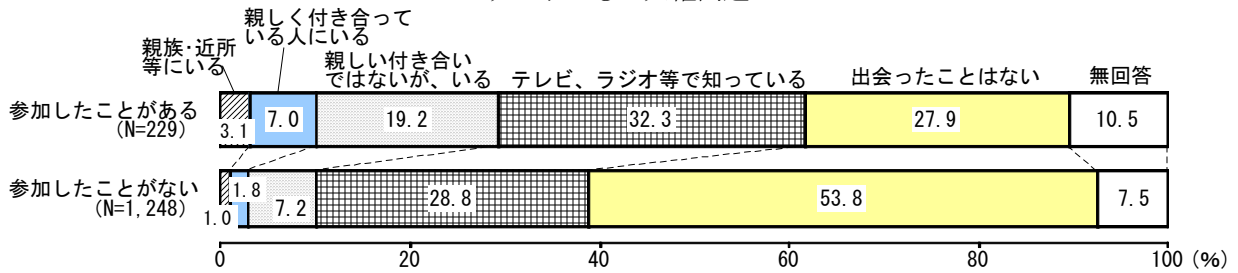


【図表 1-18-3 人権研修等への参加経験(問11)別 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況】

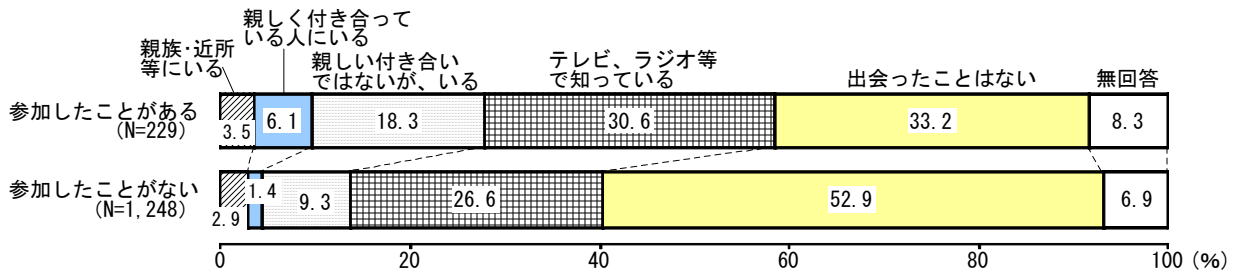
<イ. 女性の人権問題>



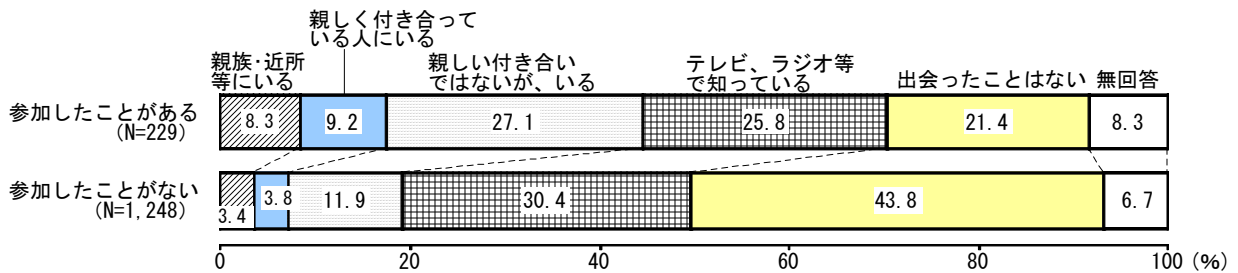
<ウ. 子どもの人権問題>



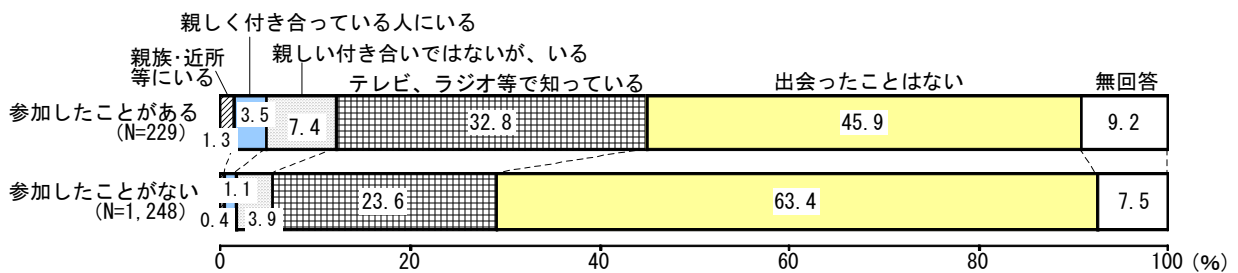
<エ. 高齢者の人権問題>



<オ. 障害のある人の人権問題>

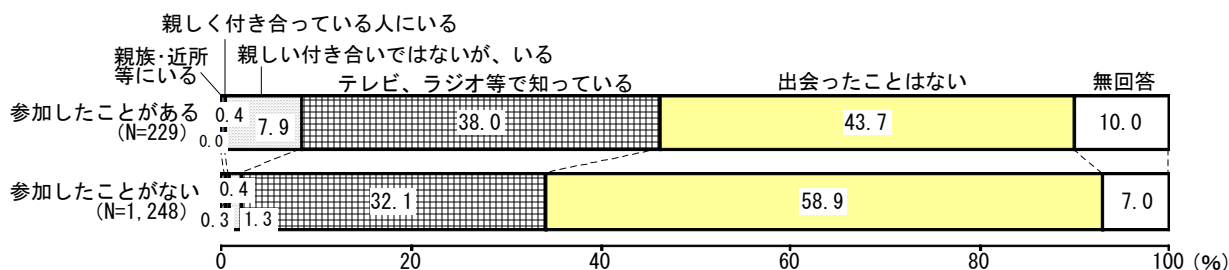


<カ. 外国人の人権問題>

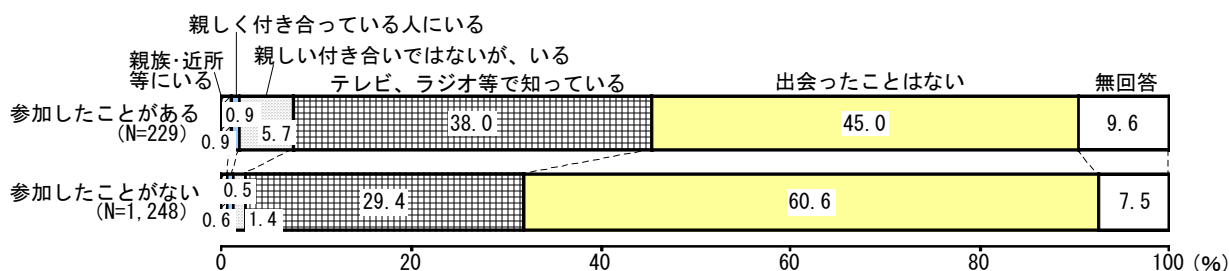


【図表 1-18-3 人権研修等への参加経験(問 11)別 人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況】

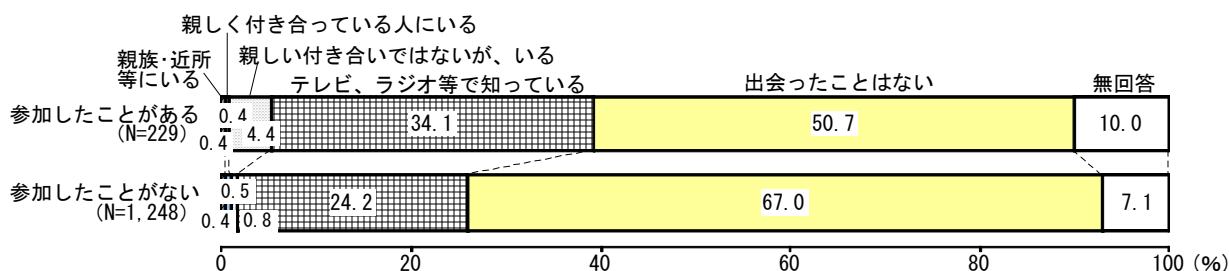
<キ. エイズ、ハンセン病患者等の人権問題>



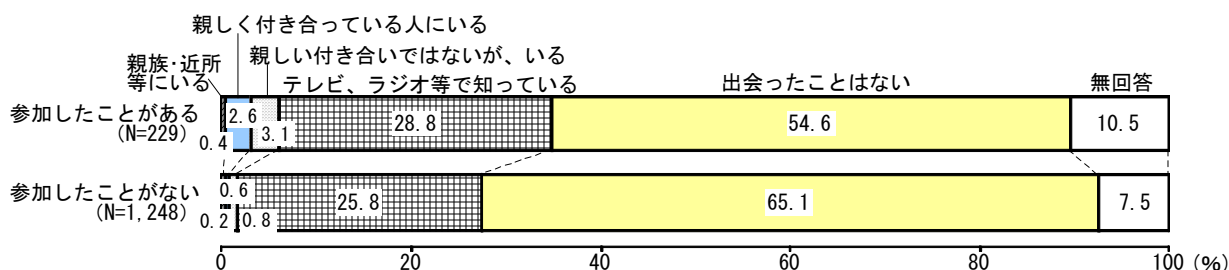
<ク. 犯罪被害者とその家族の人権問題>



<ケ. ホームレスの人権問題>



<コ. 性同一性障害者の人権問題>

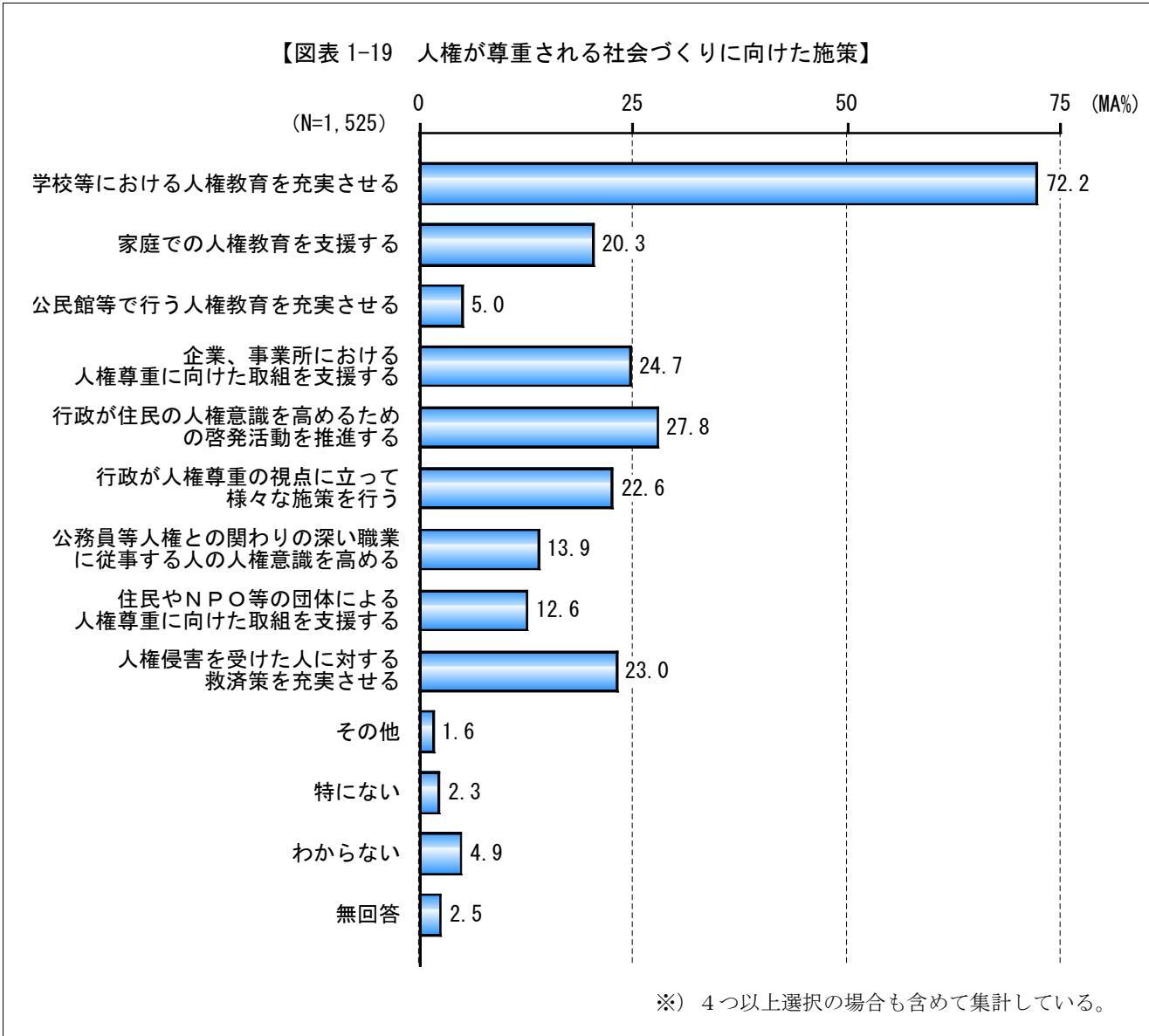


人権研修等への参加経験(問 11)別に人権問題の解決に取り組んでいる人との出会い状況をみると、いずれの項目においても、“出会ったことがある”という割合(「親族・近所等にいる」「親しく付き合っている人」「親しい付き合いではないが、いる」の計)では、参加したことがない人に比べて、参加したことがある人のほうが高くなっており、特に『ア. 同和問題』では、参加したことがある人のほうが29.7ポイント高い。

一方、参加したことがない人では「出会ったことがない」がいずれの項目においても4～6割台となっている。(図表 1-18-3)

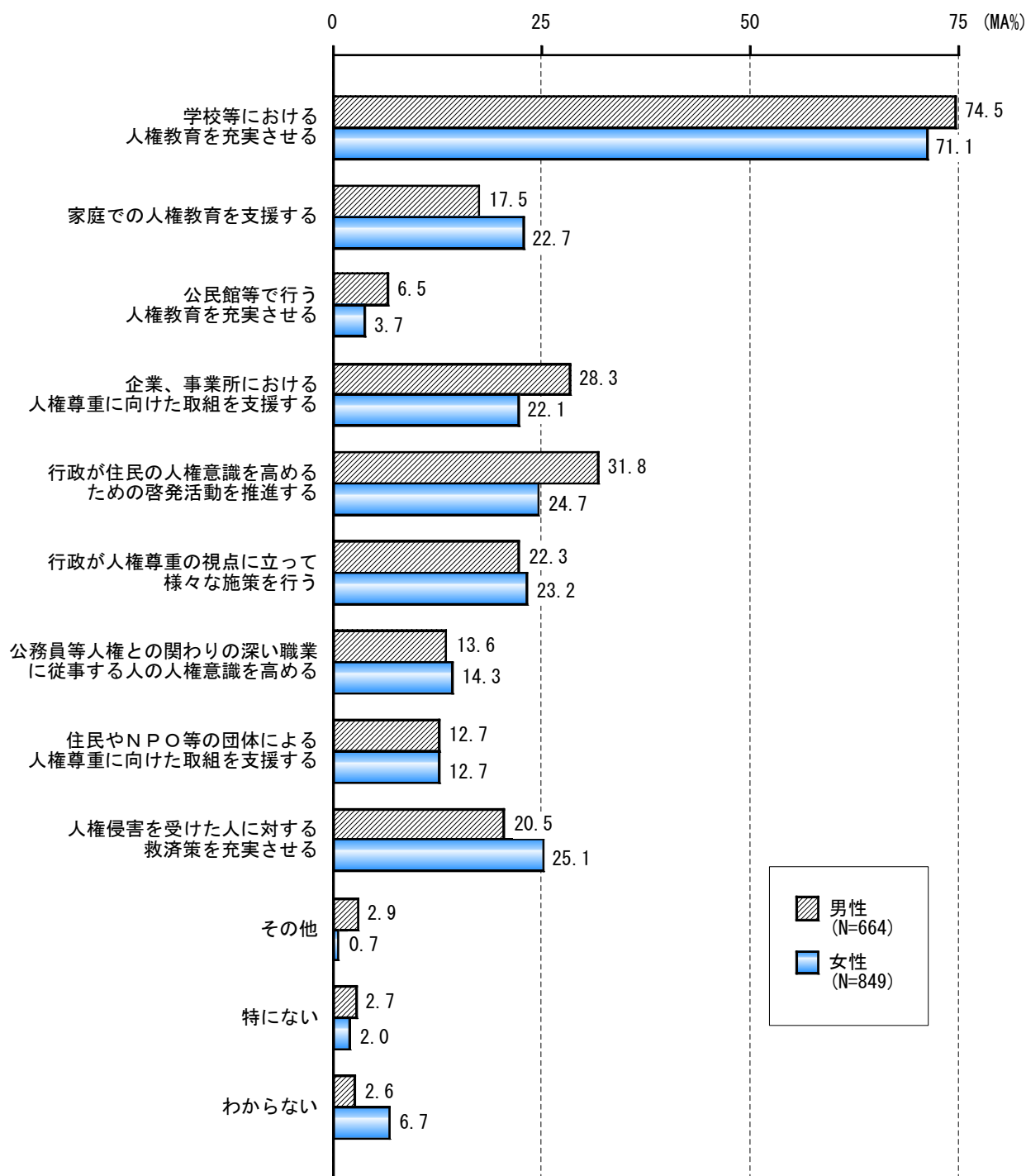
3. 人権が尊重される社会づくりに向けた施策

問15 あなたは、人権が尊重される社会を実現するために、どのような人権教育や啓発の施策が必要だと思いますか。特に重要と思われる番号を3つ以内で○をつけてください。



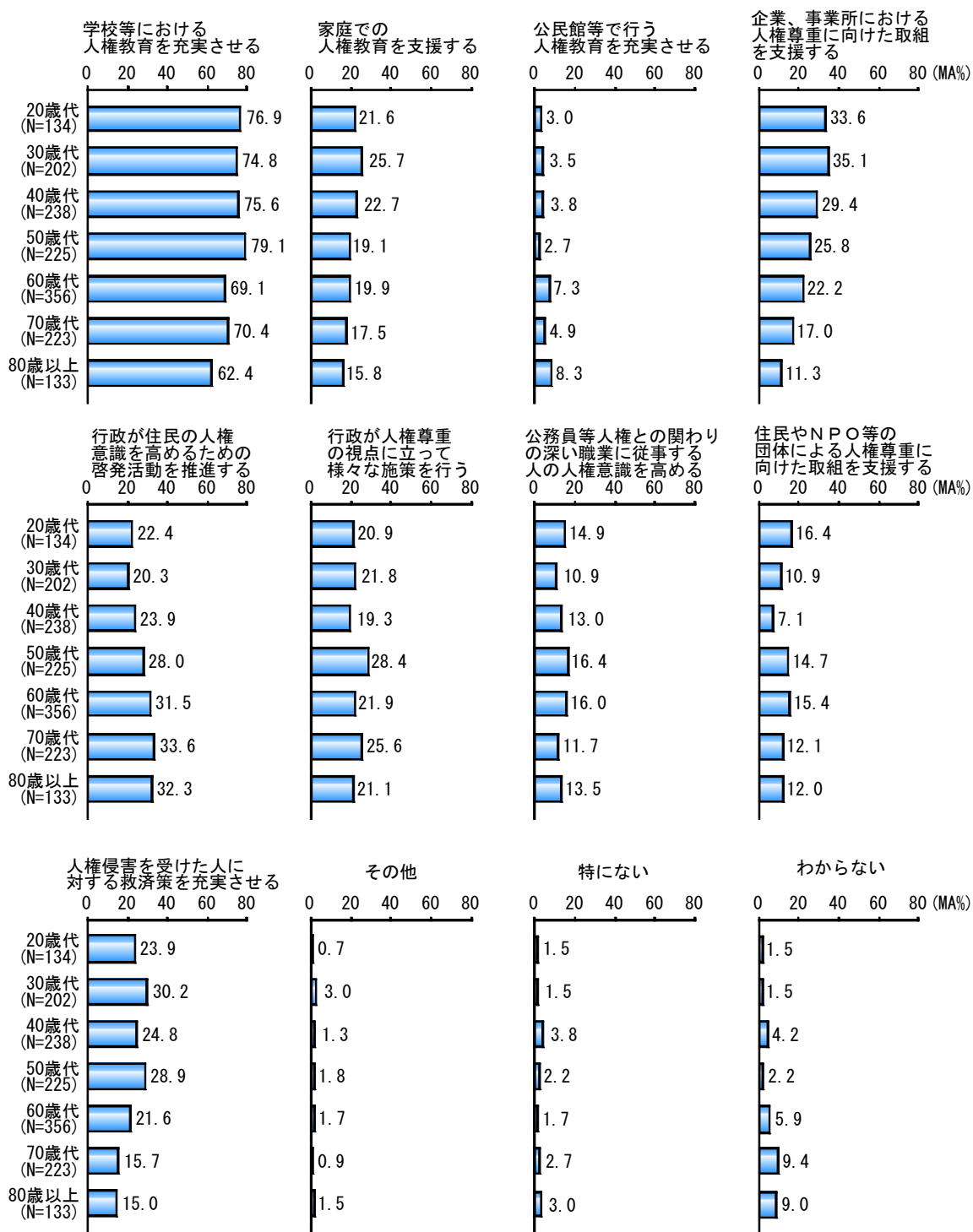
人権が尊重される社会を実現するために必要な人権教育や啓発の施策をたずねたところ、「学校等における人権教育を充実させる」が72.2%と最も高く、次いで「行政が住民の人権意識を高めるための啓発活動を推進する」27.8%、「企業、事業所における人権尊重に向けた取組を支援する」24.7%などとなっている。(図表 1-19)

【図表 1-19-1 性別 人権が尊重される社会づくりに向けた施策】



性別に人権が尊重される社会づくりに向けた施策をみたところ、「学校等における人権教育を充実させる」が男性で74.5%、女性で71.1%と、ともに最も高くなっている。これに続くのが、男性では「行政が住民の人権意識を高めるための啓発活動を推進する」で31.8%、女性では「人権侵害を受けた人に対する救済策を充実させる」で25.1%などとなっている。(図表 1-19-1)

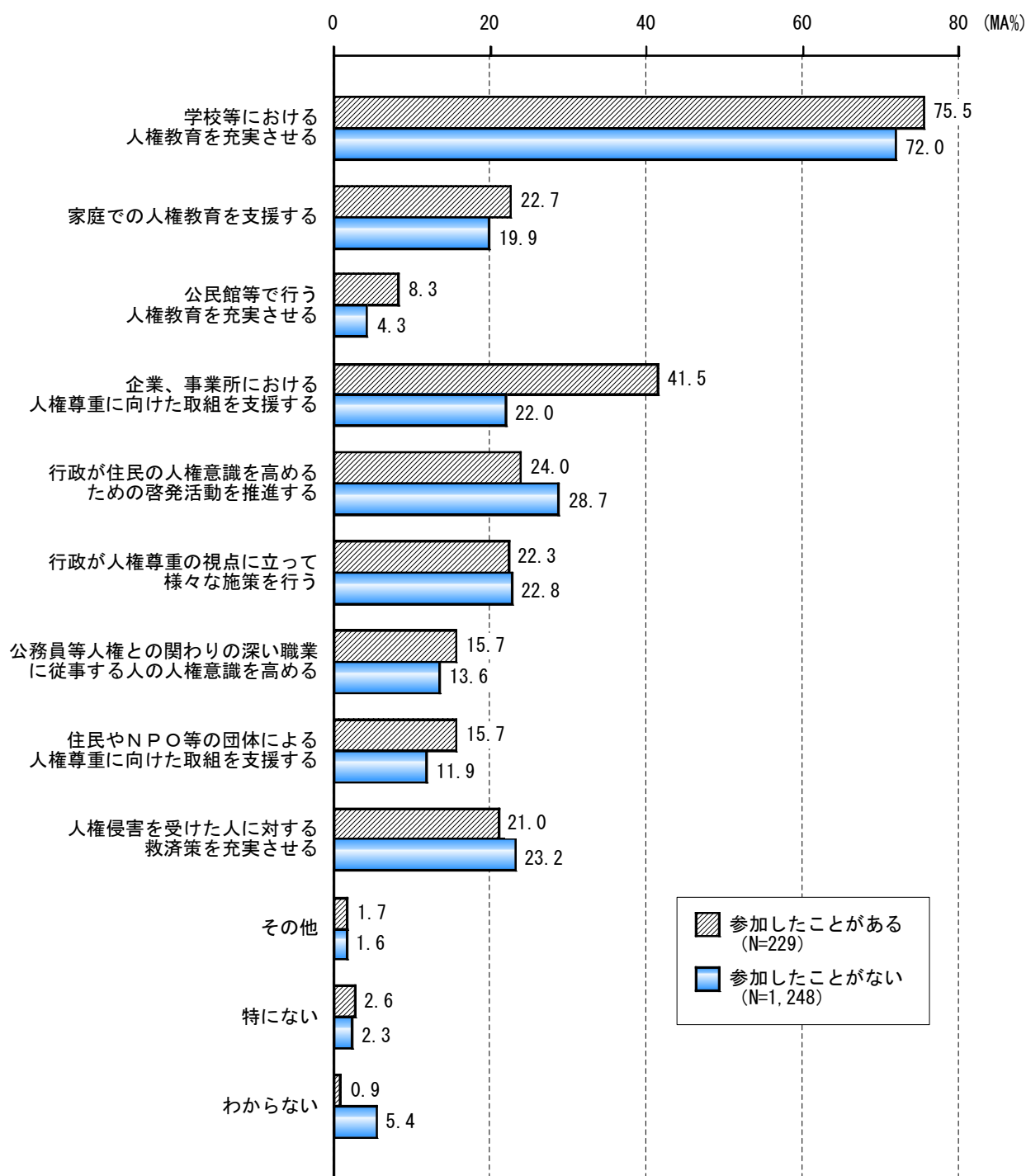
【図表 1-19-2 年齢別 人権が尊重される社会づくりに向けた施策】



年齢別に人権が尊重される社会づくりに向けた施策をみたところ、いずれの年代においても「学校等における人権教育を充実させる」が最も高く、特に50歳代で79.1%と高い。

また、「企業、事業所における人権尊重に向けた取組を支援する」が30歳代で35.1%、20歳代で33.6%と、他の年齢層に比べて高くなっている。(図表 1-19-2)

【図表 1-19-3 人権研修等への参加経験(問 11) 別 人権が尊重される社会づくりに向けた施策】



人権研修等への参加経験（問 11） 別に人権が尊重される社会づくりに向けた施策をみたところ、参加経験の有無にかかわらず、「学校等における人権教育を充実させる」が最も高く、参加したことがある人で75.5%、参加したことがない人で72.0%となっている。また、これに続くのが、参加したことがある人では「企業、事業所における人権尊重に向けた取組を支援する」で41.5%、参加したことがない人では「行政が住民の人権意識を高めるための啓発活動を推進する」で28.7%などとなっている。（図表 1-19-3）